

高度医療拠点を契機にした健康ツアー(ウェルネスツーリズム) 整備事業化プロジェクト (群馬県前橋市を中心とした周辺地域)

平成21年度 地方の元気再生事業

地域の現状と課題(提案の背景)

[地域の現状] 人口減少、高齢化の進行等による中心市街地の衰退、前橋市内と周辺温泉街との連携不足、医療機関同士の連携不足、県の低い知名度
[課題] 重粒子線がん治療施設をはじめとした恵まれた高度先端医療と地域医療並びに文化・歴史と周辺地域観光をいかに連携させて定住人口・流入人口を増加させ、安心・安全・快適な住みやすい市民がいきいき暮らせる街づくりを目指すか

目指すべき地方再生の全体

地方の元気再生事業

実施スケジュール

○取組のねらい・実施主体間の連携等

中心市街地で展開する健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」設置と病院・周辺温泉地と連携した「ウェルネスツーリズム」を一体的に実施することにより、健康に対する市民の意識の高揚を図りつつ、街中のにぎわいを回復させ、あらゆる人々が集う健康医療都市形成を行う。

○主な取組

取組：「ウェルネスツーリズム実施による事業化の推進」
(前橋商工会議所(財)群馬県観光協会、前橋観光コンベンション協会、バス事業者、群馬大学、上武大学等と連携))

取組内容
広報、プログラム提供及び、ツアー実施
見込まれる効果等
当地域初のウェルネスツアー等を実施により参加者の健康意識向上を図り、ツアーの有効性及び、事業化への体制を検証する。

取組：「健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」による交流事業の推進」
(前橋商工会議所(中心商店街、群馬大学、専門学校協会、病院等と連携))

取組内容
「いきいきまちの駅」の開設・試行
見込まれる効果等
「いきいきまちの駅」により、同様な認識を持った人々が共同して、日常の健康的な生活について情報交換できる場を提供する。

取組：「健康マイスター(健康づくりプランナー・健康運動指導士)育成研修会の実施」
(前橋商工会議所(前橋観光コンベンション協会、群馬大学、上武大学等と連携))

取組内容
ツアーを通じた実地研修、座学施設等での実習実施
見込まれる効果等
ウェルネスツーリズム健康増進プログラムの指導・助言を行う人材を育成する。

H21年9月
～
H21年10月
取組：プログラム提供体制、運営体制、ツアー実施体制検討
取組：運営体制、サービス内容の検討
取組：人材育成研修内容検討、
H21年10月
～
H21年2月
取組：いきいきまちの駅の開設・試行

H21年10月
～
H21年12月
取組：広報・プログラム提供及びツアーの実施
事前検診実施、健康増進プログラム提供、ツアーの実施
取組：人材育成研修の実施
ツアーを通じた実地研修実施、座学施設等での実習実施

H22年1月
～
H21年2月
取組：
●検証・課題抽出
●試行結果の評価
●今後の課題整理
●次年度実施項目検討

H22～
H23年
ツアーの事業化
情報発信拠点の恒常化
公共交通との連携の検討
まちなか処方箋(医療ネットワーク)確立の検討

H22年度以降の展開

□前橋商工会議所と大学・病院・民間企業の連携による事業化(H22～)

- 「ウェルネスツーリズム」から重粒子線がん治療施設等高度先進医療を核にした本格的な「メディカルツーリズム」の事業化、受入体制等の確立への調査・検証
- 中心市街地の文化発信・交流センターとしての「いきいきまちの駅」の恒常的な展開のための拠点確立の調査、開設

地方再生の目標像

「ウェルネスツーリズム」「いきいきまちの駅」の推進による地域活性化と「まえばし健康医療都市構想」の実現
中心市街地の活性化、地域医療ネットワーク(まちなか処方箋)の確立、観光客増加、新たな産業の創出

平成21年度地方の元気再生事業

「高度医療拠点を契機にした健康ツアー
(ウェルネスツーリズム)整備事業化プロジェクト」

報 告 書

平成22年3月

ウェルネスツーリズム推進協議会
経済産業省関東経済産業局

はじめに

本報告書は、ウェルネスツーリズム推進協議会が「平成21年度地方の元気再生事業」として取り組んだ「高度医療拠点を契機にした健康ツアー（ウェルネスツーリズム）整備事業化プロジェクト」に関する最終報告書である。

当協議会の代表団体である前橋商工会議所は、前橋市が掲げる理念「生命都市いきいき前橋」を踏まえて、人口減少・高齢化の進行する中で、生活者が健康でいきいきと暮らせる都市を目指すため、「検診・予防医療」「健康増進」「疾病治療」の3つを柱とする「まえばし健康医療都市構想」を平成20年3月に取りまとめた。この構想の特色は、歴史・文化ある前橋の市街地と多様な医療施設、周囲の豊富な自然環境・文化遺産、そして農畜産物等を組み合わせることにより、質の高い健康医療を提供すること、さらに首都圏より1時間圏内、周辺温泉地へ30分圏内という立地条件を有効活用することである。

「高度医療拠点を契機にした健康ツアー（ウェルネスツーリズム）整備事業化プロジェクト」は、本年度群馬大学内に完成した「小型重粒子線がん治療施設」の患者とその家族の受入体制整備や、市内の各医療機関・大学等が一体となって医学的見地の高い交流事業を展開することで、市内・県内はもとより首都圏からの人の流れを創り出すことにより継続的な都市の維持・成長を目指すプロジェクトである。また本プロジェクトは、「医療」「観光」「教育」などの要素を含む「健康」をキーワードに、地域活性化の総合的・専門的な運営システム、情報総合サービス窓口、ツアー開発や顧客創出の仕組みも構築する。

具体的な取組は、健康情報発信の拠点となる「いきいきまちの駅」の設置と「ウェルネスツーリズム」の推進であり、これらの実効性を高めるために、「健康マイスター（健康づくりプランナー・健康運動指導士）」育成研修会も実施した。本プロジェクトは、こうした取組によって、前橋を訪れるリピーターの確保を図ることにより、健康医療・文化交流から成る前橋独自の「健康医療都市」の実現、さらには前橋が中心となった群馬県全体の地域産業振興ならびに広域都市連携を目指すのである。

本報告書の以下の部分で明らかにする通り、プロジェクトの実施により前橋が「健康医療都市」の実現や群馬県全体の繁栄を追求するにあたっての大きな潜在的可能性をはじめ重大な課題や問題点が浮き彫りにされてきた。本プロジェクトに取り組んだことの最大の価値はそこに見出せる。我々は、単に1年間のプロジェクトを振り返るだけでなく、今後こうした潜在的可能性を最大限に生かすとともに、課題や問題点を克服するためにはどうしたら良いのかを真剣に議論・検討していかなければならない。本報告書はそうした「未来への決意」を込めて綴られたものである。

目 次

はじめに

第1章 プロジェクトの概要	1
1. 地域の課題と地域を取り巻く環境	3
2. これまでの取組状況	4
3. プロジェクトの目的	7
4. プロジェクトの具体的取組	7
5. プロジェクトの実施体制	10
6. 各種会議	17
第2章 ウェルネスツーリズム事業	21
1. 取組の目的	23
2. 取組の実施報告	25
A. あなただけの赤城山トレッキング	25
B. 前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅	35
C. 動物たちと遊んでみよう～友達づくりの第一歩～(ノンバーバルツアー)	43
D. 健康医療都市まえばしの旅	55
E. 50代からの「暮らし」をつくる旅	63
F. モニターツアー 湯の街伊香保 あなたも安心トレッキング	67
G. ウェルネスツーリズム “前橋発・最先端の放射線技術を探る”	77
H. 健康づくりウォーキングスクール “上毛電鉄沿線 前橋むかし物語ウォーク”	83
3. 取組の効果	90
4. 取組の検証	92
5. アニマルセラピーの検証	103
6. 今後の課題	109
7. 今後の目標	110
第3章 健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」交流事業	111
1. 取組の目的	113
2. 取組の実施報告	115
A. 健康講座・相談会の開設	115
B. 重粒子線照射施設の普及活動	122

C . 健康チェック	122
D . 検診事業	127
E . ウェルネスツーリズムの周知	129
F . 広報活動	129
G . いきいきまちの駅「スマイル」を利用したツアー	139
3 . アンケート結果	140
4 . 取組の効果	143
5 . 取組の検証	144
6 . 今後の課題	149
 第4章 健康マイスター育成事業	151
1 . 取組の目的	153
2 . 取組の実施報告	154
A . ノンバーバルツアー人材育成研修会(第1回)	154
B . ノンバーバルツアー支援者研修会	156
C . ノンバーバルツアー人材育成研修会(第2回)	157
D . ウォーキングツアー人材育成研修会(第1回)	160
E . ウォーキングツアー人材育成研修会(第2回)	161
F . 重粒子線がん治療施設に関わる人材育成研修会	163
3 . 取組の効果と今後の課題	166
 第5章 持続的な発展を目指して	167
1 . 本格的な事業化にあたっての課題	169
2 . プロジェクトの収益性と持続的経営の可能性	175
3 . 健康医療都市とヘルスツーリズムのあり方	182
4 . 重粒子線照射施設を中核とした地域再生	189
5 . いきいきまちの駅を「市民の学校」に	200
6 . プロジェクトの推進体制	203

おわりに

第1章 プロジェクトの概要

1. 地域の課題と地域を取り巻く環境

前橋市およびその周辺地域が直面している課題は、おもに次の3つの問題である。

少子高齢化が進む中で医療費の増加が懸念されており、それを抑制すべく健康増進への対策が求められていること。

前橋市の中心市街地の空洞化が急速に進行していること。

周辺地域での観光客入込者数が減少していることから、その活性化への緊急の取組が求められていること。

こうした課題解決に向け、前橋市では平成20年4月より中核市に移行し、同年策定した第6次総合計画「生命都市いきいき前橋」のもと、「元気で楽しい前橋」を創造すべく事業を進めている。前橋商工会議所がまとめた「まえばし健康医療都市構想」も、こうした理念ならびに市民の要望に合致したものであり、その意味では「市民協働型まちづくり」が推進可能な環境にあると言える。また、前橋市は平成21年5月に隣接する富士見村と合併したことにより、赤城山を活用した幅広い観光事業の展開が可能となった。前橋市周辺の他の観光地・温泉街とも緊密な連携体制を構築することにより、前橋市および群馬県の知名度は飛躍的に向上する可能性も秘めているのである。

2.これまでの取組状況

前橋商工会議所では、こうした地域の課題を解決するため、「まえばし健康医療都市構想」をまとめ、以下のようなさまざまな取組を実施してきた。

「健康医療都市・まえばし」創造プロジェクト委員会発足(平成17年7月)
市内の医療機関のネットワーク化と健康づくりや予防医療などの諸機能を有機的に連携させ、新しい魅力ある前橋を創造するための取組を行ってきた。

産学連携協議会(平成18年2月)
群馬大学・前橋工科大学・前橋商工会議所が科学と医療にまたがる分野の研究や街づくりを共同で実施してきた。

まちなかキャンパス構想の構築(平成18年～)
中心市街地にて、大学や専門学校等の授業や公開講座・シンポジウム・子ども科学教室などを実施し、子どもから高齢者までが学び・語らい、楽しめる環境整備を進め、日常的に中心市街地に多くの人々が集まり回遊する仕組みづくりを展開してきた。

地域開発・交通対策委員会に4つの小委員会発足(平成19年11月)
健康医療都市創造推進小委員会・まちなかキャンパス小委員会・交通対策推進小委員会・U-TOWN構想推進小委員会が発足した。

「地方の元気再生事業」への取組み(平成20年度)
「まえばし健康医療都市実現化プロジェクト」として健康をテーマとした「まちなかキャンパス」を大学や商店街等と連携して実施した。

「健康生活支援プロジェクト」の実施(平成20年～)
群馬大学教育学部、群馬大学附属病院との連携で、主に高齢者を対象に健康調査や実地体験の指導・実施し、健康増進の取組を行っている。

特に、 の「平成20年度地方の元気再生事業」では、次のような取組を推進してきた。

(1) まちなかキャンパス構想

子どもから高齢者までが学び、語らい、楽しめる環境とシステムを整備し生涯学習の場として恒常的に中心市街地に多くの人が集まり回遊する仕組みづくりと、講座を通して趣味や生きがいづくりに繋げ、生き生きと暮らせるきっかけをつくることを目的として207コマの講座を実施した。

本事業を実施した結果、人々が集まる効果的な仕組みであることが認知され、中心商店街の店主が自ら講師となるなど積極的に運営側に参画し始めたほか、商店街のポイントカード事業とのタイアップが図られるなど、専門店の新たな魅力付けによる顧客の開拓にも波及した。これは、当事業の推進委員会に商店街関係者も参加していただきながら、「健康医療都市構想」とこれに伴う効果を常に発信してきたことで商店街の顔(魅力)ともいべき店主自身や関係者の意識が「健康医療都市構想」を意識した活動へと変化したものと考えられる。また「健康」をキーワードにした講座を開催するにあたり、群馬大学附属病院や周辺の中核病院との連携、各種団体や関係機関との連携が図られたほか、市民の「健康」に対する意識付けを行った。さらには高齢化が著しく進む中心部の自治会をモデルに、今後の地域医療のあり方として「病院は病気になった人だけの施設ではない」をコンセプトとして、群馬大学教育学部並びに病院と当事業が連携し、分かりやすく、楽しく、そして科学的根拠のある健康維持・病気予防法を目指し、継続したメディカルチェックとエクセサイズを実施する全国初の「まちなか健康プログラム」が立ち上がった。

人が流れる仕組みを創り出すためにも常時人が集まれる場所、恒常的に使用できる拠点の整備が必要である。「健康増進」「医療」に傾注した講座の開催をさらに充実するためには、より充実した医療連携が求められ、しっかりとした運営主体の構築が必要となる。

(2) メディカルツーリズム構想(地域による医療連携観光の推進)

充実した医療機関、豊かな農畜産物(地産地消)、多くの自然や美しい景観、周辺に存在する日本有数の温泉など恵まれた地域資源を活用して事業関係者間の連携を図り、産学官民が一体となった前橋モデルを確立し、前橋圏内外の人々が集まる仕組みを構築するとともに、検診から治療までの医療サービスと地域資源が融合した国内発のメディカルツーリズムを目的に実施した。

本事業を実施した結果、高度医療と地域医療との連携が始まったほか、医療機関と温泉地・農産物生産者・飲食店・エージェンツ(バス事業者)との連携が生まれ、健康・医療に特化したツアーモデルを企画するなど地元エージェンツの誘客に対する意

識改革が始まった。また、歴史や文化など地域資源のPRとツアー参加者の健康意識の向上に繋がった。本取り組みを通して新しい観光資源の掘り起こしや「健康」をキーワードにツアーに関わる各施設や関係機関同士が連携した新たなツアープログラムが開発されたほか、従来不可能とされていた病院間同士の連携の可能性が見出せた。

検診だけではなく、検診から治療にいたるまでの医療連携サービスの体制づくりの構築や集客に伴う広報宣伝活動の強化、地元エージェントのさらなる意識改革と企画力の強化、受け入れに対応した人材を育成すること等が、課題として残った。

(3)「まえばし健康医療都市構想」のモデル構築シンポジウム

「まちなかキャンパス」「メディカルツーリズム」の周知とともに「健康医療都市構想」を前橋市民はもとより県外の方々にも理解してもらうため前橋市の提唱する「生命都市いきいき前橋」を実現化するための講演会やパネルディスカッションのシンポジウムを開催した。

本事業の推進により、首都圏の方々へ「健康医療都市まえばし」をPRし、重粒子線治療施設や多くの地域資源の情報発信が可能となった。また、シンポジウム開催の際には、「健康」をキーワードに医療機関や食に関する機関、スポーツ関連機関、周辺温泉地、大学や専門学校、エージェント等の連携が可能となり、地域力の情報発信ができた。

3. プロジェクトの目的

前年度の「地方の元気再生事業」の成果と課題を踏まえ、中心市街地で展開する健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」設置と医療機関・周辺温泉地等と連携した「ウェルネスツーリズム」を一体的に実施することにより、健康に対する市民の意識の高揚を図りつつ、前橋プラザ元気21に集まる方々を外へ誘導するきっかけの拠点として街中のにぎわいを回復させ、あらゆる人々が集う健康医療都市形成を行うことが、本プロジェクトの目的である。

市内の医療機関と大学等が連携した本格的な医療・検診をはじめ医学的見地の高いウェルネスツアーを実施することで、ウェルネスツーリズムの定着・事業化を図り、健康に配慮した受入体制を準備するとともに群馬大学の「重粒子線がん治療施設」を中心とした「メディカルツーリズム」へと発展を図る。また、中心市街地にツアー情報や検診、各種相談、健康・医療に関する講座等のインフォメーション機能(まちの駅)を設置することにより、ウェルネスツアー等の情報発信基地および常に人が集まるシステムを構築することで中心市街地を活性化させる。

4. プロジェクトの具体的取組

具体的な取組としては、以下の通り、「ウェルネスツーリズム実施による事業化の推進」「健康情報発信拠点いきいきまちの駅による交流事業の推進」「健康マイスター(健康づくりプランナー・健康運動指導士)育成研修会の実施」を柱に展開した。

(1) ウェルネスツーリズム事業の推進

実施主体

ウェルネスツーリズム推進協議会(後述する通り、前橋商工会議所、群馬県、前橋市、(財)前橋観光コンベンション協会、(財)群馬県観光国際協会、大学等の連携組織である)。

目標

良い生活習慣を身につけて健康的な生活を送るための健康プログラムを医療機関

等と連携してオーダーメイド提案するとともに、実地体験していただけるようなツアーを企画・実施する。またツアー終了後も健康面についてフォローアップを行い、リピーターを確保できる仕組みづくりの構築を図ることを目標とする。

内容

下記事業を具体的に実施するとともに、経費・収益性の検討、自治体等の協力によるPR方法を検討し事業化に向けた課題や事業スキームの確立を行う。

- 群馬大学等の医学的見地からのウェルネスプログラム供給体制の検討
- ウェルネスツアー運用体制の検討
- 重粒子線がん施設視察ツアーの実施体制検討
- 事前検診実施、健康増進プログラム提供、ツアーの広報周知、ツアー実施
- 検証・課題抽出、試行結果の評価
- 今後の課題整理、次年度実施項目の検討

(2) 健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」交流事業の推進

実施主体

ウェルネスツーリズム推進協議会

目標

ウェルネスプログラムとの連携事業を確立するとともに、市民・観光客等の情報発信・交流拠点としての機能を持たせ、中心市街地への流入人口を増加させ賑わい性の創出を図ることを目標とする。

内容

中心市街地に交流拠点を設置し、ウェルネスツアーと連動した講座の開催やツアー情報の発信、重粒子線がん治療や健康増進等に関する情報発信を行う。さらに交流拠点では群馬大学教育学部・医学部や市内医療機関・医師等との連携・協力のもと、ウェルネスプログラムに関する総合相談窓口を設置し、プログラムの提供およびその効果・検証サービスも行う。

- 設置場所・運営体制、提供サービス内容検討、広報活動内容検討
- 「いきいきまちの駅」の開設
- ウェルネスプログラムに関する総合相談窓口の設置

- ・ウェルネスツアー情報の発信
- ・ウェルネスツアーと連動した講座開催
- ・ウェルネスプログラムの効果・検証サービスの実施
- ・重粒子線治療に関する情報提供の実施
- 検証・課題抽出試行結果評価
- 今後の課題整理、次年度実施項目の検討

(3) 健康マイスター育成研修会の実施

実施主体

ウェルネスツーリズム推進協議会

目標

ウェルネスツーリズム健康増進プログラムの指導・助言を行う健康マイスターの育成を図ることを目標とする。

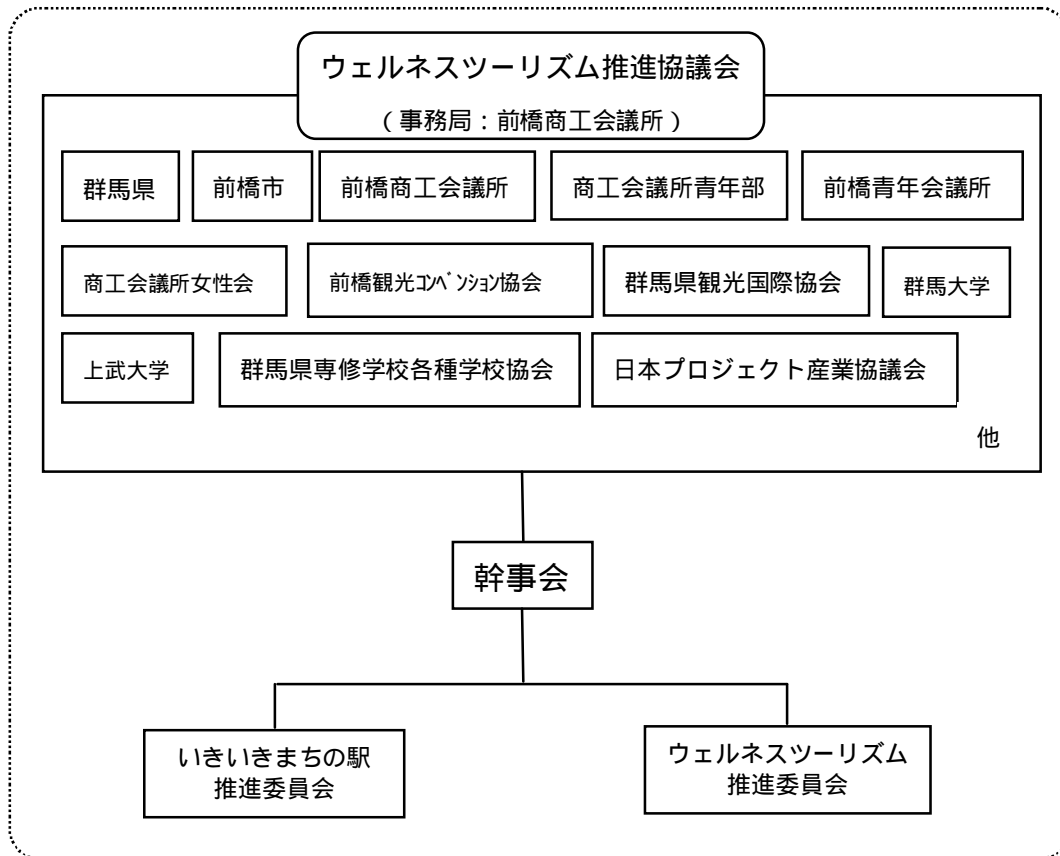
内容

健康増進指導・管理を大学等の専門家に指導を依頼するだけでなく、市民の中から指導的知識を持った人材を育成し、ウェルネスツアーの説明や助言できる体制を整え、さらに健康講座の講師として継続的に健康プログラムに取り組めるスキームを構築する。また同時に、重粒子線がん治療施設に関する知識を持つ人材育成と国内外の視察者への対応やPRを円滑に推進するスキームも構築する。

- ウェルネスツアーに関わる人材育成研修の検討
- 重粒子線がん治療施設に関する人材育成研修の検討
- ウェルネスツアーに関わる人材育成研修の実施
- 重粒子線がん治療施設に関わる人材育成研修の実施
- 検証・課題抽出(アンケート調査等を基に)、試行結果の評価
- 今後の課題整理、次年度実施項目の検討

5. プロジェクトの実施体制

プロジェクトの実施主体となる「ウェルネスツーリズム推進協議会」は、地元の自治体、大学、各種団体による連携組織である。



協議会に所属する各組織の役割分担は、以下の通りである。

群馬県：産業経済部産業政策課を窓口、全体の取り組みに対して指導・調整

前橋市：政策部政策推進課を窓口、全体の取り組みに対して指導・調整

群馬県観光国際協会：ウェルネスツーリズムに対して連携・情報発信提供

前橋観光コンベンション協会：ウェルネスツーリズムに対して連携・情報発信提供

群馬大学・上武大学：医療連携・人材育成等に対して協力・支援

日本プロジェクト産業協議会：全体の取り組みに対して指導・調整

群馬県専修学校各種学校協会：健康マイスター育成研修会実施にあたっての各種協力

会議所青年部・会議所女性会・青年会議所：交流発信拠点整備の企画・運営協力

前橋商工会議所（地域産業政策課）：責任者となり全体運営を行う

なお、3つの取組の総合調整・進捗管理は、前橋商工会議所地域産業政策課ならびに幹事会が担当する。また事業の核となる「いきいきまちの駅」と「ウェルネスツーリズム」については、協議会の下にそれぞれ推進委員会を設置して事業推進に関する企画調整等の協議を行う。協議会・幹事会・委員会を随時開催し、当初予定していた計画通り各取組が進捗しているか、設定した目標の達成状況等をメンバー全員で共有する。

協議会・幹事会・委員会のメンバーは次の通りである。

ウェルネスツーリズム推進協議会 委員名簿

役職	氏 名	公 職 名
会 長	曾我 孝之	前橋商工会議所 会頭
副会長	高田 邦昭	群馬大学 学長
副会長	中島 利郎	群馬県専修学校各種学校協会 会長
監 事	鈴木 守	上武大学 学長
監 事	楯 政江	前橋商工会議所女性会 会長
委 員	柿沼 伸司	群馬県 産業経済部長
委 員	板井 稔	前橋市 政策部長
委 員	田村 亮一	(財)群馬県観光国際協会 理事長
委 員	田中 靖幸	(財)前橋観光コンベンション協会 専務理事
委 員	鈴木 利定	群馬社会福祉大学 学長
委 員	真柄 智	(社)前橋青年会議所 理事長
委 員	前田 修	前橋商工会議所青年部 代表幹事
委 員	横山 義隆	(社)日本プロジェクト産業協議会
委 員	森 正樹	(社)日本プロジェクト産業協議会

幹事会 委員名簿

氏 名	会 社 名 ・ 役 職 名
高浦 孝好	地域開発・交通対策委員会 委員長
三原 豊章	地域開発・交通対策委員会 副委員長 交通対策推進小委員会 リーダー
板垣 忍	地域開発・交通対策委員会 副委員長 健康医療都市創造推進小委員会リーダー
吉岡 慧治	地域開発・交通対策委員会 委員 まちなかキャンパス推進小委員会リーダー
橋本 実	地域開発・交通対策委員会 委員 U-TOWN まえばし推進小委員会リーダー
平形 和久	(学)昌賢学園 群馬社会福祉大学附属医療福祉専門学校 事務長
武内 康弘	NPO法人群馬コンgresサポート 代表
横山 義隆	(社)日本プロジェクト産業協議会

ウェルネスツーリズム推進委員会 名簿

氏 名	会 社 名 ・ 役 職 名
板垣 忍	(株)板垣労務管理事務所 代表取締役
三原 豊章	三原工業(株) 代表取締役社長
小野里 重次郎	小野里電気(株) 代表取締役
小林 要一	小林工業(株) 代表取締役社長
山田 美光	(株)山田工務所 代表取締役
野口 勤	群馬県産業経済部観光物産課長
福田 清和	前橋市政策部 政策推進課長
渡辺 一彦	前橋観光コンベンション協会
寺石 雅英	群馬大学社会情報学部 副学部長
一戸 真子	上武大学看護学部 教授
吉川 真由美	吉川まゆみ事務所
江原 友樹	(株)天原社 代表取締役
千吉良 功	(株)ランド計画研究所 代表取締役
武内 康弘	NPO法人群馬コンgresサポート 代表
山下 正幸	(株)粒子線医療支援機構 取締役社長室長
宮崎 信雄	(財)群馬県観光国際協会 観光部長
奈良 力男	富士見商工会 会長
井上 芙美子	前橋商工会議所女性会
加藤 宏子	前橋商工会議所女性会
池下 敦洋	前橋商工会議所青年部 副代表幹事
庭野 幸造	(社)前橋青年会議所

いきいきまちの駅 推進委員会 名簿

氏 名	会 社 名 ・ 役 職 名
吉岡 慧治	三陽測量(株) 代表取締役
橋本 実	前橋橋本合金(株) 代表取締役社長
菊川 善明	菊川工業(株) 代表取締役社長
高橋 秀一	鶴川興業(株) 代表取締役社長
中島 利郎	学校法人有坂中央学園 理事長
中村 博	中部県民局 中部行政事務所長
山口 修	前橋市商工観光部 にぎわい商業課長
寺石 雅英	群馬大学社会情報学部 副学部長
一戸 真子	上武大学看護学部 教授
平方 宏	平方木材(株) 代表取締役社長
山崎 勝之	VANデザインセンター 取締役社長
萩原 香	(有)萩原構造計画事務所
平形 和久	(学)昌賢学園 群馬社会福祉大学附属医療福祉専門学校 事務長
中森 隆利	(株)ピアノプラザ群馬 代表取締役
深井 浩	(株)リョウモウ 代表取締役
須田 耕司	(株)アリギス 代表取締役
植木 修	中心商店街(前橋中心商店街(協)理事長)
青木 哲	中心商店街(株)スズラン前橋店 副店長)
飯塚 伸彦	中心商店街(中央通り商店街振興会)
大川 優	中心商店街(立川町大通り商店街振興組合)
大橋 慶人	中心商店街(前橋中心商店街(協)副理事長)
岡部 好弘	中心商店街(豎町商交会)
岸 篤美	中心商店街(弁天通り商店街振興組合)

北原 雄一郎	中心商店街(馬場川通り親交会)
坂本 敏	中心商店街(銀座一丁目商店街振興組合)
戸崎 豊	中心商店街(千代田通り振興会)
白波瀬 哲郎	中心商店街(銀座商交会)
佐脇 寛美	中心商店街(前橋中心商店街(協)ポイントカード事業)
高橋 澄江	前橋商工会議所女性会
関口 和子	前橋商工会議所女性会
町田 憲昭	前橋商工会議所青年部 副代表幹事
原 徹	(社)前橋青年会議所 専務理事

6. 各種会議

(1) ウェルネスツーリズム推進協議会

日時: 11 月 2 日(月) 午後 1 時 30 分

会場: 前橋商工会議所 3 階 アイビー

出席者: 協議会委員 10 名、幹事会委員 4 名、オブザーバー 4 名、事務局 10 名

議題: (1) 規約及び運営体制について

(2) 内閣府: 地方の元気再生事業「高度医療拠点を契機にした健康ツアー(ウェルネスツーリズム)整備事業化プロジェクト」について

(3) その他について

(2) 幹事会

日時: 9 月 30 日(水) 午後 5 時

会場: 前橋商工会議所 2 階 議員サロン

出席者: 委員 4 名、事務局 8 名

議題: (1) 平成 21 年度地方の元気再生事業について

今までの経緯について

組織について

各事業について

(2) その他について

(3) ウェルネスツーリズム推進委員会

【第 1 回】

日時: 10 月 13 日(火) 午後 4 時

会場: 前橋商工会議所 3 階 第一委員会室

出席者: 委員 12 名、幹事 3 名、事務局 7 名

議題: (1) 平成 21 年度地方の元気再生事業「高度医療拠点を契機にした健康ツアー(ウェルネスツーリズム)整備事業化プロジェクト」について

(2) ウェルネスツーリズム事業内容について

(3) その他について

【第 2 回】

日時: 11 月 9 日(月) 午後 3 時

会場: 前橋商工会議所 3 階 第二委員会室

出席者: 委員 15 名、幹事 4 名、事務局 10 名

- 議題: (1) ウェルネスツーリズム推進協議会の開催について
(2) これまでに実施したウェルネスツアーについて
(3) 今後実施するウェルネスツアー内容について
(4) その他について

【第3回】

- 日時: 12月15日(火) 午後4時
会場: 前橋商工会議所 3階 第一委員会室
出席者: 委員12名、幹事2名、事務局11名
議題: (1) これまでに実施したウェルネスツアーについて
(2) 今後実施するウェルネスツアー内容について
(3) その他について

【第4回】

- 日時: 2月5日(金) 午後3時30分
会場: 前橋商工会議所 3階 第一委員会室
出席者: 委員11名、幹事2名、事務局10名
議題: (1) 1月に実施したウェルネスツアーについて
(2) ノンバーバルツアーから障害者団体の受入れについて
(3) 今後実施するウェルネスツアー内容について
(4) その他について

(4) いきいきまちの駅推進委員会

【第1回】

- 日時: 10月13日(火) 午後2時
会場: いきいきまちの駅 2階
出席者: 委員12名、幹事3名、事務局7名
議題: (1) 平成21年度地方の元気再生事業「高度医療拠点を契機にした健康ツアー(ウェルネスツーリズム)整備事業化プロジェクト」について
(2) いきいきまちの駅事業内容について
(3) 「いきいきまちの駅」愛称について
(4) その他について

【第2回】

- 日時: 11月9日(月) 午後7時
会場: いきいきまちの駅 2階
出席者: 委員15名、幹事1名、事務局4名

- 議題:(1)いきいきまちの駅 HP について
(2)事業内容進捗状況について
(3)今後の事業展開について
(4)その他について

【第 3 回】

- 日時:12 月 1 日(火) 午後 7 時
会場:群馬社会福祉大学附属医療福祉専門学校 会議室
出席者:委員 8 名、幹事 1 名、事務局 4 名
議題:(1)いきいきまちの駅 HP について
(2)事業収入について
(3)その他について

【第 4 回】

- 日時:1 月 18 日(月) 午後 7 時
会場:いきいきまちの駅 2 階
出席者:委員 13 名、幹事 1 名、事務局 6 名
議題:(1)広報活動について
(2)事業収入について
(3)その他について

【第 5 回】

- 日時:2 月 15 日(月) 午後 7 時
会場:いきいきまちの駅 2 階
出席者:委員 11 名、幹事 1 名、事務局 6 名
議題:(1)健康調査について
(2)来年度に向けて
(3)その他について

【第 6 回】

- 日時:3 月 15 日(月) 午後 7 時
会場:いきいきまちの駅 2 階
出席者:委員 13 名、幹事 2 名、事務局 4 名
議題:(1)今年度の事業報告について
(2)今後について
(3)その他について

第2章 ウェルネスツーリズム事業

1. 取組の目的

病院、大学等の支援による事前健診の実施、健康増進プログラムの提供による健康意識向上、平成22年3月に治療開始予定の群馬大学の重粒子線がん治療施設等へのツアーを実施し、経費・収益性およびPR方法等を検討し事業化に向けた課題や事業スキームの確立を行う。

大学・病院等の医学的見地からのウェルネスプログラム供給体制の検討

ウェルネスツアー運用体制の検討

重粒子線がん治療施設視察ツアーの実施体制検討

事前健診の実施や健康増進プログラムの提供、重粒子線がん治療施設等へのツアーに対する広報周知、プログラム提供およびツアー実施

具体的には次のようなツアーを実施した。

(A)「あなただけの赤城山トレッキング」～あなただけの山歩きを応援します～

体力測定および検診により、個々の体力を把握するとともに、健康プログラムの提供とトレッキングに対する正しい歩き方等の指導

実施日：平成21年10月26日(月)～27日(火) 1泊2日 参加者：5名

場 所：県立心臓血管センター、青木旅館、赤城山トレッキング、富士見温泉ふれあい館

(B)「前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅」

がんに対する正しい認識と重粒子線治療の情報提供および前橋のPR

実施日：平成21年11月4日(水) 日帰り 参加者：25名

場 所：いきいきまちの駅、臨江閣、群大重粒子線医学研究センター、敷島公園ばら園

(C)「動物たちと遊んでみよう」～友だちづくりの第一歩～

知的障害者へのアニマルセラピーの効果検証および地域受入システムの構築

実施日：平成21年12月5日(土)～6日(日) 1泊2日

参加者：障害者8名、家族5名、群馬大学教授および学生15名

場 所：世界の名犬牧場、馬事公苑、赤城少年自然の家、富士見温泉ふれあい館

(D)「前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅」

がんに対する正しい認識と重粒子線治療の情報提供および前橋のPR

実施日:平成21年12月7日(月) 日帰り 参加者:33名

場 所:フラワーパーク、とんとん広場、群大重粒子線医学研究センター、いきいき
まちの駅、原嶋屋、群馬県庁

(E)「前橋発・最先端の放射線技術を探る」

放射線技術とがんに対する正しい認識および重粒子線治療の情報提供、前橋
周辺のPR

実施日:平成22年1月22日(金)～23日(土) 参加者:6名

場 所:日本原子力研究開発機構、群大重粒子線医学研究センター、富士見温
泉ふれあい館、土屋文明記念文学館、かみつけの里博物館、日本絹の
里

(F)「50代からの『暮らし』をつくる旅

住んで安心を実現できる街「前橋」を実地体験するツアー

実施予定日:平成21年12月18日(金)～20日(日)

(企画・募集を行ったものの、参加者が集まらず中止)

(G)モニターツアー:湯の街 伊香保「あなたも安心トレッキングツアー」

各メディアに対してトレッキングツアーを体験していただき、本取組の紹介および
広報宣伝

実施日:平成22年1月15日(金)～16日(土) 参加者:4名

場 所:群馬県立心臓血管センター、群大重粒子線医学研究センター、福一、伊
香保森林コース散策、そば打ち

(H)健康づくりウォーキングスクール“上毛電鉄沿線 前橋むかし物語ウォーク”

(社)日本ウォーキング協会公認講師が歩く基本姿勢などを指導。地元案内人が
昔話や逸話を交えながらコース案内。

実施日:平成22年3月13日(土)

場所:A コース 新陰流 流祖 剣聖上泉伊勢守の歴史をひもとく編(上泉周辺)
参加者:5名

B コース 粕川の歴史・城跡を巡る編(粕川周辺) 参加者:12名

2. 取組の実施報告

A. あなただけの赤城山トレッキング

日 程:平成 21 年 10 月 26 日(月)～27 日(火)

参加費:16,000 円

参加人数:5 名

参加募集:前橋商工会議所女性会へ協力依頼、一般市民は 2 名

実施事業者:東日本ツーリスト

(1) ツアーの目的

自分の現在の体力を知る、トレッキングの基礎知識を学ぶ(体力を知らずに登山をして怪我や事故などを起こす事例がある)

健康増進・病気予防のために自宅でできる運動プログラムの提供

(自宅で体力増進を図っていただき、健康づくりのために運動を日常生活に取り入れていただくため)

自然のなかで過ごすことで、心身を癒しリフレッシュしていただく

(登山を達成したことによる達成感やチャレンジする気持ちが生まれることによる生きがい感を持つ)

富士見商工会との連携により、今までに無い観光資源や人材の掘り起こしを図るとともに、新しい観光事業の創出に繋げる。

(2)実施タイムスケジュール

	時 間	場 所	内 容
2 6 日 ・ 月 曜 日	8:00～ 8:50頃	前橋商工会議所駐車場	集合・出発 アミラーゼ検査 到着
	9:00～9:40	群馬県立 心臓血管センター	受付・オリエンテーリング・着替え 体力チェック・ウォーキング指導
	9:40～12:00		食事・休憩
	12:00～13:00		各チェック結果による指導、個別 コース選択
	13:00～14:00		
	14:10～14:40	移動(バス乗車)	
	14:40～16:30	さくらの里公園(雨天中止)	周辺の散策～木の家
	16:40～17:00	移動(青木旅館へ)	
	17:00～17:40	チェックイン	事務局から事務連絡
	17:40～18:30	休憩	
	18:30～20:00	夕食	
	20:00～20:40	赤城の歴史(講話)	青木旅館主人
	21:00～	就寝	
2 7 日 ・ 火 曜 日	7:00～8:00	朝食	
	8:00～8:20	チェックアウト	集合・出発
	9:00～11:40	覚満淵・小沼コース 鍋割山コース(天候不良中止)	青木旅館主人 大熊 大熊
	12:10～ ～14:30	ふれあい館 効果測定	アンケート アミラーゼ検査 食事・休憩・温泉
	14:30～15:00	移動	
	15:00～	前橋商工会議所	解散



■ 体力測定



■ 講義：体力測定結果の説明会



■ 講義：歩き方講座



■ 赤城山トレッキング模様

(3) 詳細と反省点

総合案内について

本ツアーの案内役である富士見温泉ふれあい館の山田支配人との事前打合せ・調整が不十分だったので、各施設・バス会社等との役割が明確になっていなかった。

赤城山の小沼・鳥居峠・覚満淵コースであれば、専門家でなくても見所や絶景ポイントや注意点等の教育訓練を受ければ案内をすることが出来ることがわかった。

山田支配人は経験と人柄からして、ツアーコーディネーターに適任である。

同様の実力を有した人材の発掘と実地研修が必要である(市・商工会の退職者、商工会関係者 etc.)。

群馬県立心臓血管センターについて

検診内容による時間的な問題や、対応する医師や健康運動指導士、病院のキャパシティから参加者の受入人数は 10 名程度が最適であると確認された。また、個別相談時間が少なかったように思われるが、健康運動指導士、ドック担当医からの個別相談を受けられるので安心である。

検診及び体力チェック内容は、トレッキングを始めるために十分なデータであった。

身体チェック 身長、体重、血圧、脈拍、体脂肪率

体力チェック 柔軟、腹筋(30 秒で何回)、開眼片足立位(120 回のカウントのうち何回できるか)

運動量の加減 年齢によっては、少々きつい検査内容

日常生活の中で行う歩き方とトレッキングのための歩き方の違い、なぜ平地と山道では歩き方を変えるのか、効率的な有酸素運動として歩くための心拍数の簡単な計算の仕方等、参加者が欲しい情報が資料として提供することにより理解しやすかった。

ただ、参加者個々の歩き方の癖を直せるような指導がない。 検討課題。

昼食は、人間ドック専用のメニューとなっていたため、午後のスケジュール(周辺散策等)を考慮したメニュー(カロリー値)の提供が必要と思われる。 検討課題
健康運動指導士等への謝礼支払をどう押さえられるかが検討課題である。

周辺散策、トレッキングコースについて

栗太郎(栗の大木)は車窓からの案内となったが、散策コースからは外れているため、今後のコースづくりで考慮する。

小沼・鳥居峠・覚満淵コースは、小学生にもできるコースであり、登りの負担が最小限でなだらかなため、ひざへの負担も少なく、初心者に最適なコースである。また、景色も楽しめる(休憩場所での富士山とサンシャインビル群の眺めは感動的)。

小沼 1 周 小地蔵脇 鳥居峠 覚満淵半周 昭和天皇の句碑
ビジターセンター

休憩時間の取り方やペース配分には注意が必要。

熊など危険動物への対処方法を事前に説明することが必要であった。

案内人の説明を行う効果的なタイミングを考えた方が良い。

旅館について

地元で取れた食材を多く使った料理を女将さんの説明とともに提供していただき、参加者からは非常に好評であった。

悪天候のため夜景見学が中止になってしまったが、館主のご好意により、赤城山の歴史・いわれ等を説明していただき、赤城山の魅力を更に見出せ、翌日のトレッキングに弾みがついた。

朝食とは別に、トレッキング途中に小腹が空いた時用の特別メニューを提供してもらえた。ちょっとしたサプライズ的なサービスを提供することができ、参加者はとても喜んでいた。

全体について

富士見地区は屋外ばかりなので、雨天の場合の代替案は難しい。

ただし、清山(陶芸 木曜定休)体験教室であれば受入れ可能。

季節によって、コースを工夫する必要がある。さくらの里以外は、フラワーパークなどで歩くのも良い。

中高年者に対しては、心臓血管センターの各チェック後のスケジュールは、ゆったりしたものを提供したほうが良い。

交通手段の選択により低料金(中央前橋駅～心臓血管センター前駅は片道 290円)に抑えられるが、センターから赤城山への直通が無い等、公共交通機関の充実が必要である。但し、公共交通機関にて移動する場合は、センターの検診用ウェアやトレッキングなど手荷物が多いため移動が大変になる。

【群馬県立心臓血管センターでの検診】

-

【宗廟山室内人がら】

注意 湯洗、防護服、タオル、家庭用機となる食洗機、お風呂用、飲料水等

関東平野が見渡せるどっしりとした山形で展望に恵まれた山です。真駒原車場登山口にはトイレも完備されています。自標とミズナラの樹林帯につつまれた歩きやすい山道が続きます。10月の下旬の紅葉シーズンの景色も美しく、眼下に広がる関東平野の眺めは圧巻です。道がよければ富士山や南アルプスにも出会えます。

大沼の南側に位置する三ノ坪湖のような温帯。歩きやすい本道になっています。野鳥がたくさん訪れるため野鳥観察も楽しめます。

モリナラが美しく、森林浴が楽しめるハイキングコースです。増田山、長七郎山、黒
壁山や駒ヶ岳を眺めながら、神秘的な洞を気軽に回れます。

● 國際社會對台灣民主化與人權保障的關注，已成為「台灣因素」的重要組成部分。

大島、赤嶺山の標高がその北麓と、日光東照宮の神域(大庭の北麓)が戦場。併せて戦い、戦つた人々が赤嶺山に降り、その西で山が雲に染まり、以来「赤き山」と呼ばれるようになったといわれている。



31

(4) アンケート調査

ツアー後に行ったアンケートの結果は以下の通りである。

性別		年齢層		職業	
項目	人数	項目	人数	項目	人数
男	1	10代	0	学生	0
女	4	20代	0	会社員・会社役員	2
NA	0	30代	0	公務員	0
合計	5	40代	1	自営業	1
		50代	1	専業主婦	0
		60代	1	無職	2
		70代	2	フリーター	0
		80代	0	その他	0
		90代	0	NA	0
		NA	0	合計	5
		合計	5		

Q1. 以下の各内容について「健康」を維持するためにはどの程度重要だと考えていますか。

栄養		運動		睡眠		積極的な休養	
項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数
とても重要である	4	とても重要である	2	とても重要である	3	とても重要である	3
重要である	1	重要である	3	重要である	2	重要である	2
どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0
あまり重要でない	0	あまり重要でない	0	あまり重要でない	0	あまり重要でない	0
重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0
NA	0	NA	0	NA	0	NA	0
合計	5	合計	5	合計	5	合計	5

Q2. 以下の各内容について、どの程度「ストレス」を感じることがありますか。

人間関係		自身の病気や身体症状		忙しさや時間管理		経済的問題を含む生活全般		気候、災害などの自然環境	
項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数
とても重要である	1	とても重要である	0	とても重要である	2	とても重要である	1	とても重要である	2
重要である	3	重要である	2	重要である	2	重要である	2	重要である	1
どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	1	どちらとも言えない	1	どちらとも言えない	1	どちらとも言えない	0
あまり重要でない	1	あまり重要でない	2	あまり重要でない	0	あまり重要でない	1	あまり重要でない	2
重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0
NA	0	NA	0	NA	0	NA	0	NA	0
合計	5	合計	5	合計	5	合計	5	合計	5

Q3. 以下の各内容について、人間が生きていくうえでどの程度重要だと思いますか。

信頼できる人間		生きる目的や夢		宗教や信念		お金などの財		健康であること	
項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数
とても重要である	2	とても重要である	4	とても重要である	0	とても重要である	0	とても重要である	4
重要である	3	重要である	1	重要である	0	重要である	4	重要である	1
どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	3	どちらとも言えない	1	どちらとも言えない	0
あまり重要でない	0	あまり重要でない	0	あまり重要でない	2	あまり重要でない	0	あまり重要でない	0
重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0
NA	0	NA	0	NA	0	NA	0	NA	0
合計	5	合計	5	合計	5	合計	5	合計	5

動植物などの生き物		仕事や役割		絵画や音楽などの芸術		山や川などの豊かな自然		学力や知識	
項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数
とても重要である	1	とても重要である	1	とても重要である	0	とても重要である	4	とても重要である	2
重要である	4	重要である	4	重要である	5	重要である	1	重要である	3
どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0	どちらとも言えない	0
あまり重要でない	0	あまり重要でない	0	あまり重要でない	0	あまり重要でない	0	あまり重要でない	0
重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0	重要ではない	0
NA	0	NA	0	NA	0	NA	0	NA	0
合計	5	合計	5	合計	5	合計	5	合計	5

Q4. 普段、旅行や観光に関する情報の入手媒体

項目	人数
テレビ	1
ラジオ	0
情報誌	1
インターネット	0
クチコミ	0
旅行会社	2
チラシ	0
電車の吊り広告	0
DM	1
その他	2
NA	0
合計	7

Q5. 旅行に期待・重要視すること

項目	人数
日程のゆとり	2
高級感	1
安価	1
行先の知名度	1
温泉の有無	1
観光資源	1
料理	0
安全さ	0
旅行先での健康管理	0
多様なアクティビティ	0
癒し	3
その他	0
NA	0
合計	8

Q6. 旅行はあなたにとってどのような存在か

項目	人数
日頃のストレスからの開放	3
新しい発見や出会い	3
気分転換・リフレッシュ	3
エネルギー充電	0
家族や友人との大切な時間	0
その他	0
NA	0
合計	6

Q7. 過去3年間の旅行事情についてお聞かせください。

回数		場所・地域	
項目	人数	項目	人数
0回	0	日本国内:関東	3
1回～3回	1	日本国内:関東以外	2
4回～6回	0	海外:アジア	3
7回～12回	3	海外:アメリカ	1
13回～19回	0	海外:ヨーロッパ	2
20回	1	その他の海外	0
NA	0	NA	0
合計	5	合計	11

Q8. 今回のツアーはいくらまでなら参加されますか

項目	人数
1.6万円～1.9万円	3
2.0万円～2.3万円	2
2.4万円～2.7万円	0
2.8万円～3.0万円	0
3.0万円以上	0
NA	0
合計	5

Q9. 今回のツアー開催時期(季節)について

項目	人数
満足	5
不満足	0
NA	0
合計	5

Q10. 今回ご参加いただいたツアーの旅程について理想の日程

項目	人数	項目	人数
長い	0	日帰り	0
普通	5	一泊二日	5
短い	0	二泊三日	0
NA	0	その他	0
合計	5	NA	0
		合計	5

Q11. ツアー内容に対する評価

群馬県立心臓血管センター		さくらの里		青木旅館		夜景見学		富士見ふれあい館	
項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数
大変満足	1	大変満足	0	大変満足	1	大変満足	0	大変満足	0
満足	4	満足	0	満足	0	満足	0	満足	1
普通	0	普通	0	普通	1	普通	0	普通	1
やや不満	0	やや不満	0	やや不満	2	やや不満	0	やや不満	0
不満	0	不満	0	不満	0	不満	0	不満	0
NA	0	NA	5	NA	1	NA	5	NA	3
合計	5	合計	5	合計	5	合計	5	合計	5

赤城山トレッキングコース

群馬県立心臓血管センター		トレッキングについて	
項目	人数	項目	人数
覚満淵・小沼・大沼散策コース	5	大変満足	0
鍋割山コース	0	満足	2
NA	0	普通	0
合計	5	やや不満	0
		不満	0
		NA	3
		合計	5

食事について

1日目昼食		1日目夕食		2日目昼食	
項目	人数	項目	人数	項目	人数
大変満足	1	大変満足	1	大変満足	1
満足	0	満足	2	満足	0
普通	2	普通	1	普通	1
やや不満	1	やや不満	0	やや不満	1
不満	0	不満	0	不満	0
NA	1	NA	1	NA	2
合計	5	合計	5	合計	5

Q12. ウェルネスツーリズムの組み込む企画として、興味があるもの

食事		宿泊		見学		体験		健康・医療	
項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数	項目	人数
健康食品	1	温泉・旅館	4	文化・歴史散策	5	農業体験	1	健康診断	2
自然食品	1	ビジネスホテル	0	大学の最先端技術研究	0	そば打ち	0	脳ドック	1
無農薬野菜	1	シティホテル	1	工場見学	0	こんにゃく作り	3	アニマルセラピー	0
季節野菜	2	公共宿泊施設	0	スポーツ観戦	1	ソーセージ	0	骨粗鬆症検診	2
郷土料理	1	民宿	0	NA	0	NA	1	メタボ検診	1
NA	0	オーベルジュ	1	合計	6	合計	5	血液さらさら度チェック	3
合計	6	ペンション	0					体内年齢チェック	1
		NA	0					食育講座	0
		合計	6					基礎体力チェック	0
								重粒子線がん治療	1
								メンタルヘルス	0
								森林セラピー	0
								NA	0
								合計	11

Q13. 前橋に対する印象変化

項目	人数
はい	2
いいえ	1
NA	2
合計	5

Q13. 前橋に持った印象

項目	人数
賑わっている	0
商店が多い	0
自然が多い	1
健康医療都市	0
学術都市	0
観光地	1
閑散としてる	1
商店が少ない	1
自然が少ない	0
その他	0
NA	1
合計	5

Q14. 再来橋の意思

項目	人数
はい	3
いいえ	1
NA	1
合計	5

Q20. 健康医療都市構想を知っているか

項目	人数
はい	3
いいえ	1
NA	1
合計	5

Q15. お土産購入の有無

項目	人数
はい	2
いいえ	3
NA	0
合計	5

Q16. 健康づくり、健康増進の意識変化有無

項目	人数
変化した	5
変化しない	0
NA	0
合計	5

Q18. ウォーキングプログラムについての評価

	はい	いいえ	NA	合計
事前の健康チェックは安心につながった。	3	1	1	5
事前のウォーキングに対する知識は役立った。	4	0	1	5
ウォーキングコースは自分にあった。	4	0	1	5
ウォーキングをして気分がよかった。	4	0	1	5
ウォーキングをして体調がよかった。	4	0	1	5
ウォーキングプログラム全体を通して満足できた。	4	0	1	5

次の各質問について、いいてどちらか一方を選ばなければならないとすれば(a)か(b)のどちらですか。

(a)自分の健康に対しての直接的な責任は自分自身にある。	5
(b)専門家の指示に従うことによるのみ健康を維持することができる。	0
NA	0
合計	5

(a)たとえ病気になったとしても、自分には再び健康な状態に戻す力がある。	5
(b)たとえどんなことをしても、もし一度病気になりかけたとしたら、なかなか治らないと思うことがしばしばある。	0
NA	0
合計	5

(a)たとえどんなに健康状態が悪化したとしても、それは自分自身に落ち度があったからである。	5
(b)健康を保てるか病気になるかに関しては他の人々が大きな影響力を持っている。	0
NA	0
合計	5

(a)医師の処方に従うことは、健康状態を保つための最善の方法である。	1
(b)自己管理をすることで健康をよりよく保つことができる。	3
NA	1
合計	5

(a)健康に関する専門家たちは私の健康を維持してくれる。	0
(b)健康は、どれだけ自分自身で健康に心がけるかにかかっている。	5
NA	0
合計	5

B. 前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅

日 程:平成 21 年 11 月 4 日(月)

参加費:3,500 円

参加人数:25 名

実施事業者:群馬中央バス株式会社

(1) ツアーの目的

高度先進医療である重粒子線照射施設を紹介しがん治療の有効性を紹介するとともに、生活習慣病の一つである「がん」についての知識や予防方法などの理解を深めてもらい、日々の生活改善を促すために開催したものである。

(2) 実施タイムスケジュール

11月4日(水)

9:00	伊勢崎商工会議所 集合・出発
9:45	JR両毛線前橋駅 集合・出発
10:00～10:45	体験1 いきいきまちの駅「スマイル」 ・オリエンテーション ・血圧測定、身体測定
11:00～12:00	観光1 前橋市内観光 ・臨江閣～群馬県庁コース
12:10～13:00	歴史・文化、史跡巡り
13:30～14:30	群馬県庁:日本料理くろ松 地産地消の特別メニュー
14:45～15:45	視察1 群馬大学医学部附属病院 テーマ:切らずに治す「小型重粒子線治療施設」説明・視察
16:15	講 師:重粒子線医学研究センター
17:00	助教 加藤弘之 先生 観光2 敷島公園ばら園 JR両毛線前橋駅 到着・解散 伊勢崎商工会議所 到着・解散



■ 前橋市内観光：臨江閣見学



■ 前橋市内観光：群馬県庁



■ 小型重粒子線治療施設見学



■ 前橋市内観光：敷島公園ばら園

(3) 詳細と反省点

いきいきまちの駅では、施設の主旨を理解していただき、健康チェックなどを体験した。人数に対してスペースが狭かった。

臨江閣では、ボランティアガイドの千木良氏より前橋の迎賓館、公民館としての建物の歴史などを解説していただき、その後県庁に移り地産地消の昼食をとった。臨江閣のガイドの千木良さんの説明時間がもっとあれば良かった。

群馬大学重粒子線医学研究センターでは、がん治療の種類や重粒子線での治療方法について、細かく医師から説明を受け参加者も大変興味深く聴講していた。治療費や保険対応について質疑応答が活発に行われた。ただし、この群馬大学重粒子線医学研究センターの見学については、今後治療が始まると日程調整が難しい。

ばら園では、ばらガイドによる案内を実施した。少数で5班に分かれて対応していたので、時間もかからず細かい説明も受けられ良い対応であった。ただ、秋に咲くバラがあるとはいえ、この季節にバラ園を入れるのが適切かどうかを考える必要がある。

参加者のツアーへの印象を考えると季節性を考慮したタイムリーなコース設定が求められる。

前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅

～がんを切らずに治す重粒子線治療を知る～

実施日：平成21年11月4日（月）

参加費：お一人様 3,500円

本ツアーは、内閣府の支援に基づく事業（地方の元気再生事業）のため、アンケート等にご協力くださいますようお願い申し上げます。

～ツアー行程～

11月4日（水）*行程は全て貸切バスでの移動となります。

9:00 伊勢崎商工会議所 集合・出発

9:45 JR両毛線前橋駅 集合・出発

10:00～10:45 体験1 いきいきまちの駅「スマイル」

・オリエンテーション

・血圧測定、身体測定

11:00～12:00 観光1 前橋市内観光

・臨江閣～群馬県庁コース 歴史・文化、史跡巡り

12:10～13:00 群馬県庁：日本料理くろ松 地産地消の特別メニュー

13:30～14:30 視察1 群馬大学医学部附属病院

テーマ：切らずに治す「小型重粒子線治療施設」説明・視察

講師：重粒子線医学研究センター 助教 加藤弘之 先生

14:45～15:45 観光2 敷島公園ばら園

16:15 JR両毛線前橋駅 到着・解散

17:00 伊勢崎商工会議所 到着・解散

*行程は、天候によりコース・時間ともに変更になる場合があります。

主催：ウェルネスツーリズム推進協議会 ～内閣府 地方の元気再生事業～

共催：前橋商工会議所

施行：群馬中央バス 株式会社

ツアーダイジェスト

視察・講話 1：がんを切らずに治す「重粒子線医学研究センター」

今、話題沸騰の画期的な治療法として「がんを切らずに治す」重粒子線治療が注目を浴びております。この治療は、現在考えられる最先端の技術と医学の知識を結集した装置(治療法)であり、群馬大学附属病院内に世界で初めて普及型施設が建設されており、平成22年3月には一般治療が開始される予定である。一般的な放射線治療(エックス線)に比べ、重粒子(炭素イオン)を体外から照射して、がん細胞だけを集中して“狙いうち”することから周辺の健康な組織への影響は極力抑えられ、患者様自身の体力的な負担はかなり軽減され QOL が可能です。

今回は、重粒子線医学研究センターの第一線でご活躍中のよりお話いただきます。

市内観光 1：臨江閣～群馬県庁 歴史・文化、史跡巡り

明治17年、初代の群馬県令 榎取素彦(吉田松陰の義弟)や市内の有志らの協力により天皇陛下をお迎えする迎賓館として建てられました。本館・別館・茶室からなる群馬県、前橋市の重要文化財です。昨年度に実施された全国都市緑化フェアのメイン会場として庭園がリニューアルしました。

市内観光 2：敷島公園ばら園

昨年の3月にリニューアルされ、600種7000本の世界各国のバラが咲き誇る北関東随一のばら園。見頃の春、秋にはバラのアーチや鮮やかな彩りには気分が安らぎます。また、敷地内には蚕糸記念館や萩原朔太郎記念館があり前橋の歴史に触れることもできます。

実施：群馬中央バス㈱

027-280-8610

前橋市小屋原町384-1

(受付時間)

月～金曜日 9:00～18:00 土日祝日休業

上記ご旅行は群馬中央バス株式会社(以下弊社)が企画・実施するものです。ご契約内容は弊社旅行業約款によります。また、詳しい旅行契約条件を記載した。書面をお渡しいたしますので、ご確認の上お申し込み下さい。
添乗員同行します。特に記載があるものを除き、最少催行人員20名価格はすべて税込みとなっております。
バス車内は禁煙とさせていただきます。またお座席割りは弊社にご一任下さい。(座席位置のご希望に副いかなる場合がございます。)
子供料金はお問い合わせください。
取消料・ご契約後のお取消には下記取消料を申し受けます。また取消日とは弊社営業時間内にお取消の旨、お申し出頂いた時点となります。

群馬県知事登録旅行業 第2-150号
総合旅行業務取扱管理者 乗附 久美
全国旅行業協会正会員

お取消日	10～8日	7～2日	前日	当日	旅行開始後および無連絡不参加
取消料率	20%	30%	40%	50%	100%

(4) アンケート調査

ツアー後に行ったアンケートの結果は以下の通りである。

“ウエルネスツーリズム”アンケート 前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅
～がんを切らずに治す重粒子線治療を知る～

主催：前橋市観光協会・前橋市健康福祉局・前橋市産業振興局
協賛：前橋市医師会・前橋市薬剤師会・前橋市歯科医師会
場所：前橋市内（いきいきまちの駅・市内観光・重粒子線医学研究センター）

日時：平成21年11月4日(水)
人数：25 サンプル

性別		
項目	人数	%
男	13	52.0
女	12	48.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

年齢層		
項目	人数	%
10代	0	0.0
20代	2	8.0
30代	1	4.0
40代	10	40.0
50代	9	36.0
60代	3	12.0
70代	0	0.0
80代	0	0.0
90代	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

職業		
項目	人数	%
学生	0	0.0
会社員・会社役員	19	76.0
公務員	0	0.0
自営業	0	0.0
専業主婦	0	0.0
無職	0	0.0
フリーター	0	0.0
その他	6	24.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

Q1. 以下の各内容について「健康」を維持するためにはどの程度重要だと考えていますか。

栄養		
項目	人数	%
とても重要である	11	44.0
重要である	14	56.0
どちらとも言えない	0	0.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

運動		
項目	人数	%
とても重要である	12	48.0
重要である	12	48.0
どちらとも言えない	1	4.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

睡眠		
項目	人数	%
とても重要である	11	44.0
重要である	13	52.0
どちらとも言えない	1	4.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

積極的な休養		
項目	人数	%
とても重要である	7	28.0
重要である	15	60.0
どちらとも言えない	3	12.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

Q2. 以下の各内容について、どの程度「ストレス」を感じることがありますか。

人間関係		
項目	人数	%
とても重要である	3	12.0
重要である	17	68.0
どちらとも言えない	4	16.0
あまり重要でない	1	4.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

自身の病気や身体症状		
項目	人数	%
とても重要である	4	16.0
重要である	11	44.0
どちらとも言えない	4	16.0
あまり重要でない	6	24.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

忙しさと時間管理		
項目	人数	%
とても重要である	10	40.0
重要である	10	40.0
どちらとも言えない	4	16.0
あまり重要でない	1	4.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

経済的問題を含む生活全般		
項目	人数	%
とても重要である	2	8.0
重要である	14	56.0
どちらとも言えない	4	16.0
あまり重要でない	4	16.0
重要ではない	1	4.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

気候、災害などの自然環境		
項目	人数	%
とても重要である	1	4.0
重要である	8	32.0
どちらとも言えない	9	36.0
あまり重要でない	6	24.0
重要ではない	1	4.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

Q3. 以下の各内容について、人間が生きていくうえでどの程度重要だと思いますか。

信頼できる人間		
項目	人数	%
とても重要である	12	48.0
重要である	13	52.0
どちらとも言えない	0	0.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

生きる目的や夢		
項目	人数	%
とても重要である	9	36.0
重要である	16	64.0
どちらとも言えない	0	0.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

宗教や信念		
項目	人数	%
とても重要である	0	0.0
重要である	8	32.0
どちらとも言えない	15	60.0
あまり重要でない	2	8.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

お金などの財		
項目	人数	%
とても重要である	5	20.0
重要である	16	64.0
どちらとも言えない	4	16.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

健康であること		
項目	人数	%
とても重要である	16	64.0
重要である	9	36.0
どちらとも言えない	0	0.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

動植物などの生き物		
項目	人数	%
とても重要である	0	0.0
重要である	16	64.0
どちらとも言えない	9	36.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

仕事や役割		
項目	人数	%
とても重要である	5	20.0
重要である	15	60.0
どちらとも言えない	5	20.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

絵画や音楽などの芸術		
項目	人数	%
とても重要である	1	4.0
重要である	16	64.0
どちらとも言えない	8	32.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

山や川などの豊かな自然		
項目	人数	%
とても重要である	4	16.0
重要である	19	76.0
どちらとも言えない	2	8.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

学力や知識		
項目	人数	%
とても重要である	3	12.0
重要である	17	68.0
どちらとも言えない	5	20.0
あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

Q 4. 普段、旅行や観光に関する情報の入手媒体			Q 5. 旅行に期待・重要視すること			Q 6. 旅行はあなたにとってどのような存在か			Q 7. 過去3年間の旅行事情についてお聞かせください。								
情報の入手媒体			項目			項目			回数		場所・地域						
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%			
テレビ	5	20.0	日程のゆとり	10	40.0	日頃のストレスからの開放	10	40.0	0回	1	4.0	日本国内・関東	15	60.0			
ラジオ	0	0.0	高級感	6	24.0	新しい発見や出会い	3	12.0	1回～3回	10	40.0	日本国内・関東以外	15	60.0			
情報誌	12	48.0	安価	7	28.0	気分転換・リフレッシュ	20	80.0	4回～6回	7	28.0	海外：アジア	4	16.0			
インターネット	8	32.0	行先の知名度	5	20.0	エネルギー充電	4	16.0	7回～12回	6	24.0	海外：アメリカ	7	28.0			
クチコミ	2	8.0	温泉の有無	9	36.0	家族や友人との大切な時間	7	28.0	13回～19回	1	4.0	海外：ヨーロッパ	7	28.0			
旅行会社	8	32.0	観光資源	7	28.0	その他	1	4.0	20回	0	0.0	その他の海外	3	12.0			
チラシ	6	24.0	料理	11	44.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	2	8.0			
電車の吊り広告	0	0.0	安全さ	4	16.0	回答者数	35	140.0	回答者数		25	100.0	回答者数		53	212.0	
DM	0	0.0	旅行先での健康管理	0	0.0	回答者数	25	100.0					回答者数		25	100.0	
その他	1	4.0	多様なアクティビティ	4	16.0												
NA	0	0.0	癒し	11	44.0												
回答総数	42	168.0	その他	0	0.0												
回答者数	25	100.0	NA	0	0.0												
			回答者数	64	256.0												
			回答者数	25	100.0												
Q 8. 今回のツアーはいくらまでなら参加されますか。			Q 9. 今回のツアー開催時期(季節)について			Q 10. 今回ご参加いただいたツアーの旅程について											
項目			項目			期間			理想の日程								
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%						
3,500円～4,000円	19	76.0	満足	14	56.0	長い	2	8.0	日帰り	17	68.0						
4,001円～4,500円	4	16.0	不満足	10	40.0	普通	20	80.0	一泊二日	2	8.0						
4,501円～5,000円	2	8.0	NA	1	4.0	短い	2	8.0	二泊三日	1	4.0						
5,001円～5,500円	0	0.0	回答者数	25	100.0	NA	1	4.0	その他	5	20.0						
5,501円以上	0	0.0				回答者数	25	100.0	NA	0	0.0						
NA	0	0.0							回答者数	25	100.0						
回答者数	25	100.0															
Q 11. ツアー内容に対する評価			臨江閣～県庁散策			数島公園ばら園			重粒子線医学研究センター			食事					
いきいきまちの駅			項目			項目			項目			項目					
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
大変満足	0	0.0	大変満足	3	12.0	大変満足	0	0.0	大変満足	7	28.0	大変満足	1	4.0	大変満足	1	4.0
満足	6	24.0	満足	11	44.0	満足	9	36.0	満足	13	52.0	満足	7	28.0	満足	7	28.0
普通	11	44.0	普通	10	40.0	普通	12	48.0	普通	5	20.0	普通	12	48.0	普通	12	48.0
やや不満	5	20.0	やや不満	1	4.0	やや不満	4	16.0	やや不満	0	0.0	やや不満	4	16.0	やや不満	4	16.0
不満	3	12.0	不満	0	0.0	不満	0	0.0	不満	0	0.0	不満	0	0.0	不満	0	0.0
NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	1	4.0	NA	1	4.0
回答者数	25	100.0	回答者数	25	100.0	回答者数	25	100.0	回答者数	25	100.0	回答者数	25	100.0	回答者数	25	100.0

Q12. ウエルネスツーリズムの組み込む企画として、興味があるもの

食事			宿泊			見学			体験			健康・医療		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
健康食品	3	12.0	温泉・旅館	20	80.0	文化・歴史散策	16	64.0	農業体験	4	16.0	健康診断	3	12.0
自然食品	2	8.0	ビジネスホテル	0	0.0	大学の最先端技術研究	6	24.0	そば打ち	20	80.0	脳ドック	7	28.0
無農薬野菜	4	16.0	シティホテル	1	4.0	工場見学	4	16.0	こんにゃく作り	1	4.0	アニマルセラピー	0	0.0
季節野菜	9	36.0	公共宿泊施設	4	16.0	スポーツ観戦	2	8.0	ソーセージ	4	16.0	骨粗鬆症検診	1	4.0
郷土料理	7	28.0	民宿	1	4.0	NA	1	4.0	NA	1	4.0	メタボ検診	0	0.0
NA	3	12.0	オーベルジュ	0	0.0	回答者数	29	116.0	回答者数	30	120.0	血液さらさら度チェック	10	40.0
回答者数	28	112.0	ペンション	0	0.0	回答者数	25	100.0	回答者数	25	100.0	体内年齢チェック	8	32.0
回答者数	25	100.0	NA	2	8.0							食育講座	4	16.0
			回答者数	28	112.0							基礎体力チェック	6	24.0
			回答者数	25	100.0							重粒子線がん治療	5	20.0
												メンタルヘルス	1	4.0
												森林セラピー	3	12.0
												NA	3	12.0
												回答者数	51	204.0
												回答者数	25	100.0

Q13. 前橋に対する印象変化

項目	人数	%
はい	15	60.0
いいえ	8	32.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

Q13. 前橋に持った印象

項目	人数	%
賑わっている	1	4.0
商店が多い	0	0.0
自然が多い	5	20.0
健康医療都市	7	28.0
学術都市	3	12.0
観光地	3	12.0
閑散としてる	4	16.0
商店が少ない	1	4.0
自然が少ない	0	0.0
その他	2	8.0
NA	4	16.0
回答者数	30	120.0
回答者数	25	100.0

Q14. 再来橋の意思

項目	人数	%
はい	13	52.0
いいえ	11	44.0
NA	1	4.0
回答者数	25	100.0

Q20. 健康医療都市構想を知っているか

項目	人数	%
はい	16	64.0
いいえ	4	16.0
NA	5	20.0
回答者数	25	100.0

Q15. お土産購入の有無

項目	人数	%
はい	0	0.0
いいえ	25	100.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

Q16. 健康づくり、健康増進の意識変化の有無

項目	人数	%
変化した	8	32.0
変化しない	15	60.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

次の各質問について、しいてどちらか一方を選ばなければならないとすれば (a)か(b)のどちらですか。

項目	人数	%
(a)自分の健康に対する直接的な責任は自分自身にある。	22	88.0
(b)専門家の指示に従うことによってのみ健康を維持することができる。	1	4.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

項目	人数	%
(a)たとえどんなに健康状態が悪化したとしても、それは自分自身に落ち度があったからである。	21	84.0
(b)健康を保てるか病気になるかに限しては他の人々が大きな影響力を持っている。	2	8.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

項目	人数	%
(a)健康に関する専門家たちは私の健康を維持してくれる。	2	8.0
(b)健康は、どれだけ自分自身で健康に心がけるにかかっている。	21	84.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

項目	人数	%
(a)たとえ病気になったとしても、自分には再び健康な状態に戻す力がある。	18	72.0
(b)たとえどんなことをしても、もし一度病気になりかけたとしたら、なかなか治らないと思うことがしばしばある。	5	20.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

項目	人数	%
(a)医師の処方に従うことは、健康状態を保つための最善の方法である。	6	24.0
(b)自己管理をすることで健康をよりよく保つことができる	17	68.0
NA	2	8.0
回答者数	25	100.0

C. 動物たちと遊んでみよう～友だちづくりの第一歩～(ノンバーバルツアー)

日 程:平成 21 年 12 月 5 日(土)～6 日(日)

参加費:なし

参加人数:障害者 8 名、家族 5 名、群馬大学教授及び学生 15 名

実施事業者:なし

ノンバーバルとは言葉以外の手段・方法のこと。

(1) ツアーの目的

健康づくりの中の一つである心のケアを、犬と馬を利用(アニマルセラピー)してどのような効果がもたらされるのかを検証。

障害者やその家族、支援者を含むすべての人が安心して、気持ちよく滞在していただけるように、受入れる体制づくり(環境・サービス)をするための検証。

訪れた方に満足いただけるようなサービスができる人材を育てるための検証。

富士見商工会との連携により、今までに無い観光資源や人材の掘り起こしを図るとともに、新しい観光事業の創出に繋げる。

(2)実施タイムスケジュール

● 1日目

時間	活動内容	場所	メモ
8:00	スタッフ集合	P 5	・スケジュール確認, 荷物の積み込み
8:30	子ども集合	P 5	・保険証のコピー・参加費をうけとる ・コピー・参加費を商工会議所の方に渡し, 領収書を受け取る ・こどもの健康状態を保護者に尋ねる ・子どもをN棟のトイレに行かせる
9:00	出発式		あいさつ 出席確認 商工会議所の方のお話 松田先生のお話 スケジュール確認 行ってきます
10:00	群大出発 広場到着	バス車内	・検証 ・木の家のトイレに行く
	レク開始	広場	犬のしっぽ取り、鬼は希望者3人 ・しっぽを鬼がとる ・制限時間 1 分で, 2 ~ 3 回やる グループ分け ・参加者(子ども8人, 保護者4人, 会議所の方1名) ・担当スタッフから犬, 猫, 馬のいずれかのワッペンを受け取る ・音楽が鳴っているうちに, ペアのスタッフを見つける ・ペアが作れたら, 座る→その後, 円になるように司会が促す 動物バスケット ・ルール説明 ・レク終了後は休憩・自由活動 ・5分前にレクをした広場に集合

10:45	工作	木の家	・誘導は会議所の方が行う ・工作は最初施設の人が教えてくれる
11:40	移動	バス	木の家からふれあい館に移動
12:00	昼食	ふれあい館	カレーライス
13:00	ふれあい館 出発	バス	
13:15	名犬牧場 到着	名犬牧場	ショップのケースに入った子犬を見て慣れることから。 入場したら施設左側の特設会場で説明を受ける。 犬との接し方 犬のだっこの仕方
15:30	名犬牧場 出発	バス	
16:00	施設到着	赤城少年 自然の家	施設の人の挨拶 部屋割の確認 これからのスケジュール確認
16:15	部屋へ移動	各部屋	・荷物整理 ・入浴準備 ・あとはのんびり自由時間 ・薬がある子は、薬の用意
17:20	夕食準備	食堂	・皆で夕食の準備をする
17:30	夕食	食堂	・30分をめぐにごちそうさま ・片付けは皆です
18:00	夕べのつどい	食堂	レクリエーション
	入浴	風呂場	
	入浴終了	各部屋	・シーツを敷く(シーツは研修室前に団体ごとに置いてある)
21:00	就寝	各部屋	・就寝前に検温をする

● 2日目

7:00	子ども起床	各部屋	・トイレ, 着替え, 洗面などを済ませる ・布団をたたむ ・シーツ & 枕カバーはまとめて畳んでおく ・検温
7:20	朝食準備	食堂	薬がある人は忘れない
7:30	朝食	食堂	・30分をめぐにごちそうさま
8:30	荷物整理		・掃除のあと, もう施設を出るので荷物をまとめておく
9:00	清掃	担当場所	風呂場・トイレ
9:30	退所式	食堂	施設の方のお話(5分程度) 今後の予定
9:40	施設出発	バス	
10:00	馬事公苑 到着	馬事公苑	代表だけ受付する(他の人は待機) 馬の接しかた 乗馬 ポニーによるひき馬
12:00	馬事公苑 出発	バス	
12:30	お昼ごはん	ふれあい 館	お弁当 畳の大広間へ移動
13:15	ふれあい館 出発	バス	検証
14:00	群大到着	P5	子どもの荷物を下ろす
	解散式		商工会議所の方のお話 さようなら



■ 木工体験：動物を作る



■ 名犬牧場：犬との触れ合い



■ 馬事公苑：乗馬体験



■ 馬事公苑：乗馬体験

(3) 詳細と反省点

初めての試みであったため、受入れ施設側は少し緊張気味で、スタッフやインストラクターが笑顔で話しかける姿があまり見られなかったため、参加者も初めは緊張気味であった。障害者は、その場の雰囲気を感じとるので、ゆったりとした気持ちで対応することの大切さを知った。また、各施設のスタッフは障害者について理解を深めてもらう必要がある。

雨から雪になるような悪天候で冷え込みが激しかったので、木の家と名犬牧場では時間を早めた方が良かった。また、温泉をコースの中に入れられるか検討を要する。

付添の学生がいたので怪我もなく乗馬ができたが、ポニーに乗るとき参加者が急に走り出した。学生がすぐに追いかけて事なきを得たが、ひやっとした場面があり、

付添うボランティアは障害者の程度により人数を考慮する必要がある。

食事の時に検証の一つであるフェイスシートをしたが、障害者にとっては体験したことをすぐに思い返すことが難しく、会話からツアーの内容を確認するようにした。

学生の支援がなければ、スケジュールや検証をすることが困難で、支援体制がないと県内外からの団体や支援者を呼び込むことが難しい。

全国には障害者団体が数多くあるので、さまざまな障害を持つ子供や成人の方が安心して参加できるツアーはニーズが高く、体制づくりが整備されれば多くの参加者が見込まれる。

(4) アンケート結果

ツアー後に行った家族へのアンケートの結果は以下の通りである。

1. 本プログラムに期待することをお書きください(本プログラムのイメージ含む)。

- 子供が大きくなるにつれて本人の楽しみ場になること。様々な人とのコミュニケーション。様々なことの経験の場。
- こういった貴重な機会をより多く増やして欲しい。成人してからもこういった企画を多くして欲しい。
- 家庭では体験しにくいことや参加するのに遠慮してしまうような内容---例えば、物を作ったり、野菜を収穫したり、大人数で遊べるゲームなど
- 子供の経験が新たに増える事。集団生活をいっしょに行動できること。

2. お子様に関するお悩みが何かございましたら自由にお書きください。

- 物事を集中してやることが出来ない。
- 不安になるとこだわりの確認(先の確認。バツの確認。)コミュニケーションのやりとりに限界がある(コトバがないため、サインなどのやりとり。)
- 小さい時からみれば、今は手がかからなくなり、私的にはとても楽になりました。ただ以前は、同級生や近所の小さい子が一緒に遊んでくれたりしましたが、中学生になるとなかなか難しくなり、行動範囲も狭くなった気がします。親が連れてあるかないと1人で出かける事は出来ないのかわりそうに思います。
- 人前ではしゃぎすぎてしまう。

3. お子様が日常生活の中で好きなことはどのようなことでしょうか。

(趣味や関心のあること等)

- 外で遊ぶこと。音の出るおもちゃで遊ぶ。写真やアルバムを見る。
- 公園で遊ぶこと。ビデオやTVを見る(お母さんといっしょ)。お買い物(食べることに菓子を買う)。プール。
- パソコンのインターネットで自分の好きな番組を見る事。父親とサイクリングする事。弟の野球の応援。家族でWiiのゲームをする事。
- ゲーム(DS, PS)、読書、スポーツ観戦(テレビで、プロ野球中継、バレーボール、サッカーなど)、外で遊ぶ(サッカー、野球など)

4. お子様が本プログラムの中で関心を示したのはどのようなことでしたでしょうか。

- 木の家での製作活動や木のおもちゃ遊具で遊ぶこと。
- 名犬牧場で犬のふれあい。最初は苦手だったヤサよりもおとなしい犬に対しては自分であげることができた。
- 乗馬体験が一番楽しそうでした。馬のえさやりなども積極的にでき、何度も馬に乗っていました。本人に聞くと“また来たい！”と言っていました。
- 名犬牧場、学生と宿泊、乗馬体験

5. いままでの生活の中でうれしそう・楽しそうなお子様の様子はどんな時でしたでしょうか。

- 遊園地などでの乗り物や外での野外活動、プール、海など。外食。
- お出かけしたとき。ヘルパーさんとサライにお出かけ(ゲームセンター、おやつを買う)。誕生日(料理やケーキ)。外食。子供と遊ぶ。子供と遊ぶ(追いかけて)。海、遊園地。
- 自分のやった事がほめられた時。テレビでお笑い番組をやっていて自分好みのギャグをやっている時。家に弟の友達に来て一緒に遊んでくれる時。外食に家族で行く時。泉の会に参加している時。
- 自分の意志できちんと相手に伝わった事を確信した時。好きな物を食べて、好きな事をしている時。

6. 本プログラムの中でうれしそう・楽しそうなお子様の様子はどんな時でしたでしょうか。

- 基本的にはあまり犬が好きではないのですが、名犬牧場でのスタッフの方の犬への接し方の説明で部屋の中に入れたりしたのは少しびっくりしました。本人なりに

犬への興味や関心が見られました。

- 木の家で遊んでいたとき(ジャングルジム、鳥を見る)。名犬牧場で犬を見るとき(小型犬がとび回っている様子を見て)。
- ボランティアの学生さん達と話をしたり、じれ合ったりしている時はとても楽しそうでした。大きな声がとなりの部屋まで聞こえてきました。親以外の人達と係わりが持てるのは、嬉しい様です。中学生になると家族とは違う大人、特に学生さんの様に若い方達と交流が持てるのは良い事だと思います。
- 乗馬がとても楽しそうでした。何度か馬に乗った事はあるのですが、いつもより大きい馬に進んで乗ったので降りるととても満足そうな顔をして充実感を感じているようでした。馬の顔にさわれなかったのですが、乗った後、さわる事ができました。

7. 本プログラムについての評価をお聞かせください。

1)レクリエーション1		2)1日目の創作活動		3)1日目の昼食	
項目	人数	項目	人数	項目	人数
よくなかった	0	よくなかった	0	よくなかった	0
あまりよくなかつた	1	あまりよくなかつた	0	あまりよくなかつた	0
まあまあよかった	3	まあまあよかった	0	まあまあよかった	0
よかった	0	よかった	4	よかった	4
無回答	0	無回答	0	無回答	0
合計	4	合計	4	合計	4

4)名犬牧場		5)夕食		6)レクリエーション2	
項目	人数	項目	人数	項目	人数
よくなかった	0	よくなかった	0	よくなかった	0
あまりよくなかつた	0	あまりよくなかつた	0	あまりよくなかつた	0
まあまあよかった	3	まあまあよかった	2	まあまあよかった	0
よかった	1	よかった	2	よかった	0
無回答	0	無回答	0	無回答	4
合計	4	合計	4	合計	4

7) 宿泊施設	
項目	人数
よくなかった	0
あまりよくなかつた	1
まあまあよかった	3
よかった	0
無回答	0
合計	4

8) 2日目の朝食	
項目	人数
よくなかった	0
あまりよくなかつた	0
まあまあよかった	4
よかった	0
無回答	0
合計	4

9) 馬事公苑	
項目	人数
よくなかった	0
あまりよくなかつた	0
まあまあよかった	1
よかった	3
無回答	0
合計	4

10) 2日目の昼食	
項目	人数
よくなかった	0
あまりよくなかつた	0
まあまあよかった	3
よかった	1
無回答	0
合計	4

11) バスの中	
項目	人数
よくなかった	0
あまりよくなかつた	0
まあまあよかった	2
よかった	2
無回答	0
合計	4

8. 名犬牧場についてお尋ねします。動物(犬)とのふれあいには、どのような魅力や効果があると思われますか。日常生活に動物とのふれあいは必要だと思われますか。

- うちの子は力のかげんがよくわからないのでやさしくふれる、やさしくだっこするなどの力のかげんを学んでくれたらと思っています。うちにも室内で犬を飼っているのですが、苦手なのにおやつをあげたり「さんぽに行くよ」と言うとりードを持ってきたりと意識するようになりました。今はなでたりしたいらしく自分から手を出しています。
- 相手に対してかわいい、ふれ合ってみたいとまずは興味を示すころ。→自分から意欲的に○○してみたいと思う気持ちを養う効果。
- うちでは障害を持ってすぐにアニマルセラピーがいいと言われ、犬を飼い始めました。最初はまだ2才だったので扱いもわからず犬も迷惑そうでした。今ではずっと一緒に育ったので家族と同じです。○○(記入者の子供)も大きくなったので散歩したり、うんちの世話をしたりしてくれています。泣くと心配したりします。優しい気持ちが芽生えていいと思います。
- いやしの効果もあると思いますが、自分が主導権を持って責任を持って行動し、自信につながる気がします。(日常生活では他者に指示されて動く事が多い為)

9. 馬事公苑についてお尋ねします。動物(馬)とのふれあいには、どのような魅力や効果があると思われますか。日常生活に動物とのふれあいは必要だと思われますか。

- 馬へ乗る時の力への入れ方や乗った後の姿勢を保ったりなど自分の体への意識。乗馬が出来なかったけれど馬を見たりさわられたりしたので次につながると思います。ありがとうございました。
- 今回は自分から乗りたいという意欲があったので、とても嬉しかったです。やはり自分の意志で○○したいという気持ち、楽しいという気持ちを持てるとことは自信を持てたり、情緒の安定につながるのだと思いました。
- 馬のように大きな動物とはなかなかふれあいは持てないのが現状です。小学生の時には新田町に乗馬クラブがあり、1年くらい時間がある時に通っていましたが遠いし、足が遠のいてしまいました。今回、久しぶりに馬に乗っている姿を見て、とても楽しそうにだったので、また体験させたいと思っています。
- 身体的には乗る事はとてもバランス感覚が必要で日常ではあまり使われない筋肉を使うと言われていると思います。おとなしそうな馬の近くにいる事はきちんとマナーやツールうい守らないと馬場に行き、馬に乗る事は出来ないと思いました。

10. 本プログラムに参加しての全体の感想を自由にお書きください。

(特に印象に残っている点や今後改善を求めたい点等)

- 今回は泉の会のスタッフが一緒だったので安心でしたが、一般のボランティアの方との活動時は自分の子供がどれだけコミュニケーションがとれるか不安もあるし、そのような中で子供の活動の幅を広げたいという気持ちがあります。これらもこのような活動の場があると親としてありがたいです。
- 動物とのふれあいを通じて名犬牧場では説明をきくことや、その場で決められた時間を過ごすこと、犬に興味を示すなど、馬事公苑では馬に乗りたいという意思を意欲的に表出できたことは、いろいろなことにも結びつく良い機会となりました。大変、お世話になりありがとうございました。
- 今回、いずみの会の学生さんと子供達がどの様に過ごしているのかを2日間見させていただいて、子供が楽しく過ごせる様に考えていただいている事に初めて驚きました。障害者をフォローするには多くの大人の手が必要となりますし、ツアー化するにはボランティアなどの人材が重要かと思います。
- 全てのボランティアの学生達のおかげだと思います。親といるときとは違い、動かされているというよりは進んで活動に参加していると思います。ボランティアが集まらなければ成り立たないと思いますし、また対象となる参加者の年齢幅によっても活動内容が変わると思います。今回はボランティアさんも充分で年齢も近かったのが良かったです。

D. 健康医療都市まえばしの旅

日 程:平成 21 年 12 月 7 日(月)

参加費:5,000 円

参加人数:33 名 (粒子線医療支援機構の全面協力により、川崎市民を対象)

実施事業者:なし

(1) ツアーの目的

高度先進医療である重粒子線照射施設を紹介しがん治療の有効性を紹介するとともに生活習慣病の一つである「がん」についての知識や理解を深めてもらい、日々の生活改善を促すために開催したものである。

(2) 実施タイムスケジュール

12 月 7 日(月)

10:15 ~ 11:30	見学 ぐんまフラワーパーク
10:15 ~ 10:45	寄せ植え体験とパーク内の見どころ説明
10:45 ~ 11:30	パーク内自由散策
11:45 ~ 12:50	昼食 林牧場福豚の里 とんとん広場
13:30 ~ 15:10	(豚肉メニュー) 見学・説明会 群馬大学医学部附属病院 <u>2 班に分かれての視察</u> 切らずに治す「小型重粒子線がん治療施設」視察・説明 講 師:重粒子線医学研究センター 大野達也先生 河村英将先生 (重粒子施設を見学していない班) 健康情報発信拠点 いきいきまちの駅「スマイル」視察・説明
15:25 ~ 15:45	重粒子線医学研究センター合流・出発
16:25 ~ 17:00	原嶋屋総本家 前橋名物 焼きまんじゅうを試食
17:00 ~	群馬県庁展望ホール 地上32階にて市内眺望 前橋商工会議所にて「まえばし健康医療都市構想」について説明
18:00	帰路・解散



■ フラワーパーク: 寄せ植え体験



■ 地産地消食材説明



■ 重粒子施設見学



■ 「がん」についての知識・理解を深める



■ 「まえばし健康医療都市構想」説明会

(3) 詳細と反省点

ぐんまフラワーパーク

寄せ植えを体験するとともにこの時期に見頃を迎えているサザンカや寒サクラやクリスマスモードに彩られたイベント温室などを見学し、目と心が癒された。

寄せ植え体験の評判が予想以上に良かった。実際に花を持ち帰れると思っていたにもかかわらず、お土産が嬉しかったとのこと(体験料金の500円も好評。逆に言えばもう少し値段が高くて可能かも)。

支配人を含め親切な対応だったため、気持ちの良い受入れ体制であった。

初めの説明の時にマイクがあれば良かった。また「体験するだけではなく、土いじりをする事で脳への刺激がいい」のような医学的根拠の説明もあれば良かった。

とんとん広場

初めの林社長の講話も良く、地産地消も含めて、生産へのこだわり、安全性の確保など丁寧に説明をいただき、わかりやすかった。

しゃぶしゃぶを用意したが、「しゃぶしゃぶ」のように鍋を色々な人が箸をつつく料理がよいのか疑問に感じた。個別料理のほうがゆっくり食べられる気もする。メニューは検討が必要。

「他では食べられない豚肉(福豚)を食べられ大満足である」「食事の前に林社長より説明を受けたお陰で、より食事が美味しく食べられた」「こんなに美味しい豚肉は今まで食べたことが無い」「アクが出ない豚肉は初めて」「豚肉は嫌いで食べられなかったのだが、この豚肉は美味しく食べられた」等の感想が寄せられた。料金は特に問題ない。

世界のコンテストで金賞を受賞したソーセージにも皆さん興味を持っていただき、多くの方がソーセージやハムなどのお土産を買って行かれた。

健康指導士のストレッチ

バスの移動が多い観光ツアーにとて、参加者が聞くだけでなく、実際に体を動かすストレッチを取り入れることで、疲れもとれるし楽しみも増した。

バス内でも簡単なストレッチをやったが、とても楽しそうであった。

小型重粒子線がん治療施設

大野先生から、がん治療の種類や重粒子線での治療方法、手術や抗がん剤治療との違い、今後の運用や費用について詳細な説明を受けた。また、実際に建物並びに放射線を照射する治療室を見学した。

模型の説明と治療室の案内であったが、シンクロトンを見なくても内容を理解するには今回の視察でも十分であった。

トイレが使えない点は不便であり、生協まで行くのは不親切である。

いきいきまちの駅

体組成計の測定を行うとともに、前橋の中心市街地の街並みを感じていただいた。

街中に健康チェックができるシステムは素晴らしいとの意見が多く、特に女性は体組成計の体験に満足いただけた。ただ、体組成計の人气が高く、列を成して待っていたが時間の都合上、希望者全員の計測が出来なかった。もう少し時間が欲しいとの意見もいただいた。

時間の関係上止むを得ないが、「中心市街地の散策を行いたかった」との意見をいただいた(特に広瀬川を歩きたいとのこと)。「馬場川通りはとても綺麗でオシャレ、スマイルもとてもオシャレ」という感想もいただいた。

原嶋屋

前橋名物のふわふわの焼きまんじゅうを試食した。

建物の歴史感、目の前で焼いている風景、香ばしい香り等を絶賛する方が多かった。

1串に4つのまんじゅうが刺さっていることにもびっくりしていたが、夕方という時間帯もありちょうど小腹がすいていたのか、皆ぺろりと食べてしまった。味も好評。お土産を買う人もいた。

1人前をパックに入れてくれる特別な対応をしていただき、親切な受入れであった。参加者もご当地の食材を食べたかったらしく、好評であった。

県庁32F展望ホール

時間帯として夕焼けの時間と重なり、参加者の方も感動された様子であった。街並みも見られ周囲の山々も見られ好評であった。

参加者からは群馬の山について説明を求められ、榛名・浅間について説明した。山については説明ができる人を確保する必要がある。

見学は全員バラバラとなってしまう、個々に山や施設の説明をした。もう少し、説明方法を含め内容を検討したほうが良いと感じた。

前橋商工会議所

「まえばし健康医療都市構想」について説明を行い、前橋の良さを十分理解いただいた。

全体について

何人もの人に、「お土産を買う場所がありますか？」と尋ねられた。本ツアーでは物産館等の施設には立ち寄らなかったのも、質問した方は残念がっていた。ツアーで来ているので、その土地ならではのお土産を買いたいと思うことは当たり前のこと。必ずお土産を買える場所を組まないといけないとあらためて感じた。

日帰りなのではないと思うところもあるが、少々慌しかった。もっとゆっくり見てもらい、ゆっくり食べてもらい、ゆっくり話してもらう、少人数のツアーであればこんなツアーの組み方も必要ではないかと感じた。

話を伺った人はみな今回のツアーに好印象であった。

前橋の重粒子について、東京は千葉の放射線医学研究所が有名になっているが、埼玉ではまだ知名度が低い。群馬大学がうまくPRできれば十分に患者(あるいは観光客)が見込めると東京新聞の人の感想であった。

群馬がなぜ認知度が低いのか疑問に思うとの感想の人もいた。実際に参加して、都会では感じられない雄大な自然、文化・歴史を感じる市街地があるのに、なぜ知られていないのかとの声もある。ただ、今回は東京新聞のツアーで知ったが、このようなイベントでなく、日常的に地域のよさを感じるツアーは意外と無いとのことである。

空っ風が強いため、なるべく室内での集合・待機を心掛けたが、寒さ対策として「ホッカロン」程度は用意が必要であったかも。

(4) アンケート調査

ツアー後に行ったアンケートの結果は以下の通りである。

“ウェルネスツーリズム”アンケート 前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅
～がんを切らずに治す重粒子線治療を知る～

主催：群馬県観光局、前橋市観光協会、ウェルネスツーリズム推進委員会
協賛：前橋市（いきいきまちの駅・市内観光・重粒子線医学研究センター）

日時：平成21年12月7日(月)
人数：29 サンプル

性別		
項目	人数	%
男	18	62.1
女	10	34.5
NA	1	3.4
回答者数	29	100.0

年齢層		
項目	人数	%
10代	0	0.0
20代	1	3.4
30代	3	10.3
40代	6	20.7
50代	6	20.7
60代	8	27.6
70代	5	17.2
80代	0	0.0
90代	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	29	100.0

職業		
項目	人数	%
学生	0	0.0
会社員・会社役員	14	48.3
公務員	0	0.0
自営業	2	6.9
専業主婦	4	13.8
無職	5	17.2
フリーター	0	0.0
その他	4	13.8
NA	0	0.0
回答者数	29	100.0

Q1. 以下の各内容について「健康」を維持するためにはどの程度重要だと考えていますか、

栄養			運動			睡眠			積極的な休養		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
とても重要である	21	72.4	とても重要である	19	65.5	とても重要である	17	58.6	とても重要である	12	41.4
重要である	8	27.6	重要である	10	34.5	重要である	12	41.4	重要である	14	48.3
どちらとも言えない	0	0.0	どちらとも言えない	0	0.0	どちらとも言えない	0	0.0	どちらとも言えない	2	6.9
あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	1	3.4
重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0

Q2. 以下の各内容について、どの程度「ストレス」を感じることがありますか、

人間関係			自身の病気や身体症状			忙しさや時間管理			経済的問題を含む生活全般			気候、災害などの自然環境		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
とても重要である	4	13.8	とても重要である	4	13.8	とても重要である	3	10.3	とても重要である	4	13.8	とても重要である	2	6.9
重要である	14	48.3	重要である	10	34.5	重要である	14	48.3	重要である	10	34.5	重要である	11	37.9
どちらとも言えない	4	13.8	どちらとも言えない	3	10.3	どちらとも言えない	3	10.3	どちらとも言えない	9	31.0	どちらとも言えない	8	27.6
あまり重要でない	5	17.2	あまり重要でない	10	34.5	あまり重要でない	8	27.6	あまり重要でない	6	20.7	あまり重要でない	5	17.2
重要ではない	2	6.9	重要ではない	2	6.9	重要ではない	1	3.4	重要ではない	0	0.0	重要ではない	3	10.3
NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0

Q3. 以下の各内容について、人間が生きていくうえでどの程度重要だと思いますか、

信頼できる人間			生きる目的や夢			宗教や信念			お金などの財			健康であること		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
とても重要である	20	69.0	とても重要である	13	44.8	とても重要である	2	6.9	とても重要である	9	31.0	とても重要である	25	86.2
重要である	9	31.0	重要である	14	48.3	重要である	12	41.4	重要である	16	55.2	重要である	4	13.8
どちらとも言えない	0	0.0	どちらとも言えない	2	6.9	どちらとも言えない	9	31.0	どちらとも言えない	3	10.3	どちらとも言えない	0	0.0
あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	5	17.2	あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	1	3.4	重要ではない	0	0.0
NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	1	3.4	NA	0	0.0	NA	0	0.0
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0
動植物などの生き物			仕事や役割			絵画や音楽などの芸術			山や川などの豊かな自然			学力や知識		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
とても重要である	7	24.1	とても重要である	5	17.2	とても重要である	5	17.2	とても重要である	12	41.4	とても重要である	3	10.3
重要である	15	51.7	重要である	16	55.2	重要である	16	55.2	重要である	14	48.3	重要である	16	55.2
どちらとも言えない	5	17.2	どちらとも言えない	7	24.1	どちらとも言えない	7	24.1	どちらとも言えない	3	10.3	どちらとも言えない	10	34.5
あまり重要でない	1	3.4	あまり重要でない	1	3.4	あまり重要でない	1	3.4	あまり重要でない	0	0.0	あまり重要でない	0	0.0
重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0	重要ではない	0	0.0
NA	1	3.4	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0

Q 4. 普段、旅行や観光に関する情報の入手媒体			Q 5. 旅行に期待・重要視すること			Q 6. 旅行はあなたにとってどのような存在か			Q 7. 過去3年間の旅行事情についてお聞かせください。							
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	回数	項目	人数	%	場所・地域	項目	人数	%
テレビ	8	27.6	日程のゆとり	16	55.2	日頃のストレスからの開放	9	31.0	0回	1	3.4		日本国内:関東	8	27.6	
ラジオ	2	6.9	高級感	2	6.9	新しい発見や出会い	13	44.8	1回～3回	6	20.7		日本国内:関東以外	18	62.1	
情報誌	10	34.5	安価	9	31.0	気分転換・リフレッシュ	18	62.1	4回～6回	11	37.9		海外:アジア	8	27.6	
インターネット	11	37.9	行先の知名度	3	10.3	エネルギー充電	4	13.8	7回～12回	6	20.7		海外:アメリカ	1	3.4	
クチコミ	5	17.2	温泉の有無	7	24.1	家族や友人との大切な時間	13	44.8	13回～19回	2	6.9		海外:ヨーロッパ	4	13.8	
旅行会社	9	31.0	観光資源	5	17.2	その他	0	0.0	20回	2	6.9		その他の海外	3	10.3	
チラシ	7	24.1	料理	9	31.0	NA	0	0.0	NA	1	3.4		NA	6	20.7	
電車の吊り広告	3	10.3	安全さ	4	13.8	回答者数	48	165.5	回答者数	29	100.0		回答者数	48	165.5	
DM	0	0.0	旅行先での健康管理	4	13.8	回答者数	25	86.2					回答者数	25	86.2	
その他	6	20.7	多様なアクティビティ	4	13.8											
NA	0	0.0	癒し	9	31.0											
回答総数	61	210.3	その他	2	6.9											
回答者数	25	86.2	NA	0	0.0											
			回答者数	58	200.0											
			回答者数	25	86.2											
Q 8. 今回のツアーはいくらまでなら参加されますか。			Q 9. 今回のツアー開催時期(季節)について			Q 10. 今回ご参加いただいたツアーの旅程について										
項目	人数	%	項目	人数	%	期間	項目	人数	%	理想の日程	項目	人数	%			
4,500円～5,000円	7	24.1	満足	22	75.9	長い	1	3.4	日帰り	16	55.2					
5,001円～6,000円	9	31.0	不満足	7	24.1	普通	24	82.8	一泊二日	7	24.1					
6,001円～7,000円	7	24.1	NA	0	0.0	短い	1	3.4	二泊三日	0	0.0					
7,001円～8,000円	6	20.7	回答者数	29	100.0	NA	3	10.3	その他	0	0.0					
8,001円以上	0	0.0				回答者数	29	100.0	NA	6	20.7					
NA	0	0.0							回答者数	29	100.0					
回答者数	29	100.0														
Q 11. ツアー内容に対する評価																
くんまフラワーパーク			とんとん広場			重粒子線医学研究センター			いきいきまちの駅「スマイル」			健康運動指導士によるストレッチ				
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%		
大変満足	7	24.1	大変満足	18	62.1	大変満足	13	44.8	大変満足	3	10.3	大変満足	12	41.4		
満足	15	51.7	満足	8	27.6	満足	13	44.8	満足	10	34.5	満足	13	44.8		
普通	6	20.7	普通	3	10.3	普通	0	0.0	普通	5	17.2	普通	2	6.9		
やや不満	0	0.0	やや不満	0	0.0	やや不満	1	3.4	やや不満	3	10.3	やや不満	0	0.0		
不満	0	0.0	不満	0	0.0	不満	0	0.0	不満	2	6.9	不満	0	0.0		
NA	1	3.4	NA	0	0.0	NA	2	6.9	NA	6	20.7	NA	2	6.9		
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0		
原嶋屋総本家(焼きまんじゅう)			群馬県庁展望ホール			健康医療都市構想のプレゼン										
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%								
大変満足	9	31.0	大変満足	6	20.7	大変満足	6	20.7								
満足	8	27.6	満足	13	44.8	満足	11	37.9								
普通	4	13.8	普通	3	10.3	普通	2	6.9								
やや不満	1	3.4	やや不満	0	0.0	やや不満	1	3.4								
不満	0	0.0	不満	0	0.0	不満	0	0.0								
NA	7	24.1	NA	7	24.1	NA	9	31.0								
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0								

Q 12. ウエルネスツーリズムの組み込む企画として、興味があるもの

食事			宿泊			見学			体験			健康・医療		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
健康食品	3	10.3	温泉・旅館	18	62.1	文化・歴史散策	19	65.5	農業体験	13	44.8	健康診断	7	24.1
自然食品	9	31.0	ビジネスホテル	2	6.9	大学の最先端技術研究	14	48.3	そば打ち	15	51.7	脳ドック	10	34.5
無農薬野菜	12	41.4	シティホテル	1	3.4	工場見学	10	34.5	こんにゃく作り	5	17.2	アニマルセラピー	1	3.4
季節野菜	10	34.5	公共宿泊施設	2	6.9	スポーツ観戦	1	3.4	ソーセージ	9	31.0	骨粗鬆症検診	4	13.8
郷土料理	10	34.5	民宿	5	17.2	NA	1	3.4	メタボ検診	3	10.3	メタボ検診	4	13.8
NA	1	3.4	オーベルジュ	4	13.8	回答者数	45	155.2	回答者数	45	155.2	血液さらさら度チェック	6	20.7
回答者数	45	155.2	ペンション	2	6.9	回答者数	25	86.2	回答者数	25	86.2	体内年齢チェック	4	13.8
回答者数	25	86.2	NA	1	3.4						食育講座	2	6.9	
			回答者数	35	120.7						基礎体力チェック	7	24.1	
			回答者数	25	86.2						重粒子線がん治療	14	48.3	
											メンタルヘルス	2	6.9	
											森林セラピー	9	31.0	
											NA	2	6.9	
											回答者数	72	248.3	
											回答者数	25	86.2	

Q 13. 前橋に対する印象変化			Q 13. 前橋に持った印象			Q 14. 再来橋の意思			Q 15. お土産購入の有無			Q 16. 健康づくり、健康増進の意識変化の有無		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
はい	19	65.5	賑わっている	3	10.3	はい	24	82.8	はい	23	79.3	変化した	18	62.1
いいえ	0	0.0	商店が多い	0	0.0	いいえ	3	10.3	いいえ	4	13.8	変化しない	7	24.1
NA	10	34.5	自然が多い	11	37.9	NA	2	6.9	NA	2	6.9	NA	4	13.8
回答者数	29	100.0	健康医療都市	16	55.2	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0
			学術都市	5	17.2									
			観光地	5	17.2									
			閑散としている	7	24.1									
			商店が少ない	2	6.9									
			自然が少ない	0	0.0									
			その他	2	6.9									
			NA	5	17.2									
			回答者数	56	193.1									
			回答者数	25	86.2									

Q 17. 「がん」について、														
がんの治療については、日本中のどの病院でも同様の治療が受けられる。			がんの治療については、できるだけ侵襲行為や副作用の少ないほうがいい。			がんの末期においてはできるだけ家で最後を迎えたい。			がん治療には部位や進行具合によってさまざまな治療法(放射線治療、抗がん剤治療、化学療法など)が存在する。			がんの診断については、セカンド・オピニオン(別な病院や医師の診断)を求めることができる。		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
とてもそう思う	4	13.8	とてもそう思う	24	82.8	とてもそう思う	13	44.8	とてもそう思う	20	69.0	とてもそう思う	20	69.0
ややそう思う	5	17.2	ややそう思う	5	17.2	ややそう思う	12	41.4	ややそう思う	9	31.0	ややそう思う	7	24.1
あまりそう思わない	6	20.7	あまりそう思わない	0	0.0	あまりそう思わない	3	10.3	あまりそう思わない	0	0.0	あまりそう思わない	2	6.9
とても思わない	13	44.8	とても思わない	0	0.0	とても思わない	1	3.4	とても思わない	0	0.0	とても思わない	0	0.0
NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0
回答者数	28	96.6	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0
自分はがんの告知を受けても病気に闘っていくことができる。			がんの発生には遺伝子の他には、日常生活習慣(食事や睡眠、運動など)も影響している。			がん治療にはお金がかかる。			がんの発生や進行にはストレスが関係している。			がんと闘うには、自然や動物、音楽や芸術など癒される環境が効果をもたらす。		
項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%	項目	人数	%
とてもそう思う	11	37.9	とてもそう思う	15	51.7	とてもそう思う	20	69.0	とてもそう思う	14	48.3	とてもそう思う	11	37.9
ややそう思う	14	48.3	ややそう思う	13	44.8	ややそう思う	9	31.0	ややそう思う	10	34.5	ややそう思う	14	48.3
あまりそう思わない	3	10.3	あまりそう思わない	1	3.4	あまりそう思わない	0	0.0	あまりそう思わない	3	10.3	あまりそう思わない	1	3.4
とても思わない	1	3.4	とても思わない	0	0.0	とても思わない	0	0.0	とても思わない	1	3.4	とても思わない	2	6.9
NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0	NA	0	0.0
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0	回答者数	28	96.6	回答者数	28	96.6

次の各質問について、しいてどちらか一方を選ばなければならないとすれば(a)か(b)のどちらですか。

項目	人数	%	項目	人数	%
(a)自分の健康に対しての直接的な責任は自分自身にある。	27	93.1	(a)たとえ病気になるとしても、自分には再び健康な状態に戻す力がある。	22	75.9
(b)専門家の指示に従うことによってのみ健康を維持することができる。	2	6.9	(b)たとえどんなことでも、もし一度病気になるにかけたとしたら、なかなか治らないと思うことがしばしばある。	6	20.7
NA	0	0.0	NA	1	3.4
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0

項目	人数	%	項目	人数	%
(a)たとえどんなに健康状態が悪化したとしても、それは自分自身に落ち度があったからである。	19	65.5	(a)医師の処方に従うことは、健康状態を保つための最善の方法である。	11	37.9
(b)健康を保てるか病気になるかに関しては他の人々が大きな影響力を持っている。	9	31.0	(b)自己管理をすることで健康をよりよく保つことができる	16	55.2
NA	1	3.4	NA	2	6.9
回答者数	29	100.0	回答者数	29	100.0

項目	人数	%
(a)健康に関する専門家たちは私の健康を維持してくれる。	4	13.8
(b)健康は、どれだけ自分自身で健康に心がけるかにかかっている。	25	86.2
NA	0	0.0
回答者数	29	100.0

E. 50代からの「暮らし」をつくる旅

日 程:平成 21 年 12 月 18 日(金)～20 日(日)

参加費:43,000 円

参加人数: なし (中止)

実施事業者:群馬中央バス株式会社

(1) 目的

いきいきまちの駅やまちなかキャンパス、充実した医療機関、豊かな自然や農業体験など、セカンドライフを送るための環境が整う前橋の生活を実際に体験してもらい、前橋での定住を促す。

(2) 実施タイムスケジュール

12 月 18 日(金)	
7:30	新宿駅
9:30～11:30	県立心臓血管センター
12:00～	昼食
13:30～14:30	群馬大学医学部附属病院
15:00～16:30	高齢者向け優良賃貸住宅・前橋広瀬川クリニック見学
16:45	前橋市内宿泊
12 月 19 日(土)	
9:00	前橋市内
9:30～10:50	いきいきまちの駅
11:20～11:50	群馬ガラス工芸美術館
12:00～	昼食
13:15～15:15	陶芸体験 貴原窯
15:45	伊香保温泉(福一)
12 月 20 日(日)	
8:30	旅館
10:00～13:00	農業体験と昼食 赤榛郷塾
11:20～11:50	みちの駅『こもち』
	帰路

(3) 中止となった原因

PR(案内)期間が短かった。また、ターゲットへの十分な PR 活動が出来なかった。

12月の忘年会時期に設定したこと。

参加費が高額であったこと。

さまざまな体験や見学などを加えたため、ツアーの魅力が出せない企画となったこと。

～ ト ピ ッ ク ス ～

☆ 群馬県立心臓血管センター 体力チェック・健康増進ウォーキング指導

①簡単な体力チェックをした後、日々の生活の中で取り入れられる運動を体験いただき、また健康的な生活を送っていただけるような身近な運動プログラムをご提案します。
②センター内の「リハビリ」パークで、健康増進所等より健康につながる歩き方（ウォーキング）のご指導をいたします。

☆ 切らずに消す「小型重粒子線がん治療施設」説明・見学

今年、群馬大学付属病院内に世界で初めて「がんを切らずに治す」重粒子線治療施設が完成し、来春より一部治療が開始されます。一般的な放射線治療（エックス線）に比べ、がん細胞だけを集中して「消いうち」することから周辺の健康な組織への影響は極力抑えられ治療の社会復帰が容易です。

今回は、開始に先駆け特別に施設を公開し、専門医の先生よりお話をいただきます。



☆ 伊勢保温泉 極一旅館 宿泊・食育講話

日本を代表する名湯「伊勢保温泉」で石垣街の最上段に位置し、緑に囲まれた最高級なお宿です。館内はゆったりとしたつくりでくつろぎを演出し、開放感あふれる露天風呂やガラス張り的大浴場では「黄金の湯」と四季それぞれに素晴らしい眺望をお楽しみいただけます。また、特別講話としてはマスコミにも頻りに紹介されている新井料理長より、「健康の源は安心食材でおいしい食事から」をテーマに食育講話と、群馬産産の道産食材を使った創作料理一品を試食いただきます。

☆ 陶芸体験 貞原窯

高級、寧ろ、古風な先達の想いを感じ、日本の美の1つである茶碗に凝らされている地元陶芸家塩原孝氏の指導により、自分だけの茶碗づくりに挑戦。

☆ 農業体験（「野菜の収穫体験・昼食」） 森徳農場

赤城山麓で、無農薬栽培にこだわる生産者「森徳」で栽培している各種野菜、大根やほうれん草など旬の野菜の収穫体験や新鮮野菜での昼食を取っていただきます。農業経験の無い方が農業を始めた話や、体験談など大変参考になる講話もあります。

実施：群馬中央バス㈱

☎ 027-280-8610

前橋市小原原町 384-1

（受付時間）

月～金曜日 9:00～18:00、土・日・祝日休業

前橋市小原原町384-1番地 電話 027-280-8610
代表 佐藤 大志
営業 佐藤 大志

- 上記で参加は希望中の方へ特典あり（以下参加）は必須、参加費をもちます。この特典は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。
- 参加費は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。
- 参加費は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。
- 参加費は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。
- 参加費は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。また、この特典は参加費に含みます。

参加費	10人～20人	21～30人	31～40人	41～50人	51人以上
参加費	30%	35%	40%	45%	50%

F. モニターツアー 湯の街伊香保 あなたも安心トレッキング

日 程:平成 22 年 1 月 15 日(金)～16 日(土)

参加費:なし

参加人数:4 名 (上毛新聞、東京新聞、ぐんま経済新聞、月刊ヴィアン)

実施事業者:なし

(1) ツアーの目的

マスコミ関係者や旅・健康関係の雑誌社のスタッフにツアーを体験してもらい、広く情報誌や新聞等に当取り組みについて掲載していただき、多くの方々に周知してもらうことを目的とする。

(2) 実施タイムスケジュール

1月15日(金) 7:00 10:00～13:15 13:45～15:00 15:30～16:30 17:15～	八重洲鍛冶橋バス駐車場集合(八重洲富士屋ホテル向かい) 群馬県立心臓血管センター 健康・体力チェック/院内昼食 いきいきまちの駅「スマイル」説明・見学 「小型重粒子線がん治療施設」説明・見学 場所:群馬大学医学部付属病院 重粒子線医学研究センター 講師:助教 加藤弘之 先生 宿泊 伊香保温泉 福一旅館
1月16日(土) 8:30 9:00～10:30 11:30～13:30 14:10 14:30	福一旅館出発 トレッキング体験『つつじが丘コース』 約60分コース 森林公園管理棟 もみじの広場 つつじが丘 つつじの 広場 森林公園管理棟 みゆきだ農産物直売所 そば打ち体験・昼食 前橋商工会議所 関越道 前橋ICより東京駅鍛冶橋へ(17:00到着予定)



■ 体力チェック



■ 正しい歩き方教室



■ 健康と運動について講義



■ 重粒子線治療施設見学



■ 伊香保トレッキング



■ そば打ち体験

(3) 詳細と反省点

群馬県心臓血管センター

全体のスケジュールを多く盛り込んだため、大まかな結果と一般的な生活改善についてのお話をいただくこととなり、健康運動指導士による個別の健康指導と、医師による個別相談を省いたことは残念であった。

重粒子線がん治療施設

臨床試験も行われるようになったため、施設の概要や重粒子線のしくみ、治療方法の説明を聞きながら、照射治療室や照射リハーサル室などを見学した。
さすがに関心は高く、質問の鋭さに金井先生も舌を巻いていた。

伊香保温泉「福一」での食育講話および宿泊

諧暢楼新井料理長より“健康の源は安心食材でおいしい食事から～地産池消の大切さ～”をテーマに講話をいただいた。
伊香保周辺の逸品食材(宮内庁御用達の洋なし等)を使用した創作デザートが提供されるなど、和やかな雰囲気でお話を伺うことができた。

つつじが丘コースでのトレッキング体験

渋川広域ガイドの会の萩原氏と入澤氏によるガイドを聞きながら、榛名の山道を全長およそ4kmコースにてトレッキング体験を行った。

森林公園管理棟 もみじの広場 つつじが丘 つつじの広場 風穴利用貯蔵庫 森林公園管理棟

山道は雪が積もり足元が悪く下半身への負荷も適当に掛かり運動量からも、初心者向きの雪道トレッキングには十分であると感じた。

時季については、つつじが満開を迎える5月や紅葉が始まる10月下旬頃が、初心者のトレッキングコースとして適当である。

みゆきだそば工房でのそば打ち体験・昼食

地元の渋川市行幸田地区で収穫された上質のそばの実「豊秋そば」を100%使用し、そば打ち名人の中野女史よりこね・延し・切りまでの行程を手際よく教えていただいた。

初めての体験であっても完成度と満足度は高く、試食時の笑顔がそれを物語っていた。

全体について

大きなトラブルもなく時間通りの行程を進めることができた。

参加者から、医療と観光を結びつけた新しい観光事業創出への取組みは他都市にも例が無く画期的な事業なので、今後も継続するようにとの励ましの言葉もらった。

(4) 周知広報活動

マスコミ関係者へ下記の通り訪問し、モニターツアーの参加を依頼するとともに、前橋が進めている「健康医療都市構想」の説明や前橋の観光地のPRを行った。

日 時：平成21年12月24日(木) 午後2時～

訪問先： アルパインツアーサービス(株) 『山と渓谷社』

(東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4F 3-3503-1911)

(株)インターナショナルホームメディカル 『遊和』

(東京都品川区西五反田7-22-17TOCビル5F 03-5436-8664)

東京新聞(中日新聞東京本社)

(東京都千代田区内幸町2-1-4 03-6910-2211)

日本経済新聞社 東京本社

(東京都千代田区大手町1-3-7)

ぐんまちゃん家

(東京都中央区銀座5-13-19 03-3546-8511)

「モニターツアー」 ～湯の街伊香保 あ谷たも安心トレッキング～ H22. 1. 15 (金) ～16 (土)

＝内閣府・地方の元気再生事業 ウエルネスツーリズム(モニターツアー)＝

<ツアー行程>

1月15日(金)

7:00

10:00～13:15



13:45～15:00



15:30～16:30



17:15～



八重洲駅南口バス駐車場集合(八重洲富士屋ホテル内から)

群馬県立心臓血管センター 健康・体力チェック/院内検査

・・・県立心臓血管センターは、心臓血管系疾患を中心に診療している県立病院。総合リハビリ棟や脳リハビリテーション「くまもりリハビリパーク」が併設され、理学療法士や健康運動指導士の指導により、病後の身体のリハビリや体力回復など社会復帰までの支援も充実しています。

いきいきまちの駅「スマイル」

・・・前橋中心市街地に、健康情報発信拠点としていきいきまちの駅「スマイル」をオープンしました。ここでは、日常的な健康チェックや各種健康相談、健康づくりの講座など分かりやすく、そして楽しい健康プログラムを提供するほか、イベント・観光情報や、食・生活学習情報、暮らしに役立つ耳寄り情報など、様々な情報を発信する「来て、見て、楽しむ」新しい街の交流拠点。

切らぎに訪す「小型重粒子線がん治療施設」説明・見学

場所：群馬大学医学部付属病院 重粒子線医学研究センター

講師：同 センター 助教 加藤弘之 先生

・・・群馬大学医学部付属病院の重粒子線治療施設は新及型として従来の3分の1に小型化された日本で初めての治療施設であり、国内外から多くの注目を浴びています。本施設はこの重粒子線医学研究センターを担う加藤先生にご説明いただきます。

宿泊：伊香保温泉 楓一旅館

・・・日本を代表する名湯「伊香保温泉」で石段の最上段に位置し、緑に囲まれた静かなお宿です。館内はゆったりとした作りでくつろぎを演出し、大浴場では源泉の「黄金の湯」が堪能できます。また、特設講座としてはマスコミにも頻りに紹介されている新井科長より、健康の源は安心食材でおいしい食事から各テーマに食育講話と、群馬産産の食品食材を使った創作料理一皿を試食いただきます。

1月16日(土)

8:30 都一跡跡

9:00~10:30 トレッキング体験「つつじが丘コース」 約60分コース
 森林公園管理棟 ⇒ もみじの広場 ⇒ つつじが丘 ⇒
 つつじの広場 ⇒ 森林公園管理棟
 ・・・・トレッキング体験として伊香保の「つつじが丘コース」の
 散策を行っていただきます。所要時間は60分程度で、一般向けの
 歩きやすいコースを地元のわがまち案内人がガイドいたします。
※雪や凍結が心配されますので、スノーシューズをご用意ください。

11:30~13:30

みゆきだるま産物販売所 そば打ち体験・昼食



こね



切り

・・・みゆきだるま工房にて、地元の行幸田で収穫された上級の
 そばの実「豊秋そば」を使用し、そば打ち名人が
 こね・延し・切りの順に手際よく教えていただけ
 ます。昼食は、ご自分の打ったそばに舌鼓してく
 ださい。



延し

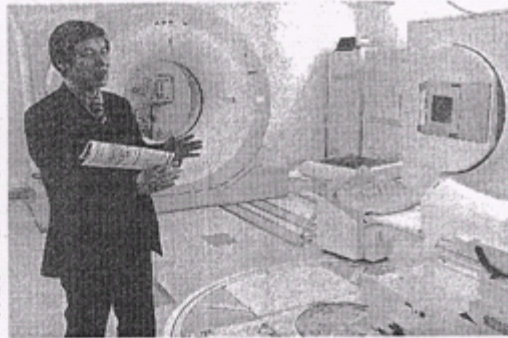
14:10 前橋商工会場所

14:30 開館式 前橋ICより東京駅南口へ(17:00予定)へ

※天候や、交通状況によって変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

健康の大切さ確認を

「骨盤にできた骨肉腫にも有効」と重粒子線治療について説明する金井客員教授。群馬大重粒子線医学研究センター



ウェルネスツーリズム
体の現状を知る 20代の自分が最も若く、ほかの3人は40、50代だった。同協議会会議所を出発したバス乗客の大半は、バスから「健康増進」はま

健康をテーマにした新しい観光のあり方を提言している。前橋市のウェルネスツーリズム推進協議会が、市内の医療関連施設と伊香保温泉などを結んだモニターツアーを企画した。15、16の両日行われた記者向けのバスツアーに参加し、ウェルネスツーリズムの一端に触れてみた。

(鈴木隆智)

医療と観光で新提案

構想実現へ 前橋市など 温泉地など連携

片足立ち、バランス感覚をチェックする 群馬大重粒子線医学研究センター



ランニングや、腹を渡されてひと安心。筋運動を30秒間に何回、それでも、あまりの疲

自身の体の状態を知ることが大切」と説明。歩行、姿勢、筋力、心臓血管センター（同市温泉地）に到着した。さっそく身体測定、血圧測定、続いて採血。体力測定は片足で何秒立っていられたかのバ

胃の積った山道を歩く。冷気が肌を刺すが、なんとも心地よい。群馬大重粒子線医学研究センター



最新のがん治療 次は群馬大重粒子線医学研究センター（同市昭和町）へ。重粒子線治療はがんを切り、余り健康チェック。質に治療することが最。新医療。従来の3分の1に小型化された日本。で初めての治療施設。で、国内外で注目されている。治療室を案内してく。れた同センターの金井客員教授は「3月。から実際に治療を始める。2、3年かけて年

メモ

ツアーモデルの確立図る

前橋市と前橋商工会議所などは、市民が生き生きと健康的に暮らせる「まえばし健康医療都市構想」の実現化に取り組んでいる。ウェルネスツーリズムはこの構想の一つの柱。具体的には、群馬大などの市内医療施設と県内の温泉地や観光スポット、食などを結び、健康をキーワードにしたツアーモデルの確立を目指している。同市や同商工会議所などでつくるウェルネスツーリズム推進協議会は、医療と観光を結んださまざまなツアーを提案している。

散策やそば打ち。バスは一路、伊香保温泉へ。旅館では温泉「黄金の湯」で体を。うが若い人でも結構。を癒やした。翌日は午前9時から、群馬大重粒子線医学研究センターの参加者は「前橋は初。森林公園内をトレッキ。ング。地元ガイドの案。が意外に感じるほどの。1時間半かけて歩く。ひんやりと澄んだ空。いう切り口で、さ。はすがすがしく、気。のツアーが考えられ。た。締めくくりは、川。るのではないだろう。市行幸田で地元そば

科 学

「健康都市」の試み

前 橋

「健康都市」の試み。前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。

（前橋市）に設置された重粒子線治療装置。がんの治療に用いられる。

重粒子線がん治療 核に

群馬大で今春「技術・人材を発信」

市民講座や観光ツアー

【前橋市】前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。

【前橋市】前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。

【前橋市】前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。前橋市は、がんの予防と治療の面で、市民の健康を第一と考える。がんの予防には、生活習慣の改善が重要。がんの治療には、最先端の医療技術が不可欠。

【第三郵便物認可】

【購読料1ヶ月3800円・消費税込み】

く

3月に「むかしウォーキング」

健康ツアー来年度も継続

内閣府の「地方の元気再生事業」の指定を受けて「ウェルネスツーリズム」を展開する前橋商工会議所は、3月13日に最終行事として「上毛電気沿線 前橋むかし物語ウォーク」（上毛電気鉄道共催）を実施する。地元の人による歴史案内と、専門家のウォーキング指導が付くユニークなハイキング。指定期間は今年度で終了するが、新年度

以降も健康ツアーを継続していく考えだ。

むかし物語ウォークはA、Bの2コース。コースAは「新陰流 流祖剣聖上泉伊勢守の歴史をひもとく編」として、上電上泉駅からゆかりの諏訪神社、上泉城、西林寺、伊勢守生地、善勝寺を歩き、片貝駅で解散。

コースBは「粕川の歴史・城跡を巡る編」として、粕川駅から女淵城跡、膳城跡、粕川歴史民俗資料館、多量塔、山上城跡

を回り、新里駅で解散。

A、Bともに集合は中央前橋駅。歩き出す前に県立心臓血管センター内リハビリパークで、日本ウォーキング協会公認専門講師から、歩き方の基本を教わる。ウォーキングの間も講師が付き、疲れにくいペース配分などを助言する。歴史の部分では、地元自治会などが協力し、昔話を交えながらコースを案内する。



伊香保森林公園で実施したモニターツアー

募集人員は各コースとも30人（先着順）。参加

費は5000円。上電運賃は別途となるが、どの駅から乗車しても1割引きのサービスが受けられる。持ち物は弁当、飲み物、雨具など。

同会議所では次年度以降のツアーの参考とするため、1月中旬「湯の街伊香保 あなたも安心トレッキングツアー」と銘打ち、モニターツアーを

実施。心臓血管センターでの体力測定と、重粒子線治療施設等、伊香保温泉宿泊、伊香保森林公園散策、そば打ち体験などの内容で行った。

参加者からは、「ウォーキング前の健康チェックが安心につながった」「体を動かす習慣を付けたい」など健康面の効果や、森林浴の気持ち良さ、

郷土食を評価する声が多く寄せられ、重粒子線施設への関心も高かった。

同会議所では「2年間の指定期間で培ったものを生かし、来年度以降もさまざまな健康ツアーを企画、継続していきたい」と話している。問い合わせは同会議所商工観光課 ☎0271-234151 08へ。



また、そのほか、この調査期間中に、
カネの集約で、



完備した市場に限り、この性質は必ずしも成り立たない。



国川四ではそはあじう体候。その後以全周で
「うちにて一宿にて」思ふは思はわった。

「医療と観光」
健康をテーマにした
新しい形のツアー

前橋庭工芸会館所が中心となつて街の街伊香保あ
たはウエルネス・リズムム「湯の街伊香保あ
なたも安心・トレーニング」に参加した
れは内閣府による地方の元気再生事業の一環
として、群馬大学前橋キャンパスには有数の医療
施設を持つ前橋市にある「健康と生活」を
を核とした健康推進型「訪客ツアー」これ
までにない画期的かつユニークな旅の形だ

ツアーのスタートは県立心臓血管センター。各種検査や身体機能測定を行い、自分の体力や体の弱点を知るとの結果は体力良好、心疾患の測定値も問題なし。

続いて健康運動指導士から、中高年の安全な山登りについて、ウォーキング法を学ぶ。健康メデイカルチームで自分を知った上で運動にトライすることの大切さを再認識した。

昼食は塩分少なめのヘルシー定食
主役は「蒸し白ススキのきのことあん
かけ」と「十五穀米入りご飯」薄味
のためか、完食しても腹八分目な感
じ。銘エネルギーには「¹糖²い³5⁴4キロ
カロリー」だった。

午後は、群馬大学重粒子線医学研究センターへ。この3月から、病巣だけを狙い撃ちして、がんを切らずに治す「先進医療（重粒子線治療）」治療が開始された。

1日目の最後は、本日宿泊する伊香保の福三旅館へ。そこでは「諸福楼」



男の心は第22巻の1話は伊藤洋子と奥村和子に登場



経済学は経済学としての研究センターで国際手帳を手にして研究の力を

で腹を揺るぐ新井料理長から安全食材の食育講話を聞く。鴻川市の栽培農家で作る日本で唯一の幻の野菜「ゴキウス」を使ったチャーベットとイチゴソースを試食、素材本来がもつ味わいを堪能した。

2日目は伊香保温泉公園内の山歩きから「わがまち案内人」のガイドで初心者向け「つづじが丘コース」に挑戦。雪が残るものの比較的フラットな登山道を歩く。清々しい空元の中、一時雪の冬の山歩きを楽しめた。

最後の立ち寄りには『みゆきたまは上院』
非元のソバ粉を使い、名人の指導の元、そ
ば打ち体験だ。作品(3)は無事、円装へ

通常の提

にはないプロ
グラムのこの
22年
イグスクール
生と保護
者のオー
ディエンス
の歴史をひも
と、疑問を返
す。午前9時30分
上記の各日、市
027-204-51

度も一掃
と医療」を
マに多彩な
コースが用意
されている。

健康づくりウォーキング
上野電
前橋むかし社
日本ウォーキング協会
☆コース 上原伊勢
作コース 船川の歴史
●開業 3月13日
●会費 500円

（ウレハス）スプリング
前橋阿佐会館所

健康づくりウォーキングスクール開校
上野電鉄沿線
前橋むかし物語ウォーク
日本ウォーキング協会認定指導員による指導
〈コース〉上原伊勢守の歴史をひもとく
コース 堀川の歴史・城跡を巡る
●開講／3月13日 午前9時30分～
●料費／500円

（フリスビー・リズミクス・ダンスの部）
前巻商工会館所 電話27-234-5108

G.“前橋発・最先端の放射線技術を探る”

日 程:平成 22 年 1 月 22 日(金)～23 日(土)

参加費:15,000 円 (日帰り 昼食含む 2,000 円、日帰り 昼食・夕食含む 6,000 円)

参加人数:8 名 (JAPIC 関係者)

実施事業者:群馬中央バス株式会社

(1) ツアーの目的

高度先進医療である重粒子線照射施設を紹介しがん治療の有効性を紹介するとともに生活習慣病の一つである「がん」についての知識や理解を深めてもらい、日々の生活改善を促すために開催したものである。

(2) 実施タイムスケジュール

1月22日(金)	
8:00	八重洲鍛冶橋バス駐車場集合 (八重洲富士屋ホテル向かい)
10:00～11:30	日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所 視察
11:50～12:40	昼 食 たむらや 低カロリー料理
13:10～14:10	「小型重粒子線がん治療施設」説明・視察 場所:群馬大学医学部附属病院 重粒子線医学研究センター 講師:客員教授 金井 達明 先生
14:20～14:40	原嶋屋 焼きまんじゅう
14:50～15:30	いきいきまちの駅『スマイル』
・	商工会議所の取組みについて
・	健康測定器を使用しての測定
16:00	コンフォート前橋チェックイン
17:00～20:30	富士見温泉『見晴らしの湯ふれあい館』で入浴後、 地元食材による夕べの宴
21:00	コンフォート前橋 宿泊

1月23日(土)	
8:45	コンフォート前橋 出発
9:30～11:00	群馬県立土屋文明記念文学館 視察 かみつけの里博物館 視察
11:20～12:10	群馬県立日本絹の里 視察
12:30～13:20	伊香保 鶴亀庵 県産地粉による手打ちうどん
13:40～15:30	ハルナガラス ガラス工房視察および絵付け体験
16:30	前橋商工会議所
17:00	関越道 前橋ICより東京駅鍛冶橋へ (19:30到着予定)



■ 高崎原子力研究所見学



■ 「がん」についての知識・理解を深める



■ 重粒子線治療施設見学



■ 健康と食について講話



■ ガラス工芸体験

(3) 概要と反省点

日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所 視察

本研究所では、放射線(イオンビーム、電子線、ガンマ線および陽電子)利用の研究開発を実施している。特に、ナノテクノロジー・材料や環境・資源、バイオ技術などの先端科学技術の研究に利用するサイクロトロンと静電加速器で構成されるイオン照射研究施設(TIARA)では、カクテルビーム加速技術・フラットトップ加速技術・マイクロビーム技術等、高度で独自の加速器技術に加え、大気中マイクロビーム PIXE(粒子線誘起X線)分析やプロトンビーム描画(PBW)などオンビーム応用技術の開発を実施してる。

実際に菊やバラなどの種に放射線を当てる準備をしているところなどを見学し、放射線で便利になったものや食材などが、知らず知らずのうちに生活の中へ数多く入り込んでいることに、あたらめて感心した。放射線と聞くだけで、日本人は拒絶反応するが、便利に使われていることも知らないといけない。

たむらや

600カロリーの食事を提供されたが、意外にボリュームがあり満足感のある食事であった。

これらを患者へうまく指導していけば、糖尿病や生活習慣病の対策として効果のあるものと考えられる。

富士見温泉『見晴らしの湯ふれあい館』

地産地消の食事とお酒で、皆さんが満足されたようであった。

赤城の麓とあって、夜景の眺望がとても素晴らしいと感じていただけた。

群馬県立土屋文明記念文学館、かみつけの里博物館 視察

案内人が付いて説明を受け、詳しく知ることができた。

群馬県立日本絹の里 視察

案内人が付いて説明を受け、詳しく知ることができた。

伊香保 鶴亀庵

県産地粉による手打ちうどんは、地産地消の食材で大変喜ばれた。

ハルナグラス

絵付け体験は、指導者の細かい指導がほしかった。

「ウエルネスツーリズム」

「前橋発・最先端の放射線技術を探る」

H22. 1. 22 (金) ~ 23 (土)

＝内閣府：地方の元気再生事業 ウエルネスツーリズム＝

<ツアー行程>

1月22日 (金)

8:00

八重洲駅前バス駐車場集合 (八重洲富士屋ホテル向かい)

10:00~11:30

日本原子力研究開発機構高崎量子応用研究所 視察



本研究所では、放射線（イオンビーム、電子線、ガンマ線及び陽電子）利用の研究開発を実施しています。特に、ナノテクノロジー・材料や環境・資源、バイオ技術などの先端科学技術の研究に利用するサイクロトロンと静電加速器で構成されるイオン照射研究施設 (TIARA) では、カクテルビーム加速技術・フラットトップ加速技術・マイクロビーム技術等、高度で独自の加速技術に加え、大気中マイクロビームPIXE (粒子線誘起X線) 分析やプロトンビーム描画(PBW)などイオンビーム応用技術の開発を実施しています。

11:50~12:40

昼食 たむらや ※低カロリー料理

13:10~14:10

切らずに治す「小型重粒子線がん治療施設」説明・視察



場所：群馬大学医学部附属病院 重粒子線医学研究センター

講師：重粒子線医学研究センター 客員教授 金井 達明 先生

今年、群馬大学附属病院内に世界で初めて「がんを切らずに治す」重粒子線治療施設が完成し、来年より一般治療が開始されます。一般的な放射線治療（エックス線）に比べ、がん細胞だけを集中して「弱いうち」"することから周辺の健康な組織への影響は極力抑えられ術後の社会復帰が容易です。今回は、開設に先駆け特別に施設を公開し、専門医の先生よりお話をいただきます。

14:20~15:40

原嶋屋 焼きまんじゅう ※時間によって

14:50~15:30

いきいきまちの駅「スマイル」



・商工会議所の取組みについて

・健康測定器を使用した測定

前橋中心市街地に、健康情報発信拠点としていきいきまちの駅「スマイル」をオープンしました。ここでは、日常的な健康チェックや各種健康相談、健康づくりの講座など分りやすく、そして楽しい健康プログラムを提供するほか、イベント・観光情報や、食・生涯学習情報、暮らしに役立つ耳寄り情報など、様々な情報を発信する「来て、見て、楽しい」新しい形の交流拠点。



16:00

コンフォート前橋 ※チェックイン、日帰りの方は前橋駅へ

17:00~20:30

富士見温泉「見晴らしの湯ふれあい館」



・入浴後、地元食材による夕べの宴

赤城山麓にあり源泉の日帰り温泉施設。泉質はナトリウム・カルシウム・塩化物温泉でpH6.7、効能は関節痛、五十肩、運動麻痺、打ち傷、外傷、痔疾、冷え性、消化器病等健康増進が図れる温泉です。入浴後は、地元食材を使った小料理長自慢の郷土料理をご堪能いただけます。

21:00

コンフォート前橋 ※宿泊、日帰りの方は前橋駅へ

1月23日(土)

8:45 コンフォート前橋 出発

9:30~11:00

群馬県立土屋文明記念文学館又はかみつけの里博物館 視察
 ・歌人土屋文明氏の業績を記念し、短歌や生涯を紹介した文学館
 ・史跡指定の保漣田古墳群を「上毛野はにわの里公園」



保漣田古墳群



とする中核施設

土屋文明氏は、明治23年に群馬県上野村(現高崎市)に生まれアララギ派歌人として活躍。また、東大在学中には芥川龍之介、久米正雄らと第三次「新思潮」の同人に加わり、井出誠太郎の筆名で小説、戯曲を書いています。主な著書に『万葉集年表』、『万葉集私注』、『短歌入門』、『ふゆくさ』等があります。

紀元5世紀、今から約1500年前群馬一帯は上毛野国(かみつけのくに)と呼ばれ、榛名山南東地域一帯を治めた王族が存在しました。現在も当時のまま保漣田古墳群(国指定史跡)が残っており、歴史の重みを感じることができます。

11:20~12:10

群馬県立日本絹の里 視察



・伝統ある群馬県の養蚕絹業の足跡を紹介

“絹と生糸は日本一”と古くから言い伝えられているように、群馬県と言えば江戸時代から養蚕絹業が盛んでした。幕末から明治時代までの養蚕絹業の発展や伝統的な技術が紹介されており、その技術は現在においても受け継がれています。

12:30~13:20

伊香保 鶴亀庵 ※県産地粉による手打ちうどん

13:40~15:30

ハルナガラス ※ガラス工房視察及び絵付け体験



ハルナガラスでは、伝統工芸としての本格的なガラス作りが体験ができます。今日は、お皿づくりを体験していただきます。



16:30 前橋商工会議所

17:00 関越道 前橋IC

19:30 八重洲留治橋バス駐車場到着予定

H. 健康づくりウォーキングスクール “上毛電鉄沿線 前橋むかし物語ウォーク”

日 程:平成22年3月13日(土)

参加費:500円

参加人数:17名(コースA:12名/コースB:5名)

実施事業者:上毛電気鉄道株式会社

実施協力者:上泉町自治会・前橋東部商工会(女性部)

(1) ツアーの目的

昨今は、健康志向の向上を求めジョギングやウォーキングが各世代に亘ってブームになっているが、安易に始めるケースが多く知識不足から健康増進とは逆効果になっている事が過分に予想される。また、ウォーキングを始めたいがやり方が分らず指導を求める声を聞く中で、様々な地域で開催されている一般的なウォーキング事業に加え、スクールの要素を組み入れた新しい事業を構築する。また、市民の貴重な公共交通機関である上毛電気鉄道と沿線地域が連携を図り一体となることで、鉄道の利用促進と沿線地域のにぎわい創出をもたらす相乗効果が図れるような仕組みを構築する。

(2) 実施タイムスケジュール

3月13日(土)

コースA 10:00 10:05～10:30 10:30～11:15	- 新陰流 流祖 上泉伊勢守の歴史をひもとく - 群馬県立心臓血管センターリハビリパーク集合 開会式 ウォーキングスクール開校 場所:群馬県立心臓血管センターリハビリパーク 講師:群馬県ウォーキング協会 日本ウォーキング協会公認講師 橋本 雅子 高橋 弘 坂庭 節 植木 茂 小林 崇宣 外山 豊造 内容:靴の正しい履き方・正しい選び方 ウォーミングアップ・クールダウンの重要性 正しいウォーキング姿勢・歩き方 水分補給の必要性
---	--

11:27 ~ 11:31	上毛電鉄に乗車 上泉駅へ移動後、ウォーキング開始
11:35	諏訪神社 以降、田村二男氏(上泉町自治会)の案内
12:15	
12:30 ~ 13:15	上泉城址・上泉郷倉 昼食 上泉自治会館
13:30 ~ 14:10	上泉自治会よりけんちん汁等の提供 西林寺 上泉伊勢守の歴史について講話
14:35	講師:
14:50 ~ 15:00	井上武士 生地 善勝寺 鉄蔵阿弥陀如来坐像拝観
15:35	説明: 片貝駅 解散 クールダウン

[illegible]

コースB	- 粕川の歴史・城跡を巡る -
10:00	群馬県立心臓血管センターリハビリパーク集合
10:05 ~ 10:30	開会式
10:30 ~ 11:15	ウォーキングスクール開校 場所: 群馬県立心臓血管センターリハビリパーク 講師: 群馬県ウォーキング協会 日本ウォーキング協会公認講師 橋本 雅子 高橋 弘 坂庭 節 植木 茂 小林 崇宣 外山 豊造 内容: 靴の正しい履き方・正しい選び方 ウォーミングアップ・クールダウンの重要性 正しいウォーキング姿勢・歩き方 水分補給の必要性
11:27 ~ 11:42	上毛電鉄に乗車 粕川駅へ移動後、ウォーキング開始
12:00	女淵城址 以降、宮崎高志氏(市文化財保護指導員)の案内
12:20 ~ 13:15	昼食 女淵地区公会堂 前橋東部商工会女性部よりけんちん汁や漬物等の提供
13:45	膳城址
14:00	粕川歴史民俗資料館
14:45	多重塔
15:05	山上城址
15:45	膳駅 解散 地元新鮮野菜の直売所を設置 クールダウン

■ Bコース地図



■ ウォーキングスクール



■ 粕川駅出発



■ 上泉伊勢守をひもとく



■ 地元産新鮮野菜の直売

(3)概要と効果

ウォーキングスクール

日本ウォーキング協会の公認を受けている専門指導員より、ウォーキングの際に最も重要とされている4つのポイントを中心に講習会を実施した。

1)靴の正しい履き方・正しい選び方

靴は同サイズであっても、メーカーによって異なるので購入する際は注意が必要。靴を履いた際に、靴の中で足の遊び(ユルユル感)があると靴ずれやまめの原因になるため、足にフィットしていることが重要なポイントである。また、靴紐は緩まず少しきつめに縛り、長い場合は解けやすくなるので2重縛りをするなどの工夫が重要。

2)ウォーミングアップ・クールダウンの重要性

ウォーミングアップによる効果として、以下の2点を意識することが重要。

- ・ 休息状態の筋肉や関節を解し身体を柔軟にする。 けがの防止対策
- ・ 筋肉細胞を刺激し、身体全体の運動能力を向上させる。 全身運動力の向上。但し、ストレッチでは筋肉や腱にあまり負荷をかけすぎると逆効果になるので注意が必要で、ゆっくりとやさしく動かすことがポイント。また、クールダウンは翌日に筋肉疲労を残さない効果が得られるので、必ず実践することが大切である。

3)正しいウォーキング姿勢・歩き方

一般的には、平坦な道を歩くのと山道を歩くのでは姿勢は異なるとのこと。本スクールでは、平坦な道での正しい歩行姿勢について解説してもらった。ポイントとしては、“姿勢の良し悪し”や“歩幅の加減”で体力消耗への影響は顕微鏡であり、その日の体調にもよるが歩行距離も短くなってしまうので、正しい歩行姿勢の維持は意識的に行うことが重要である。また、歩行スピードも重要なポイントであり、あまりゆっくりだとカロリー消費もされず運動効果が薄くなってしまう。逆に、早いと心臓等へは過剰な負担となり大惨事を招く恐れがあるので、無理せずにマイペースを守ることが大切である。

4)水分補給の必要性

根性論が主流の時代には、水分補給はご法度であり体力強化にならないとの教えであったが、それは大きな間違いであり現代スポーツ論では、体力回復に最も有効的な手段として水分補給であることが医学的にも証明されている。水分不足に代表される、脱水症状や熱中症など大変危険が伴うので、適度の水分補給が必要で一般的には20分～30分の目安で1口分の水分量が適量である。

ウォーキング

このウォーキングでは、6kmコースと10kmコースの2パターンを設定し自身の体力

に合った距離を選択できるようにし、参加者が無理をしないような工夫を試みた。特徴としては、城址や文化史跡を巡る観光的な要素に“学び”と“交流”の要素を付加価値として加えることにより、一般的なウォーキング内容に比べ質の高い温かみのある内容が実現できた。また、コース中に解説場所を数箇所設けることで、適当な休憩時間と水分補給の機会となり疲労感を抑える工夫を図ることができた。

特に“学び”においては、地元の文化財保護指導員が案内人として同行することで、各文化史跡での理解度が深まり一般的な解説だけでなく、地元にも言い伝えられている逸話まで聞くことができるなど、おもしろさを加えることができた。

また“交流”においては、地区の自治会や商工会女性部と連携することで、地域住民と参加者とで会話が生まれコミュニケーションを図ることができ、温かみのある“おもてなし”が実感できる雰囲気を作れた。

(4)課題・問題点

コース選定やルート決めをする際は、地元の住民や文化財指導員の意見を聞き、ウォーキング協会指導員のノウハウを組入れることが必要だった。

- 1)危険なルートの回避ができる
- 2)景観が良く心身ともに心地よいルート選択ができる
- 3)コース内容に、地域ならではのストーリーが組入れられて内容の充実が図れる

(5)全体として

地元の鉄道事業者である上毛電気鉄道(株)が主体となり、沿線の粕川地区・上泉町、ウォーキング協会との連携が図られたことにより“健康”“観光”“学び”“交流”の4つの要素を組入れ、地域が一体となった新しいウォーキング事業の仕組みが構築された。

また、上毛電気鉄道(株)から“健康”の部分での充実を図るべく、医療分野のノウハウを取り入れられるような連携を求める行動が生まれた。

3. 取組の効果

以上のようなウェルネスツーリズム事業から得られた効果は、次のように整理できる。

(1) 特色あるツアーの開催

従来存在しえなかった医療機関と周辺温泉地、さらに農産物生産者、飲食提供者、エージェンツ(バス事業者)などの連携が芽生え、今までにない健康医療に特化したツアーを企画・実施することができた。

(2) 医療機関との理解・連携の進展

医療機関の中でも、総合病院(群馬大学医学部附属病院)と、周辺中核病院(県立心臓血管センター・前橋中央病院・前橋日赤病院・関越中央病院・済生会病院他)とがその役割を認識し、連携を求める行動が始まった。目的にあった個々の健康プログラム提供や健康運動指導の実践に目途が立った。

(3) 温泉地との都市連携の進展

伊香保温泉や万座温泉、水上温泉等の温泉地から本事業に賛同し、自らツアーおよび健康増進プログラムの企画・提案をする事業者が現れるなど継続的な事業展開を図るうえで、主役となる方々の連携が進展している。糖尿病患者用の夕食メニューや地産地消の料理の開発に取り組む温泉地ホテルなどおもてなしの醸成が進んでいる。

(4) エージェンツ(バス事業者)の意識改革

ツアーに参加する過程において、エージェンツ(バス事業者)側から、各観光名所等を含めたさまざまな知識レベルの向上を図るべく研修会開催が要望されるなど、顧客満足のための積極的な姿勢が出てきている。

(5) 農産物生産者との本格的な連携の実現

安全で安心な農産物をこだわって生産している農産物生産者との幅広い連携が生まれ、ツアーを通じて多くの方々に地産地消の良さを伝えることができた。また、野菜ソムリエから食を通じての健康管理方法などの講話を聞くことにより、参加者の健康意識を向上させることが出来た。こうしたツアー企画の中から中心市街地での「まえばし特産料理」の開発などの道筋が生まれた。

(6) 障害者等への受入れに対する支援体制の構築

障害者等への受入れに対する支援体制を構築するために、大学・ボランティア団体と各施設の連携が始まり、人材教育プログラムを開始することができた。

(7) 健康の意識付けが図られた

ツアーを通して健康づくりに対する気づきや意識変化が図られ、日頃の食事や運動の実践に繋がった。

(8) 地域で支えあうネットワーク作りへの意識変化

エージェントや観光施設との新たな連携が始まり、アイデアを出し合うようになった。さらに、宿泊施設と農業施設との具体的な結びつきが出来るなど、ビジネスマッチングへの展開が生まれ始めた。

(9) 鉄道事業者と沿線地域が連携した新しい事業が開始

上毛電気鉄道が沿線地域との連携を求め、沿線の自治会(上泉町・女淵地区等)や商工会(前橋東部商工会・富士見商工会)、ウォーキング指導者と連携協力を図り、健康増進ウォーキングツアーが実施され、事業推進の仕組みが構築された。

4. 取組の検証(顧客ニーズの視点から)

10 月に開催された赤城山のトレッキングツアー、11 月と 12 月に開催されたウェルネスツーリズムの合計 59 名に対するアンケート調査を基にウェルネスツーリズム事業の課題を整理する。

アンケート集計したツアー

あなただけの 赤城山トレッキング (平成 21 年 10 月 26 日～27 日)

前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅

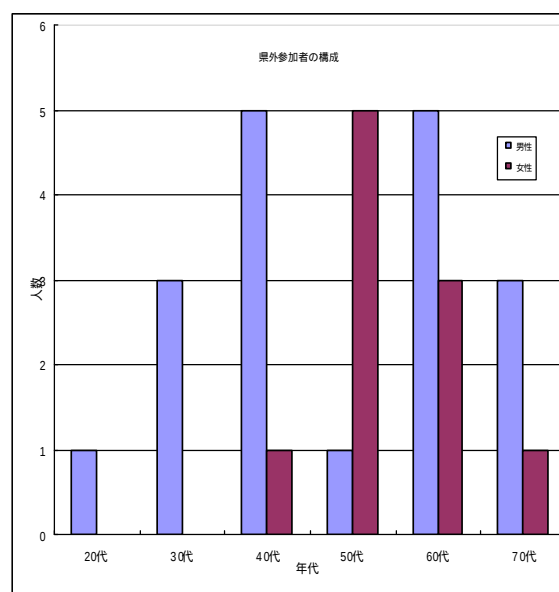
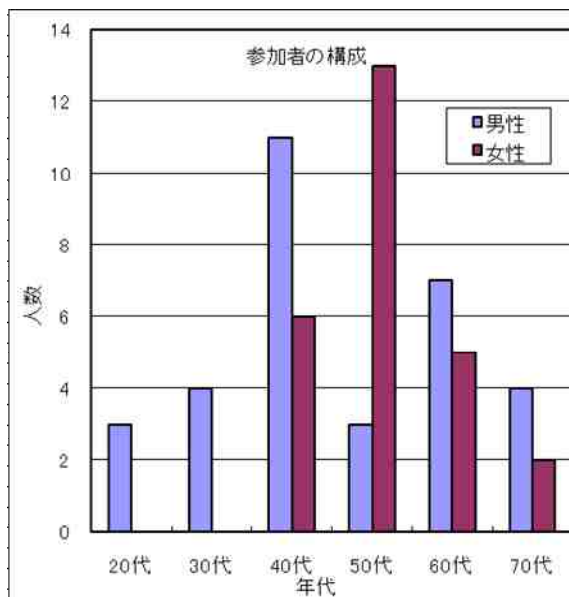
～がんを切らずに治す重粒子線治療を知る～ (平成 21 年 11 月 4 日)

健康医療都市まえばしの旅 ～前橋の最先端医療・治療施設見学の旅～ (平成 21 年 12 月 7 日)

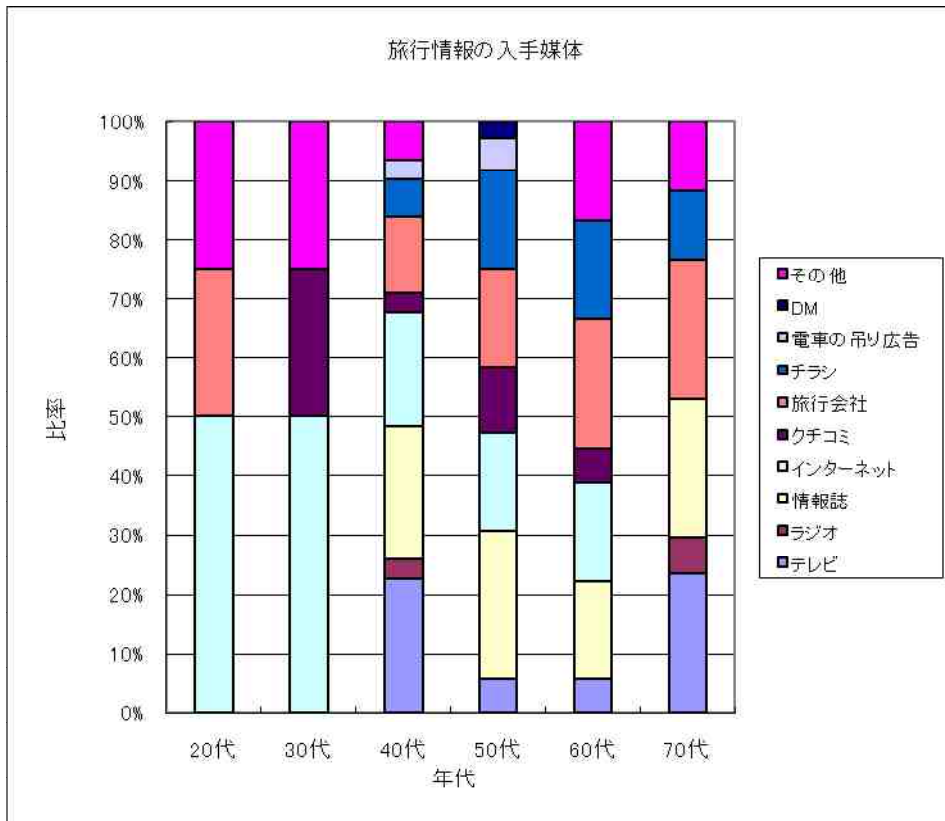
(1) ツアー参加者の構成

20 代から 70 代までの男女が参加した。40 代から 60 代の参加者が中心になっている。40 代の男性、50 代の女性の参加者が多かった。

赤城山のトレッキングツアーには県内から女性 4 名、男性 1 名の合計 5 名が参加した。11 月の重粒子線がん治療施設見学を中心とするツアーには県内から男性 13 名、女性 12 名の合計 25 名が参加した。12 月の同様のツアーには東京都や神奈川県など県外から男性 18 名、女性 10 名、性別不明者 1 名の合計 29 名が参加した。

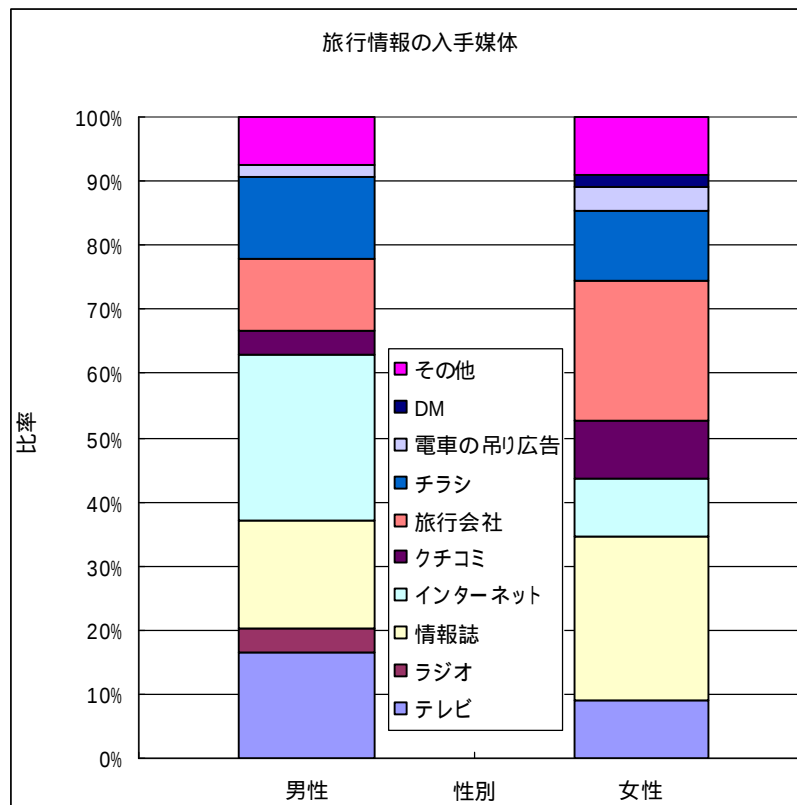


(2) 旅行情報の入手媒体



複数回答を利用して情報媒体全体に対する個々の媒体の比率を求めると、旅行情報の入手媒体は、20代、30代はインターネットが主要な情報源になっている。40代以上では情報誌や旅行会社の比率が高くなっている。70代ではインターネットを旅行情報の入手媒体とする回答者はいなかった。

女性の平均年齢層が男性よりも高いことも影響しているようだが、男性ではインターネット、女性では情報誌や旅行会社が主要な情報源になっている。

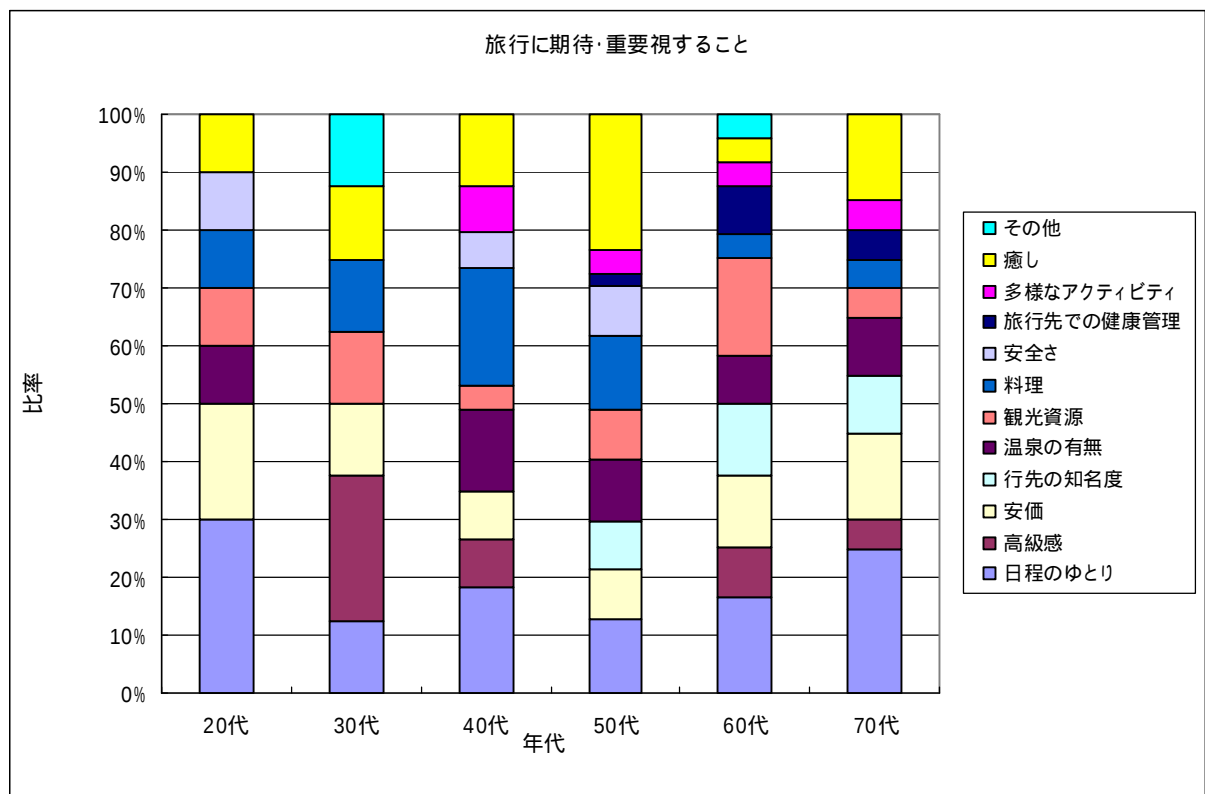


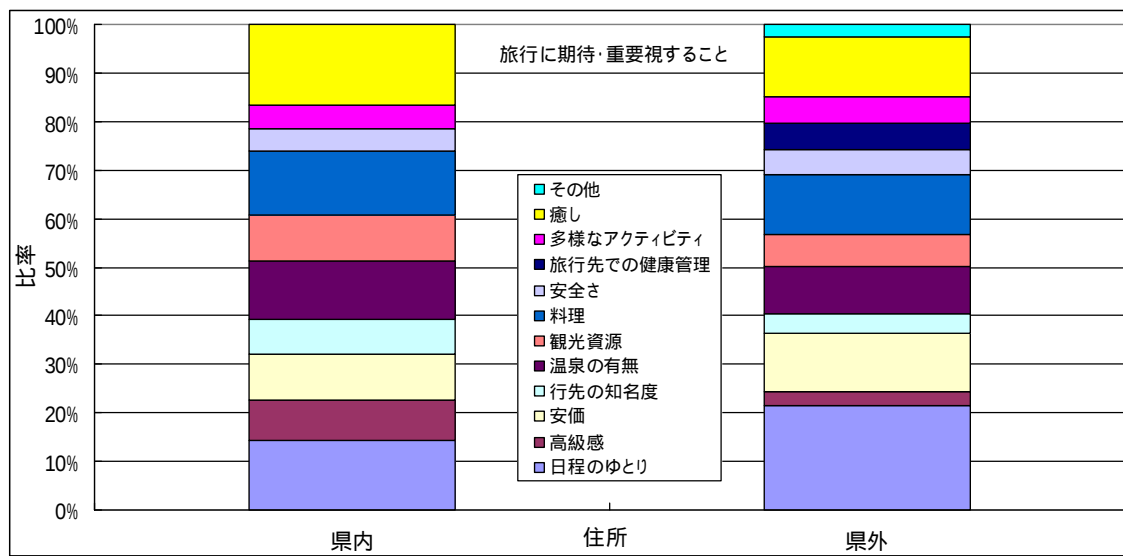
若者向けにはインターネットの情報整備が課題になるだろう。インターネット世代の高齢化によってインターネットによる宣伝は不可欠なものになると予想される。一方で、インターネットを利用しない世代も人口の大きな割合を占め、健康・医療を目的とするツアーにおいては、むしろインターネットを利用しないアナログ世代に対するコミュニケーションが課題になる。雑誌などにおける宣伝やPRと共に、旅行会社などで積極的に取り扱われるような魅力あるツアーの計画が望まれる。

(3) 旅行への期待

ツアー参加者が、旅行に期待することとしてあげているのは、「日程のゆとり」や「癒し」などである。

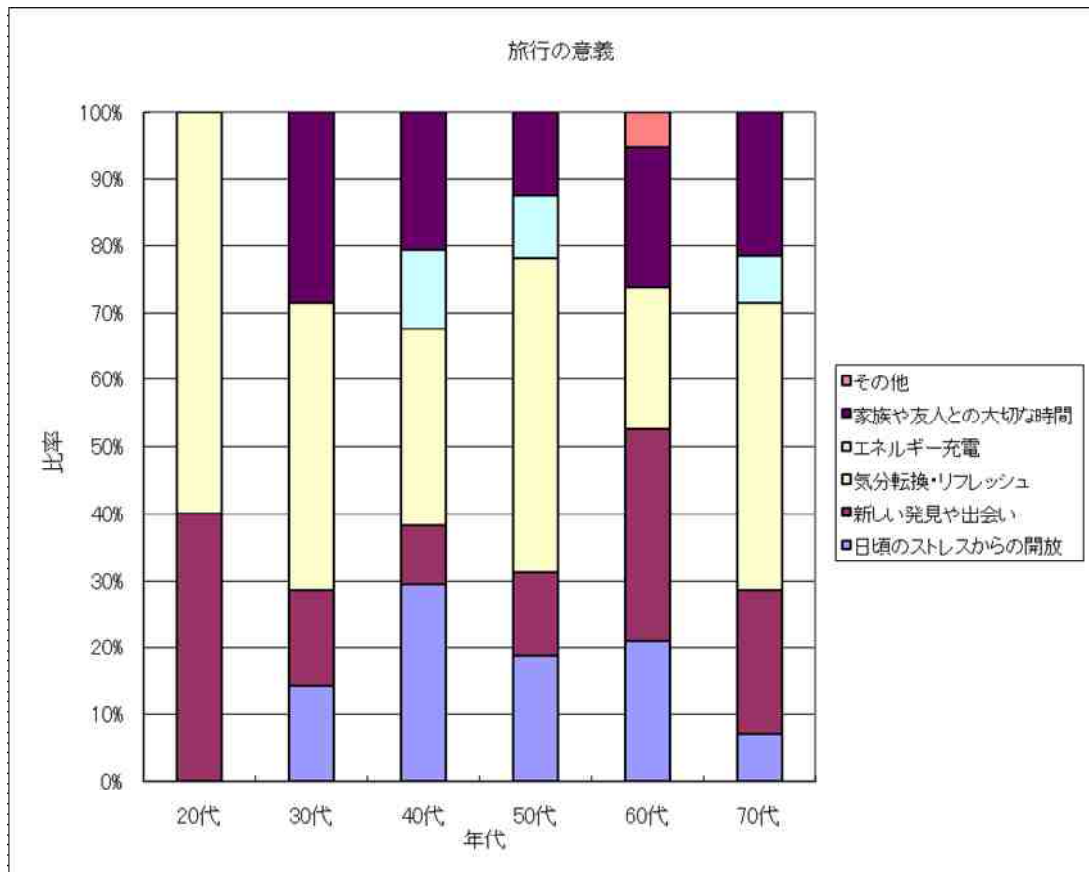
県内と県外の参加者のニーズを比較すると、大きな違いはないものの、県内からの旅行者の方が、「癒し」「観光資源」「温泉の有無」を指摘する声が若干強かった。一方で、県外からの旅行者は、「日程のゆとり」を求める声が若干強かった。

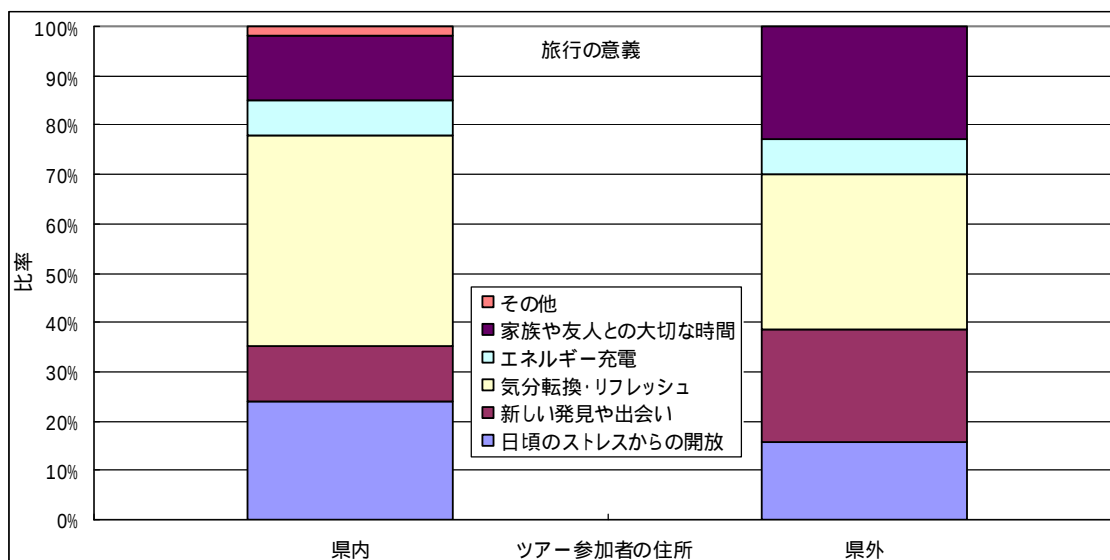




(4) 旅行の意義

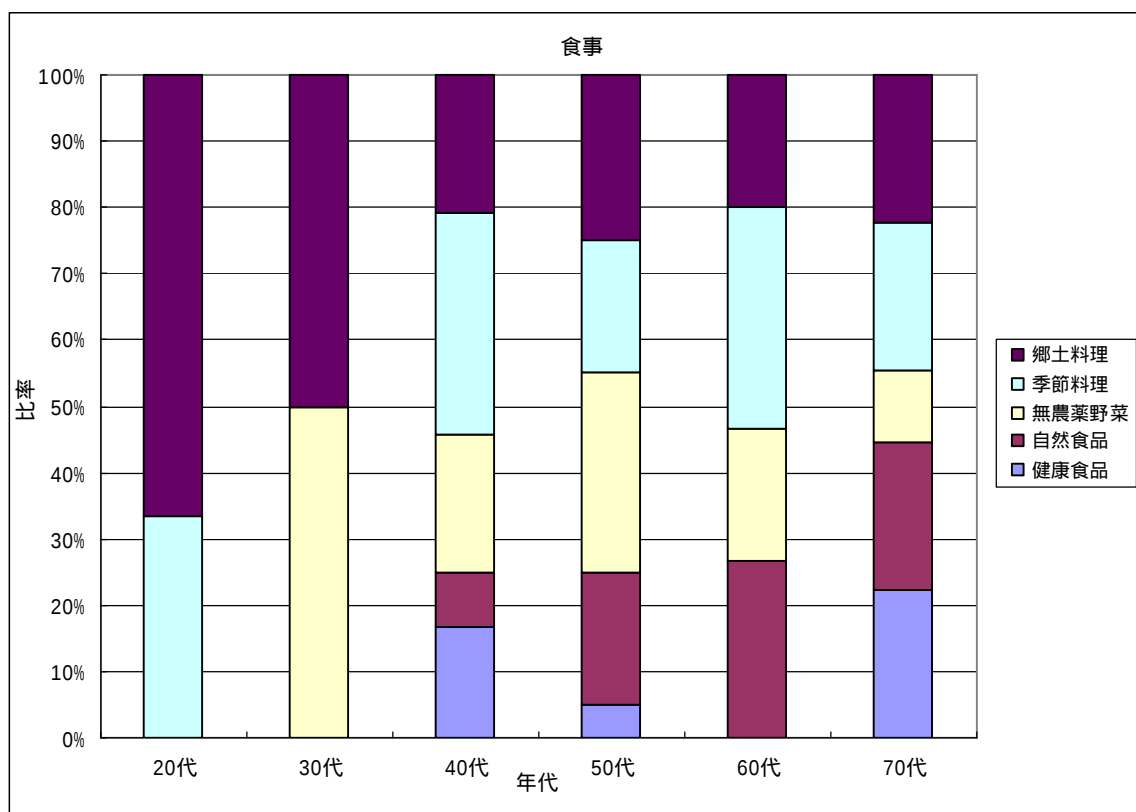
旅行の意義としては、「気分転換・リフレッシュ」をあげている人が圧倒的に多い。県内旅行者と県外旅行者を比較すると、県外旅行者の方が「家族や友人との大切な時間」や「新しい自分の発見」をあげている人が多くなる。今後のウェルネスツーリズムの計画において、参考にすべきデータである。





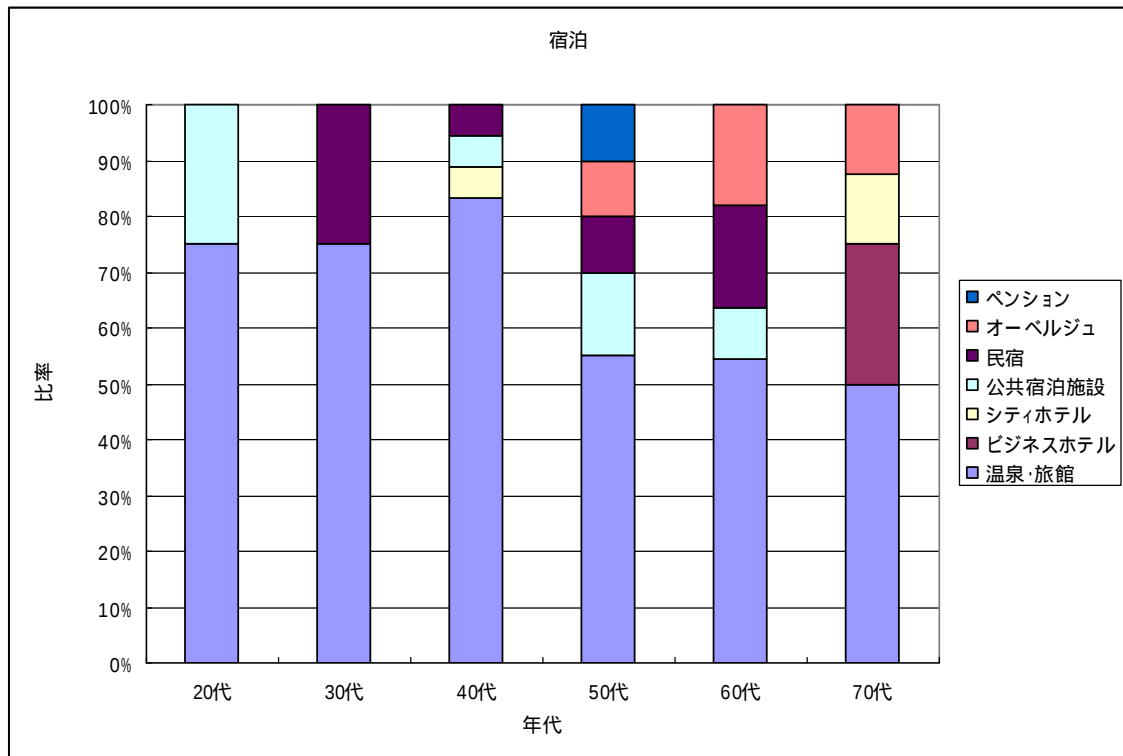
(5) 食事

ウェルネスツーリズムに組み込む食事として、ツアー参加者が望む声が強いのは、健康志向で、郷土に合った料理、もしくは旬の料理のようである。



(6) 宿泊

宿泊施設については、大半の参加者が温泉・旅館に関心を持っている。

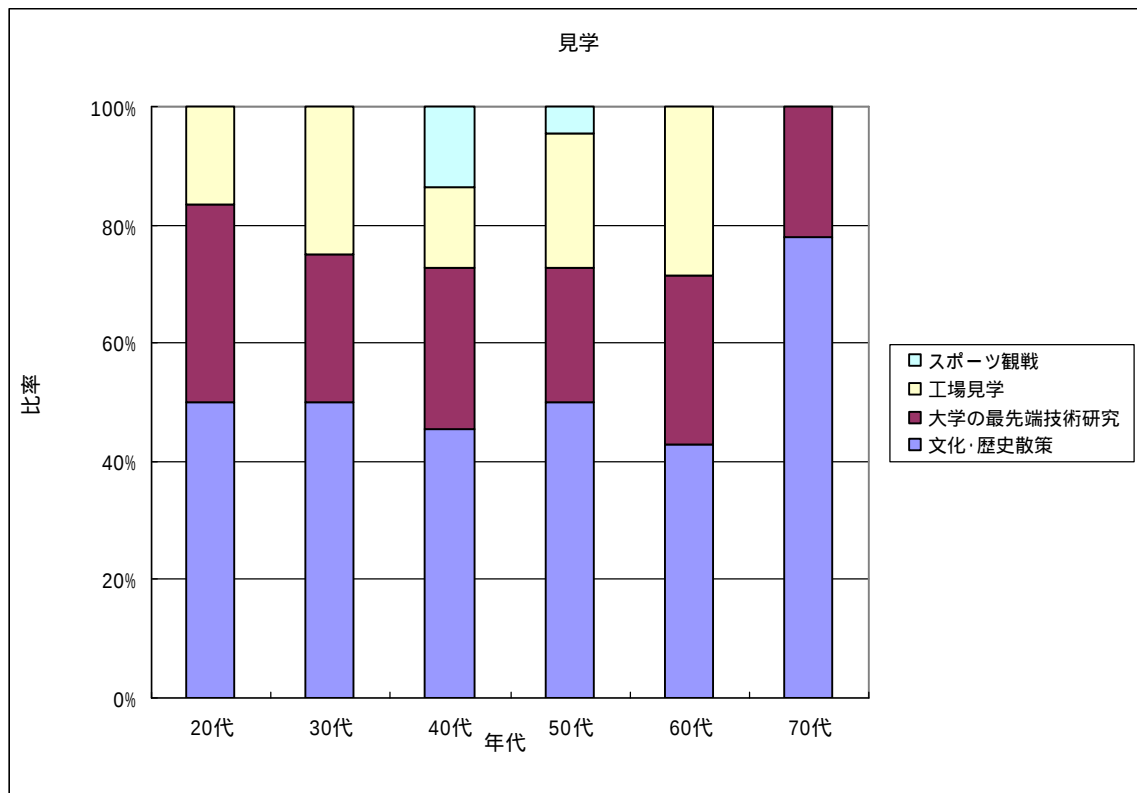


高齢になるにしたがって、ペンションやオーベルジュなど好みが多様化してきている。70代のツアー参加者が宿泊施設としてビジネスホテルやシティホテルを選択していることは興味深い。温泉・旅館等に泊まり慣れていて、ビジネスホテルやシティホテルのような施設を新鮮と思う面もあるのかも知れない。

全国各地に日帰り温泉が増えている中で、伊香保、水上、草津など市周辺の伝統的な温泉地を活用した質の高いもてなし、あるいは、市内の日帰り温泉施設等を活用した手軽な入浴や宿泊など、食事も含め対象者に合った内容を選択し、サービス提供していく必要がある。

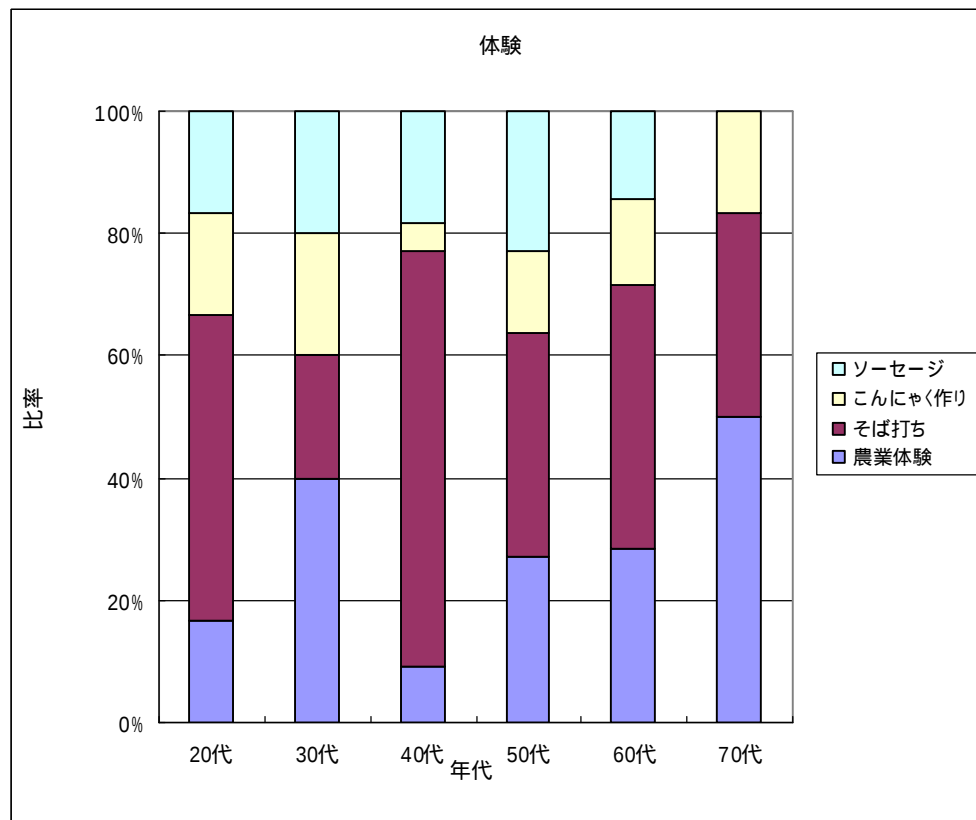
(7) 見学場所

見学場所として興味がある場所としては、「文化・歴史の散策」が多くの参加者から挙げられている。重粒子線がん治療施設見学者が 9 割以上を占めることもあるが、「大学の最先端技術研究」も一定の関心を集めている。アンケート調査が行われたツアーでは、重粒子線がん治療施設見学やいきいきまちの駅での健康チェックに加えて、臨江閣、ばら園、ぐんまフラワーパーク、県庁展望ホールなど群馬の歴史や文化に関わりの深い施設見学が行われていた。



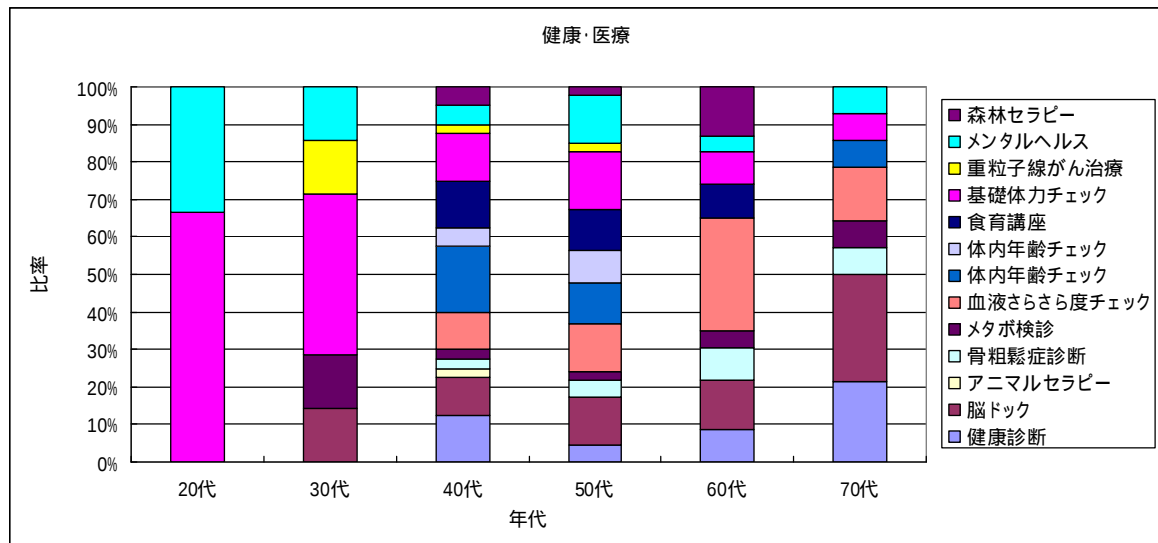
(8) 体験

ウェルネスツーリズムに組み込む体験プログラムについては、そば打ちに対する関心が高く、高齢になるに従って農業に対する関心も増している。



(9) 健康・医療

健康・医療に関するプログラムに対する興味は、以下のような結果となった。



体力のある20代や30代は基礎体力チェックやメンタルヘルスなどに関心があり、年齢が上がるに従って、血液さらさら度チェックや脳ドックなど臓器や身体機能に関わる診断に関心を持つ割合が増えている。

5. アニマルセラピーの検証

(1) アニマルセラピーとは

私達人間は五感を通して様々な情報を脳に送り、体の状態を整え、変化させながらバランスを保っている。しかしながら実社会には、病気や災害、愛するものとの別れ、リストラयीいじめなどさまざまな「負」の情報が溢れており、直面している人々も少なくない。人と動物の関係に関する国際組織(IAHAIO)は、世界の「人と動物との相互作用の研究」を「人と動物双方のクオリティ・オブ・ライフと福祉の向上」に活用することが重要であるとしており、人と動物との重要性に関する研究の活性化を求めている。さらに IAHAIO2007年東京宣言では、「人が動物の存在から恩恵を受けることは普遍的かつ自然な基本的人権である」としており、動物との交流が人々の健康や福祉にプラスの影響を与えることを確認している。

「アニマルセラピー(animal therapy)」は、目的によって「Animal Assisted Activity(動物介在活動 AAA)」、「Animal Assisted Therapy(動物介在療法 AAT)」に分けられる。今回のウェルネスツアーの一プログラムでは、動物とのふれあい活動である AAA について効果を検証する機会を得ることができた。アメリカデルタ協会では、アニマルとのふれあいによる効果は、「高齢者」、「成人」、「子ども」、「家族」さらに「病人」や「障害者」にとっても確認できるとしている。本プログラムでは、具体的には人間にとって最も身近で長い歴史をともに歩んできた「犬(Dog)」と、治療効果が高いとされている「ヒポセラピー(Hippotherapy)」すなわち「馬(Horse)」とのふれあいによる健康増進効果についてとした。さらに参加者は群馬大学の協力を得て軽度の障害児およびその家族を対象として実施した。

アニマルセラピーの実施方法には、訪問型(施設訪問型、在宅訪問型)、飼育型(施設飼育型、在宅飼育型)、屋外活動型などがあるが、今回は 屋外型で実施した。

「屋外活動型」の利点は、屋外での活動であるため、新鮮な空気や自然に触れたりすることで、精神的に気分や高揚するとともに、自然の効果との相乗効果が望める。また身体を動かす活動であるため、運動療法的要素も含まれ、リハビリ効果が期待できる。また、普段接することのできない動物との触れ合い、非日常的な経験をすることができることは大きなメリットである。一方デメリットは、大規模なものとなり、効率性も考え、工夫が必要である。具体的には名犬牧場と馬事公苑それぞれの施設での体験をプログラムに組み入れた内容とした。

(2) 参与観察結果分析

今回実施したツアーの参加対象者は、日常の動作能力には支障がないが、軽度の障害(発達障害や引きこもりなど)をもつ子供達であるので、ウェルネスツアーの特徴は見知らぬ場所に移動してのさまざまな体験による効果の検証となるため、援助なしでの試行には予測できない事態も考えられる。そこで今回は群馬大学生ボランティアの協力のもと実施することができた。本プログラムの内容がよかったかどうかについての主観的満足度や効果を直接本人に聞くことが望ましいが、本人の理解度や表現方法を検討した結果、参加者一人一人に学生ボランティアが担当としてペアを組み、2日間のプログラムのおのおのについての参加者の表情や動作、会話などについての記録をお願いする「参与観察シート(Participation Observation Sheet)」を作成し、実施後回収し、分析した。全部で14名から回答が得られた。具体的には、「名犬牧場」、「馬事公苑」各施設利用時の参加者達の状況観察および、ボランティア自身の本プログラムに参加しての評価「動物とのふれあいによるアニマルセラピー」について回答を得た。以下はそれぞれについての今後の検討に必要な点を整理した結果である。サンプル数が少ないので、以下は内容分析を主に行うこととする。

A. 名犬牧場 について

数が多いこと

近年よく行われているアニマルセラピーの活用方法としては、犬が老人ホームなどに出向く形に代表されるように、私達人間の生活の場に数頭の犬が人間とともに訪問し、数時間過ごすというケースが多く見受けられるが、前述したように本プログラムはこれとは逆に動物のいる場所に人間が訪ねて一緒に時を過ごすという形態をとっているところが特徴である。このことによるプラスとマイナスの面が出ていたということが言える。名犬牧場は、数十頭の犬と自然の中で一緒に時を過ごすスタイルであるが、観察シートからは沢山の犬の存在にやや怖さを感じている参加者が数名いることが確認された。本来ならば癒されることを期待したいプログラムの中に恐怖や不安というキーワードが出されたことには注目し今後改善を図る必要がある。コンパニオン・アニマルという言葉に象徴されるように、動物のもつエネルギーや力をプラスに活用させていただくには、盲導犬の活躍に代表されるように、ある程度人間の考え方を犬にも理解してもらう必要があるようである。確かにサバンナの大自然の中に置き去りにされた場合、ライオンやヒョウなどの野生動物のいる自然界の中で安心していられるのは難しい。しかしながら自然体の中で、犬達と楽しく時を過ごすことができればかなりの効果が期待できるはずである。今後の検討課題の一つとして受け入れ態勢のひと工夫があると思われる。

天候について

もう一点は、自然についてである。残念ながら名犬牧場を訪れた 1 日目は悪天候であったという点である。週末や休日の天気予報はかなり気になるのは誰しもが感じていることであるが、家の中や施設内ではなく、屋外でのアクティビティには雨天か風が強いのか、気温などは大きな影響要因となることに対する認識が重要である。天候が結果に与える大きな影響要因になっていることはアニマルセラピーのみではなく、赤城トレッキングツアーなどウェルネスツアープログラム全体に共通する点である。予定をあらかじめ決めない形でのレジャーであれば天候により変更可能であるが、ツーリズムにのせての場合には、変更ができない。よってあらかじめ雨天や気象状況への対応可能な代替プログラムを用意しておくことが必要であろう。また人間の本来もつ能力を回復する場が自然であると同時に、自然は私達に様々な災害に代表されるように脅威も与える存在でもあることに注意が必要なのかもしれない。従ってウェルネスツーリズムを企画立案する前提として、まずは自然そのものを理解することが重要なかもしれない。

時間の長さについて

本プログラムでは、名犬牧場には約 2 時間の滞在となった。参与観察者の多くが回答している傾向が見られた点がこの時間の長さである。もともと日常の生活の中に動物の存在がない場合には、その「場」に慣れるという前提行為が重要であることは今回の試行で明らかとなった点である。通常のツアープログラムとの比較でも言えることであるが、格安感を得るために、非常にタイトなスケジュールで休む暇がないプログラムの場合には、色々なところを回ったというある程度の満足感は得られるかもしれないが、本プロジェクトが目指しているヒーリング効果等を目的とした場合には、ゆとりのあるじっくりとしたプログラムの立案が重要である。今後の改善が求められる点である。リハビリテーションプログラムなどと同様、じっくり、個々人の能力に合わせて、ゆっくりと効果を確認しながら進められるようなオーダーメイドのウェルネスツアーすなわち、オプションなどを用意し、利用者の感覚にあった、最初に意思決定を行ってもらおう必要も検討すべきであろう。

B. 馬事公苑について

馬の大きさについて

馬事公苑には、通常の馬のほか、ポニーもいたが、寄せられた回答からは、ポニーの方が人気の高い傾向が見られた。記録を分析すると、出てくるキーワードは「大きさ」である。大きいので怖がる、小さいポニーを気に入るなど、大型動物への抵抗

がやや感じられた。小動物の方が本能的にも恐怖を覚えず、身近に感じる傾向が見られる。人間は本能的に自分と他者を比較することで優劣や力関係をつける傾向があることからすると、このことは自然なことと思われる。今後はポニーの存在をしっかりと検討していくことも視野に入れるべきであろう。

触れることと騎乗すること

動物とのコミュニケーションの方法であるが、馬についてはこれまでもさまざまな研究がなされているように、騎乗することによる達成感や姿勢、運動機能の回復などが期待される場所であるが、今回のようにあまり時間がなく、十分に馬との信頼関係を構築することができない場合には、触れるのみでも効果が期待できるのかもしれない。その根拠としては、記録を分析すると「触れることで喜んでいた」といった表現や、「触るところまではできた」などが見られる。馬にタッチすることによる癒しの効果についてはまだ十分に明らかではないが、言葉を使わないコミュニケーションの手段としては、効果が期待できるかもしれない。日常的にはあまり体験することのないことであり、本プログラム参加者たちの「こころ」に何らかの働きかけができるのであればいいと思う。名犬牧場も同様であるが、具体的なコミュニケーション方法ごとの検討を行い、プログラムの質を向上させることが必要であり、その上で、それぞれのコミュニケーション方法ごとの検証が本格的なアニマルセラピーの健康への効果のエビデンスとなっていくことと思われる。

C. 動物とのふれあいによるアニマルセラピーについて

非日常体験の効果

参加者本人のみではなく、サポートをしたボランティアの参与観察者自身からの感じたコメントとして、2 日間のプログラム全体が毎日の日常とは異なる時の流れであり、体験そのものも非日常的であり、その効果が大きいと思われるとのことであった。環境を変えることは一歩間違えば過度のストレスとなる。しかしながら逆に効果的に働きかけられれば、あるいは受け入れられれば、その環境の変化はこれまでの日常での問題点や発見できなかった部分への一歩を踏み出すこともできる。沢山の犬や大きな馬などの動物に囲まれて時を過ごすことは明らかに非日常体験である。この非日常体験による健康増進効果をねらうことがまさにウェルネスツーリズムの醍醐味である。

される立場からする立場へ(受動から能動へ)

記録の中には、これまでは親や学校から守られることが多く、受身の存在であっ

た参加者が、今回のツアーでは、動物達が自分の行動や行為を待っており、つまり「される立場からする立場(受動から能動)」への変化が見られるといった記載が見受けられた。動物達は自分達から働きかけるのではなく、人間達の行為を待っているという形の関係性はこれまであまり参加者達の日常ではなかったと思われる。回を重ね、繰り返し行うことにより、より積極性や能動性が期待できるかもしれない。残念ながら人間関係において困難を抱えている場合には、いくら説明をしても、自分を理解してもらえないかもしれないが、言葉や立場、自分の状態など一切関係のない動物に対しては素のままの自己表現が可能になるかもしれない。今後への発展が示唆されている点である。

好感をもつこと、好きになることの必要性

観察者およびご家族の多くの方々から本プログラムへのプラスの評価が寄せられている。その根拠とし共通して記録されていた内容は、「かわいい」と何度も何度も言っており、とても楽しそうであったということである。人間の基本的な感情表現として、「好き嫌い」がある。私達人間は成長すると同時にできるだけ嫌いな食べ物は克服するように努力するし、職場における人間関係においても、好き嫌いで仕事をすることはできず、相手に合わせる、我慢することを覚えて仕事をするようになる。このように嫌い、苦手なことに対しては訓練や修練を経て何とか克服することが可能となる場合が多いが、多くの場合、ストレスが伴う。一方でたばこやアルコールを大量に摂取することは身体にとって決して望ましいことではないが、自分の嗜好についてはその瞬間は楽しく、またストレス発散の手段である場合も多く、他人に勧められるのではなく、自分で望んで行っている。このように人間の特性としては、好きなことには能力を発揮する、持続することへの可能性が高いと言える。今回のツアーのプログラムの詳細については再検討する必要があるが、ツアー全体としては大変効果的だったと評価できよう。今後継続することでより具体的な効果が期待できる。

オーダーメイドツアーの立案の必要性

分析の最後として、前にも若干述べたが、オーダーメイドツアーの必要性について触れたい。数人の観察シートに共通して書かれていた内容であるが、自分の担当以外の参加者と比較をした場合、もともと動物が好きなタイプとそうでないタイプがいて、両者に積極性において差が見られたとしている。このことは重要な視点であり、21世紀は治療の分野においてもこれまでの標準化から、遺伝子レベルから意思決定傾向まで含めて「個人差」を尊重したオーダーメイド医療が本格化すると

言われており、すでに抗がん剤の治療効果や副作用の発現の程度などにおいてエビデンスが収集されている。本ウェルネスツーリズムにおいても同様のことが言えると思われる。今後は様々なバリエーションのプログラムを開発し、実施していくことが重要であるが、その場合、あらかじめ参加者がさまざまなウェルネスツーリズムを比較し、自分や自分の家族にあったツーリズムを選択し、より効果が望めることが今後は必要であろう。

6. 今後の課題

各取組の実施にあたっての反省点や取組の検証から導かれる今後の課題は、次の通りである。

来訪者に好感度を持ってもらい、それをリピート来訪率の向上に結び付けるためにも、研修会等を通じて、エージェントの顧客満足度向上に向けた意識改革をより強化しなければならない。

各病院で実施するメディカルチェックを、がん検診や女性専用検診など特色あるものにすることによって、ツアー参加者のカスタマイズ化、差別化を図ることが必要となる。

それぞれの参加者に合わせた食事の提供なども、農産物生産者や飲食提供者と連携して推進して行かなくてはならない。

各温泉地の温泉協会や女将の会とのさらなる連携を深め、温泉の泉質などの特異性を生かした特色あるツアーを企画する。

企画したツアーの効果的な募集・PR方法を検証する。

企画運営を具体的に行う人材の育成が必要である。

群大病院を中心とした医療連携をさらに深めるため、市内の病院の理解と協力体制を築いて行く。

貸し切りバスや公共交通機関だけに頼らない移動手段の仕組みづくりを行う。

7. 今後の目標

○ ウェルネスツアーオーダーメイド

団体だけでなく、家族や友人等と気軽に参加し、前橋の医療・食・生活・自然等を体感する健康づくりツアーをオーダーメイドで提供できるシステムを構築したい。

地域に密着した、地元ならではの観光スポット・食・宿など参加者の要望をできる限り叶えるオプションを準備し、楽しんでもらえるようツアーの企画作りに前橋を知り尽くしたコーディネータがサポートする。

このツアーを通して前橋を知り、もっと好きになってもらうこと、そして何度も足を運び、最終的にこの街に住んでいただければ(健康医療都市構想の実現)・・・が目標である。

そのためには、

○ 地域で支えあうネットワークの構築

個々の力をお互いに知り理解し合い(常に情報を取り合う)、連携する事により、新たな魅力ある活性化事業(健康をテーマにした観光事業や街づくり)を展開し、ビジネス(利益の上がる)として成り立つ仕組みを構築する。そのためにも、コーディネータ役としての組織体制の充実と情報の一元化、それを支えあう人材の育成が必要である。

そこで、こうした取り組みに積極的に事業参画したい企業や施設担当者を集め、今までにないビジネス交流会を実施し、新しい形の観光ツアーを模索するとともに、受け入れ体制の充実を図るための人材教育を定期的を実施する。

第3章 健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」 交流事業

1. 取組の目的

健康情報発信拠点・いきいきまちの駅(愛称:「スマイル」一般募集により決定)は、平成21年10月10日に前橋中心市街地の馬場川通りにオープンした(本プロジェクトの社会実験として平成22年3月31日まで設置する計画である)。これは、ウェルネスプログラムとの連携事業を確立するとともに、市民・観光客等の情報発信・交流拠点として中心市街地への流入人口を増加させ、賑わい性の創出を図ることを目的としたものである。日常的な健康チェック、各種健康づくりの講座や相談など、わかりやすく、そして楽しい健康プログラムを提供する。イベント・観光情報や、食・生涯学習情報、暮らしに役立つ耳寄り情報など、様々な情報を発信する「来て！見て！楽しい！！」と感じていただける新しい街の交流拠点を目指している。

詳細は、次の通りである。

所在地： 前橋市本町2 - 1 - 11 (前橋中心市街地・馬場川通り沿い)

営業時間： 午前10時から午後7時まで

営業日： 年中無休(年末年始を除く)

実施： ウェルネスツーリズム推進協議会

フロア案内：

- 1階： 受付・血圧測定・体組成計・ストレスチェック機ほか、各パンフレットコーナー
- 2階： 各相談スペース、講座開催会場
- 3階： 個別相談会場



■ まちの駅1階の様子



■ まちの駅外観



■ まちの駅 健康チェック機



■ まちの駅2階 講座・相談スペース

情報発信内容：

- ・HP による「まちの駅」情報発信
- ・ウェルネスツーリズム情報
- ・各病気等に関するパンフレット等
- ・各病院からの健康情報
- ・各大学・専門学校からの情報
- ・観光情報
- ・商店街情報(お店のお得情報・各種イベント)
- ・重粒子線がん治療関係

健康チェック票THI

“THI(Total Health Index)とは、質問紙に記入し、わずか10分ほどで多面的な健康管理が可能になるデータを作成するシステムである。生活習慣など心と体の両面に関する質問に答えるだけで、身体ストレス度、心のストレス、呼吸器、目や皮膚、口とおしり、消火器、多愁訴、生活不規則性など13項目についてレーダーチャートを作成し、健康アドバイスを添えて各個人に送付される。定期的にチェックすることで変化の比較ができ、健康管理ができる。

いきいきまちの駅「スマイル」では、具体的には次のような講座・活動・情報提供等を行った。

- (A)健康講座の開設
- (B)重粒子線照射施設の普及活動
- (C)健康チェック
- (D)検診事業
- (E)ウェルネスツーリズムの周知
- (F)広報活動
- (G)いきいきまちの駅「スマイル」を利用したツアー

2. 取組の実施報告

A. 健康講座・相談会の開設

群馬大学生体調節研究所による「知って得する医学・科学の話」、群馬大学医学部保健学科による「ストレッチ教室」・「おいとつきあう健康塾」、また一般企業からも群馬ヤクルト販売による「予防医学の実践」等、生活習慣病の予防、がんに対する種類や治療法などの知識の習得に関する講座や相談会を開催した。

■ 知って得する医学・科学の話いろいろ



- ・平成 21 年 10 月 7 日(水) 講師:群馬大学医学部保健学科 教授 伴野 祥一
テーマ「メタボ健診と生活習慣病」
- ・平成 21 年 10 月 9 日(金) 講師:群馬大学生体調節研究所 教授 原田 彰宏
テーマ「ネズミを使ったヒトの病気の研究」
- ・平成 21 年 10 月 14 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 教授 泉 哲郎
テーマ「糖尿病・肥満症・メタリックシンドロームについての理解を深めよう」
- ・平成 21 年 10 月 20 日(火) 講師:群馬大学生体調節研究所 准教授 畑田 出穂
テーマ「クローン猫の体の模様はなぜ同じでないか？」
- ・平成 21 年 10 月 21 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 教授 北村 忠弘
テーマ「食欲の秋に、肥満について考える」

- ・平成 21 年 10 月 28 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 准教授 柴田 宏
テーマ「肥満と健康」
- ・平成 21 年 11 月 4 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 教授 山下 孝之
テーマ「老化と発ガン～細胞にとってもストレスは万病のもと～」
- ・平成 21 年 11 月 18 日(水) 講師:群馬大学医学部附属病院 管理栄養士 樋口剛
テーマ「ズバッと解決！あなたの食事の勘違い」
- ・平成 21 年 11 月 25 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 准教授 大西 浩史
テーマ「ストレスと脳」
- ・平成 21 年 12 月 2 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 准教授 穂坂 正博
テーマ「「がん」を探す」
- ・平成 21 年 12 月 3 日(木) 講師:群馬大学生体調節研究所 准教授 小田 司
テーマ「新世代抗がん剤の開発」
- ・平成 21 年 12 月 16 日(水) 講師:群馬大学生体調節研究所 准教授 戸村 秀明
テーマ「「DNA鑑定」ってなに？」

- 予防医学の実践 腸内から健康づくり ～世界が認めるプロバイオティクス健康法～
治療医学から予防医学が重視される今、大切な役割を担っている腸について、仕組みとその役割について学んだ。



- ・平成 21 年 10 月 20 日(火)・10 月 26 日(月)・11 月 18 日(水)
講師:群馬ヤクルト販売㈱ 健康管理士 吉原・永井

■ “しょうがい”のある人の地域生活

“しょうがい”にも様々な状態があるが、どんな“しょうがい”でも地域の中でいろいろな人との関わり合いを重ねながら暮らしていく大切さを理解していただいた。

- ・平成 21 年 11 月 1 日(日)

第 1 部 “しょうがい”のある人の地域生活～これからのあり方を考える～

講師:群馬大学教育学部障害児教育講座 教授 松田 直

第 2 部 相談コーナー

相談員:群馬大学教育学部障害児教育講座 教授 松田 直

特別支援学校卒業生等を支援する会(ひまわり会) 山本 エマ

社会福祉法人あい 理事長 長居 由子

■ あなたの心身をチェック！「THI」相談会



・平成 22 年 1 月 15 日(金)

講師：NPO国際エコヘルス研究会 理事長 鈴木 庄亮

■ FPによるすぐに役立つお得なお話 + ちょっと相談



平成 22 年 1 月 16 日(土)

第 1 部 低金利時代を乗り越える 長期投資のメリット

講師：日本FP協会群馬支部 松田 聡子

第 2 部 デフレの今を活かす 家計見直しのポイント

講師：日本FP協会群馬支部 井上 和則

■ ストレッチ教室

疲れやすい「肩・腰」のストレッチを中心に日常生活でできるストレッチの実践を行った。



・平成22年1月25日(月)・2月6日(月)

講師:群馬大学医学部保健学科 地域交流教育推進室

■ 老いにつきあう健康塾「尿失禁予防と対処法」

尿漏れの種類と対処法から、骨盤底筋体操など尿失禁予防と看護の立場から解説した。



・平成22年3月10日(水)・3月17日(水)

講師:群馬大学医学部保健学科 准教授 内田 陽子

■ 親子で聞く「誕生学講座」

いのちの誕生の仕組みと生まれてくる力の素晴らしさを伝えることにより、自己存在が育ち自尊感情を高めることにつながる。



・平成22年3月13日(土)

講師:誕生学アドバイザー 井上 昭子

■ 臨床美術「脳いきいきアート」



・平成22年3月28日(日)(予定)

講師: ぐんま脳いきいきアートの会

■ ワークショップの場の提供

いきいきまちの駅により多くの方に訪れていただき、その存在を認知していただくとともに実際に体験していただくことで健康に対する気付きや自身の健康管理の重要性を理解していただくため、様々なワークショップの場としても利用していただいた。

- ものづくり指南塾 開催日: 10/30、11/12、11/19、12/22、1/26
- アーティフィシャルフラワーアレンジ 開催日: 11/14、11/29、12/14、1/21
- 黒田人形店「人形講習会」 開催日: 11/23、11/24、3/6、3/7
- 共愛学園前橋国際大学ゼミ 開催日: 12/12
- 折り紙で楽しもう 開催日: 1/23、2/27
- 県立女子大「でざもん屋台」 開催日: 2/14～2/21
- 写真を通してアメリカを見る 開催日: 2/22
- デザイン夜話 開催日: 3/11、3/18、3/25
- 布あそびの会～吊るし雛～ 開催日: 3/12、3/26
- 前橋中心商店街協同組合 役員会 開催日: 3/12

参加者の方はワークショップの待ち時間や終了後に1Fの健康器具を利用して自身の健康状態や様々な健康情報を入手し、他の健康講座への参加にも繋がった。さらには知人にも紹介するなど、口コミのスピーカーとなって「まちの駅」の宣伝効果にも繋がっている。実際に訪れることにより、その機能や趣旨について理解を得られるようである。

B. 重粒子線照射施設の普及活動

小型重粒子線照射施設のパネルやパンフレットの展示。また、平成22年2月12日に開催された「がん治療の現状と重粒子線治療の有効性」(講師:群馬大学重粒子線医学研究センター長 中野隆史氏)の普及活動を行った。



■ パネルの展示



■ パンフレットの展示

C. 健康チェック

群馬大学教育学部柳川教授のご協力により、血圧計・体組成計を設置。血圧・体重・体脂肪・代謝・部位別筋肉量等が数値で示される。スタッフによる個別結果の説明を行い、自身の健康への気付きの一步となっている。さらに平成22年1月より健康チェック票「THI」を導入し、体だけでなく心のチェックも数値で示され、14項目の診断結果が表示される機能も追加している。



■ 血圧計によるチェック



■ 体組成計によるチェック

■ 体組成計 測定結果表

TANITA
健康をはかる



NV-190

Get In Shape

体組成測定結果

ID	000000000	氏名	ゲスト	測定日時	
年齢	才	性別	体 型	施設名	
身長	cm	着衣量	1.00	kg	

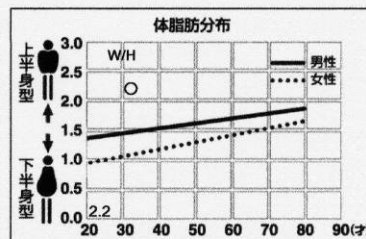
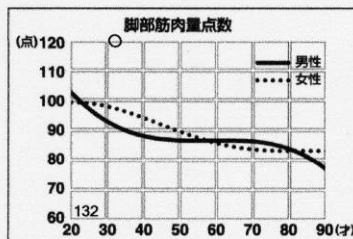
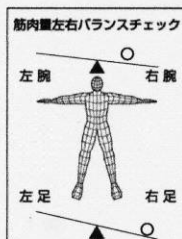
全身チェック				
	今回の測定値	前回値	初回値	標準
体 重	64.20 kg	kg	64.20 kg	66.60
体脂肪率	15.1 %	%	15.1 %	17.0
脂 肪 量	9.70 kg	kg	9.70 kg	11.30
除脂肪量	54.50 kg	kg	54.50 kg	55.30
筋肉量	51.65 kg	kg	51.65 kg	
体水分量	37.65 kg	kg	37.65 kg	
体水分率	58.6 %	%	58.6 %	
BMI	21.2		21.2	22
推定骨量	2.85 kg	kg	2.85 kg	
血 圧	最高 mmHg	mmHg	mmHg	
	最低 mmHg	mmHg	mmHg	
	脈拍数 /分	/分	/分	
W・H				
内臓脂肪レベル	6			標準 やや過剰 過剰
基礎代謝量	1517 kcal			燃えにくい 標準 燃えやすい

体脂肪率と筋肉量による体型判定				
肥 満				
軽肥満	かくれ肥満型	肥満型	かた太り型	
+ 標準				
- 標準	運動不足型	標準	筋肉質	
や せ	やせ型	細身筋肉質	筋肉質	
	少なめ	平均的	多め	
	筋肉量判定			

今のところ心配ありません。
これからもバランスよい食事と適度な運動を維持しましょう。
基礎代謝を維持できるように食事・運動を大切に。
筋肉量を増やすトレーニングがより効果的。

筋肉総合評価		筋肉量スコア	体幹部	-2
体幹部	24.65 kg			
右 腕	2.40 kg	-2		
左 腕	2.20 kg			
右 足	11.70 kg			
左 足	10.75 kg	+1		+2

脂肪総合評価		脂肪率スコア	体幹部	0
体幹部	6.25 kg	19.4 %		
右 腕	0.30 kg	10.8 %	-2	
左 腕	0.30 kg	11.5 %		
右 足	1.30 kg	9.5 %		
左 足	1.55 kg	11.9 %	-2	-3



65kg	体 重										
64kg											
63kg											
16%	体脂肪率										
15%											
14%											
53kg	筋肉量										
52kg											
51kg											
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	前回	今回

測定日時	体 重(kg)	体脂肪率(%)	筋肉量(kg)
今回	64.20	15.1	51.65
前回	64.20	15.1	51.65

■THIチェック結果表

4

通番号 [S-No. 10]
3-5

個人ID=y01
山田太郎 様

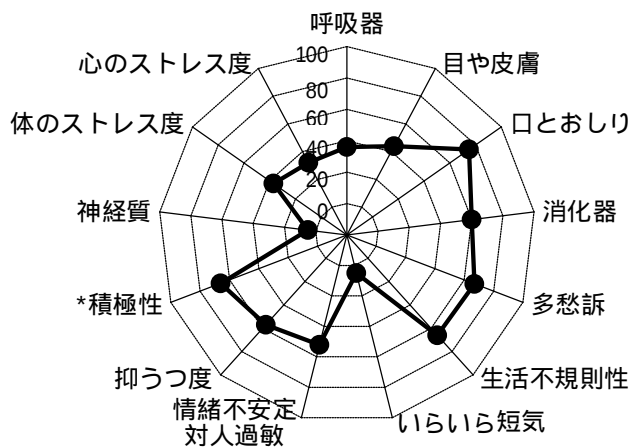
E-mail:
Tel:
携帯:

備 考	
-----	--

(秘) THI-wp, the Total Health Index for work place
あなたの健康度(THI集計結果)

男性, 53歳	・勤務時間	週(45) 月()	・職 場	4
・身 長	168 cm	・血 圧	128 ~ 82	特記事項
・体 重	80 kg	・B M I	28.3	

(KY-20081108)



*付は軸が反転しています
a(7段階評価)

健 康 尺 度：尺度名(内容)	得点(%) a	あなたは ○○○です
呼吸器(咳・たん・鼻水・のどの痛みなど)の訴え	12 (36) 4	ふつつ
目や皮膚(皮膚が弱い・目が熱い・充血するなど)の訴え	12 (44) 4	ふつつ
口とおしり(舌がある・出血する・痛いなど)の訴え	14 (75) 4	ふつつ
消化器(胃の具合わるい・痛む・もたれるなど)の訴え	12 (60) 4	ふつつ
多愁訴(だるい・横になりたい・頭重・肩こりなど)の傾向	30 (67) 4	ふつつ
生活不規則性(夜ふかしの朝寝坊・朝食抜きなど)	17 (66) 4	ふつつ
いらいら短気(いらいらしやすい・カッとなりやすいなど)	10 (5) 1	極めて気長
情緒不安定・対人過敏(くよくよする・気疲れするなど)	20 (52) 4	ふつつ
抑うつ度(悲しく・孤独で・面白くなく・ゆううつなど)	13 (57) 4	ふつつ
*積極性(攻撃的・積極的 <=> 消極的・内罰的)	14 (66) 4	ふつつ
神経質(神経質・心配性・苦労性・敏感など)の傾向	10 (5) 1	極めてのんびり
体のストレス度(心身に対するストレス状態)	-19 (37) 4	ふつつ
心のストレス度(心の悩み・気疲れ・心的不安定さ)	-28 (32) 4	ふつつ

未記入数 0 回答 12333 33322 23223 33332 33332 32333 23331 32333 33332 33331 33232 33323 23333 13331
 33233 32333 32323 33323 33323 33333 32323 33323 33232 33232 33323 31323
 [コ-3,煙-2,糖-3,花-3,ス-3,パ-2,運-3] 腹囲[?cm] K-S (20, 58%) T-S(5, 73%)
 通勤 30分(歩0分), 疲2 週運 計?分, ?回 T1,T2: (36%,86%) (区分:4,5)

山田太郎 様への健康アドバイス (1/2)

生活習慣について	
喫 煙	喫煙はガン、心臓病、脳卒中などの原因となり、死亡リスクを高めます。禁煙するのがベストです。ニコチンガムやパッチもあります。難しいようでしたら、最低限、喫煙本数を半減するよう努力して下さい。追跡調査によると、喫煙者の死亡率は、非喫煙グループに比して、男女とも約1.5倍高くなっています。
運 動	適度な運動はストレスを解消し、健康増進に有効です。無理のない範囲で、お怪我や、運動時のコンディションにも気をつけられて、このまま運動を継続してください。
糖 尿 病 傾 向	糖尿病は非常に怖い病気です。将来糖尿病にならないためにも、栄養の摂りすぎや、甘い物を食べ過ぎないように、運動と体重管理を心がけてください。
肥満傾向	太りすぎです。将来、心臓病、脳卒中、糖尿病などのリスクが高まります。死亡リスクも高いです（BMIが22～25のグループと比して、男性では約1.5倍、女性では約2.2倍）。食事が不規則で、缶入りコーヒーやソフトドリンクを摂りすぎのようなので、注意して下さい。毎日30分以上運動を行って下さい。（BMIは22～25が望ましく、あなたの場合、体重の目安は62kg ～ 71kgになります） あなたのBMIは28.3です（参考）BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)
労働時間	特に問題はありません、適正です。
睡眠時間	データが不明のため判定できません
飲酒傾向	特に問題はありませんが、飲まれる方は、飲み過ぎにならないよう注意してください。
血 圧	特に問題はありません。ただし、血圧を測定し、問題を感じたら早めに専門医に相談してください。なお、血圧管理の目標値は、高い方の値は140未満、低い方の値は90未満になっています。

健康状態について(その1)	
呼 吸 器	咳などの呼吸器の症状や訴えは普通の範囲です。風邪などをひかないよう、また花粉症対策などを心掛けて下さい。
目と皮膚	目や皮膚の訴えは多くも少なくもなく、普通の程度です。目を使いすぎないように時々休ませて下さい。皮膚は鍛錬すると丈夫になります。
口 と お し り	口とおしりの症状・訴えはふつう程度です。
消 化 器	消化器の訴えがやや多くみられますが、ほぼ普通の範囲です。一層食事に注意して、胃腸を快調に保って下さい。
多 愁 訴	身体面あるいは精神面の症状や不調の訴えは普通の程度です。心身を上手に調整しておられるようです。自覚症状は心身の調子の良い悪いの貴重な情報です。今後ともサインを早目に気づいて、早目に対応して調子を整えて下さい。
生 活 不 規 則 性	朝型でも夜型でもなく、生活の規則性は普通で、ご立派です。しかし、仕事が忙しい場合には乱れることが多いでしょう。引き続き意識的に食事、睡眠、運動を一定にして、生活のリズムを保つよう心掛けて下さい。

山田太郎 様への健康アドバイス (2/2)

健康状態について(その2)	
いらいら 短 気	慎重で、気が長い性格のようです。間違いが少なく、他人との摩擦は起きませんが、ゆっくり過ぎて他の人とテンポが合わなかったり、慎重すぎて決断が遅れることもありそうです。
情緒不安定 対人過敏	精神の安定度は普通の範囲で、良い線いっているようです。物事をひどく気にしたり過剰反応をしたりといった気分変動、多きすぎたりすることはなく、普通レベルで、バランス良好です。一層工夫して、質を高めて下さい。
抑うつ性	抑うつ度は普通のレベルです。ストレスや環境条件で気分は上下します。困難に直面しても、気を落とさないようにしましょう。社会活動に積極的に参加すると、快活性がさらに高まります。ネアカとネクラの間ですので、今後とも気分をよく調整あるいはコントロールして下さい。
積 極 性	あなたの言動は、特に消極的でも積極的でもなく中くらいで結構です。これまで通り、時と場合と状況によって、ご自分の言動を調節し、適当にアピールして下さい。
神 経 質	とてもおおらかで、おっとりとした性格のようです。現在の状態を維持すれば心身の健康が保たれるでしょう。ただし、物事に配慮を欠くことがあるので注意して下さい。
体 の ストレス度	体のストレスは普通のレベルで結構です。上手に心身のバランスをとっているようで結構です。ストレスを溜めないように、疲労・倦怠感を感じたら無理をせずに休みをとって下さい。食事や睡眠にも配慮しましょう。
心 の ストレス度	心のストレスは普通のレベルで、上手にバランスを保っているようです。仕事上の悩みがあったら信頼できる人に相談し、不眠、思考・集中困難などを感じたら、休みをとって下さい。

コメント
全体として問題になるストレスがなく、心身の症状・訴えは多くなく、心身のバランスがよくとれていて、すばらしいです。「中庸の徳」というべきでしょう。どうぞこれからもこの調子で行けますようお祈りします。

補足

D. 健診事業

群馬大学附属病院と連携し血液検査を中心とした健康調査を実施した。糖尿病・貧血・脂質などの項目について当日に結果がわかり、参加者個人別に生活習慣病に関するアドバイスを行った。普段、なかなか健診を受けられない方もご参加をいただき、事業実施について好評であった。参加者の中にはすぐに精密検査を受診されたほうが良い方もおり、健診の重要性を改めて感じさせられた(後日、精密検査を受診された)。アンケートからも参加者全員から継続して実施していただきたい要望があり、事業の実現性として高いものがある。

実施日 平成22年2月28日(日)

参加者 18名

担当医師 群馬大学医学部附属病院 検査部 奈良誠人(医師) 他検査技師



【生活習慣病予防セミナー並びに健康調査参加者アンケート 結果】

実施日時：平成22年2月28日（日）
サンプル数：16

1) あなたは「いきいきまちの駅」をしていましたか？ <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">項目</th> <th style="width:50%;">人数</th> </tr> <tr> <td>はい</td> <td align="center">13</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td align="center">3</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td align="center">16</td> </tr> </table>	項目	人数	はい	13	いいえ	3	無回答	0	合計	16	2) このセミナー並びに健康調査はどのように知りましたか？ <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">項目</th> <th style="width:50%;">人数</th> </tr> <tr> <td>いきいきまちの駅</td> <td align="center">9</td> </tr> <tr> <td>案内チラシ</td> <td align="center">3</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td align="center">4</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td align="center">16</td> </tr> </table> (その他：地元自治会長の紹介、知人の紹介)	項目	人数	いきいきまちの駅	9	案内チラシ	3	その他	4	無回答	0	合計	16	3) このような健康調査を定期的に受けていたいですか？ <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">項目</th> <th style="width:50%;">人数</th> </tr> <tr> <td>はい</td> <td align="center">15</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td align="center">1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td align="center">16</td> </tr> </table>	項目	人数	はい	15	いいえ	0	無回答	1	合計	16						
項目	人数																																							
はい	13																																							
いいえ	3																																							
無回答	0																																							
合計	16																																							
項目	人数																																							
いきいきまちの駅	9																																							
案内チラシ	3																																							
その他	4																																							
無回答	0																																							
合計	16																																							
項目	人数																																							
はい	15																																							
いいえ	0																																							
無回答	1																																							
合計	16																																							
4) 健康調査の料金がいくらだったら、もう一度受けますか？ (3)で「はい」と回答した人のみ) <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">項目</th> <th style="width:50%;">人数</th> </tr> <tr> <td>3,000円以上</td> <td align="center">1</td> </tr> <tr> <td>3,000円以内</td> <td align="center">1</td> </tr> <tr> <td>1,000円程度</td> <td align="center">12</td> </tr> <tr> <td>500円</td> <td align="center">1</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td align="center">1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td align="center">16</td> </tr> </table>	項目	人数	3,000円以上	1	3,000円以内	1	1,000円程度	12	500円	1	無回答	1	合計	16	5) 会場について <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">項目</th> <th style="width:50%;">人数</th> </tr> <tr> <td>良かった</td> <td align="center">16</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td align="center">16</td> </tr> </table>	項目	人数	良かった	16	不満	0	無回答	0	合計	16	6) セミナー並びに健康調査の内容について <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width:50%;">項目</th> <th style="width:50%;">人数</th> </tr> <tr> <td>大変よかった</td> <td align="center">13</td> </tr> <tr> <td>まあまあ良かった</td> <td align="center">2</td> </tr> <tr> <td>少し不満</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>不満</td> <td align="center">0</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td align="center">1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td align="center">16</td> </tr> </table>	項目	人数	大変よかった	13	まあまあ良かった	2	少し不満	0	不満	0	無回答	1	合計	16
項目	人数																																							
3,000円以上	1																																							
3,000円以内	1																																							
1,000円程度	12																																							
500円	1																																							
無回答	1																																							
合計	16																																							
項目	人数																																							
良かった	16																																							
不満	0																																							
無回答	0																																							
合計	16																																							
項目	人数																																							
大変よかった	13																																							
まあまあ良かった	2																																							
少し不満	0																																							
不満	0																																							
無回答	1																																							
合計	16																																							
6) セミナー並びに健康調査の内容についてのご意見・ご要望 介護、観光ゼミ 勉強になりました																																								
7) 今後、開催して欲しいセミナーなど企画について、ご意見、ご要望がありましたらご記入下さい。 前年度に参加させていただいた体操教室の開催をお願いします。 健康相談会(身近に) 体操教室(日曜か夜19時～希望します。) いきいき毎朝運動(ラジオ体操みたいな)、カルタ大会みたいなレクリエーション 健康食等、食に関する事																																								

E. ウェルネスツーリズムの周知

各ウェルネスツーリズムのチラシを設置し広報に務めるほか、ツアーと連動した「街中健康ウォーキングプログラム」(群馬大学・柳川教授 平成20年度作成)を紹介し、ウォーキングの理解を深めていただいている。

F. 広報活動

PRを図るため、手作りによるチラシを作成した他、中心市街地を中心とした3万世帯に新聞の折り込みチラシを配布、県内発行部数1位を誇る上毛新聞社に広告記事掲載、さらに県内8万部発行の毎日新聞に広告記事掲載を行い、普及活動に務めている。さらに、インターネットによる情報発信を行うためホームページについて、以前より連携がある中央総合学院グループの専門学生にコンペ形式で依頼。最終的に提案された3案を委員会で協議し、そのうちの1案を採択。現在、手直しを行いながら公開している。



■ 開所式 会頭市長挨拶



■ 開所式 厩橋 CHINDON 倶楽部



■ 開所式 前橋商業高校吹奏楽部

[illegible]

■上毛新聞折込チラシ裏面【平成21年12月26日(土)】

健康情報発信拠点

いきいきまちの駅



情報発信拠点として、健康情報をはじめ、ウェルネス・ツーリズム情報やまちなかキャンパス、中心市街地のイベントなどさまざまな情報を皆様にお知らせします。



2010年1月 まちなかキャンパス案内

- ▶1/12(火) 18:00~19:30
成人病(生活習慣病)のお話し⑦更年期対策
- ▶1/14(木) 10:30~11:30
いきいき健康音楽〜歌って 話して 教えて!〜
- ▶1/16(土) 13:30~16:30
FPによるすぐに役立つお得なお話+ちょこっと相談
- ▶1/20(水) 14:00~15:00
毎日の便とにらめっこ!〜大腸の病気あれこれ〜
- ▶1/21(木) 10:30~12:00
お母さんも安心・朗読基礎入門
- ▶1/23(土) 14:00~15:00 **折り紙で楽しもう**
- ▶1/24(日) 14:00~16:00 **脳いきいきアート**



毎日の健康チェックを行います!

○体重 ○体脂肪 ○内臓脂肪 ○血圧...etc.
※この「いきいきまちの駅」で、身体の状態を測定できます。
現在のご自身の身体の状態を知ることから健康づくりをはじめましょう。

いきいきまちの駅
まちなか案内人
育成支援プログラム
参加者募集

情報発信内容

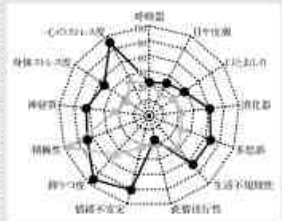


- HPによる「まちの駅」情報発信
- ウェルネスツーリズム情報
- 各病気等に関するパンフレット等
- 各病院からの健康情報
- 各大学・専門学校からの情報
- 観光情報
- 商店街情報(お店のお得情報・各種イベント)
- 重粒子線がん治療関係

健康チェック票 THI

わずか10分ほどで
心と体を手軽にチェック!
あなたの健康管理をサポート!

“THI”(Total Health Index)とは、質問紙に記入し、わずか10分ほどで多面的な健康管理が可能になるデータを作成するシステムです。
生活習慣など心と体の両面に関する質問に答えるだけで、メンタルヘルスもデータ対策も一度にOKです。結果は以下のようなレーダーチャートにし、健康アドバイスを添えて各個人に返送されます。定期的にチェックすることで変化の比較ができ、健康管理ができます。



「こんな講座が聞きたい」「こんな相談会があれば…」
などの皆様からの要望をお伝えください!

- 【目的】
前橋中心市街地の魅力をPRする案内人を育成する講座を実施します。中心市街地における歴史・史跡・文化・自然などについてその変遷や特色を学び、中心市街地の来訪者や、健康づくりのためのウォーキングコースを紹介できる案内人を養成します。
- 【対象者】
どなたでもお気軽にご参加ください。例えば、前橋の歴史や中心市街地のことに興味のある方、自主的に活動されている団体・個人の方大歓迎。
- 【分野】
①中心市街地のお寺や神社の歴史やいわれ
②広瀬川にまつわる逸話や歴史(萩原研太郎を含め)
③臨江閣や前橋るなばく、能楽院などの歴史
④赤城山にまつわる逸話や歴史・自然
⑤旧町名を含めた近代の前橋
- 【講師】
前橋文学館友の会、渡立亭倶楽部、熊野神社の総代氏子、大進時の住職、群馬地名研究会、赤城神社の宮司、群馬大学、ほか
- 【回数】 各分野ごとに数回シリーズで開催
●すべての講座を受講された方には修了証を贈呈します。
- ※2010年1月下旬から講座開始予定。
詳しくはお問い合わせください。

■上毛新聞折込チラシ表面【平成22年2月27日(土)】

健康情報発信拠点

いきいきまちの駅

内閣府・地方の元気再生事業

ス

マ

イ

ル

ここから健康を発信!
ここで健康をチェック!

基本利用料
無料

健康情報発信

健康チェック

交流拠点

新しい交流拠点が街中にオープン!
お気軽にご利用ください

馬場川通り沿い
白い壁が目印です!

1F

2F

前橋中心市街地の馬場川通りに、健康情報発信拠点いきいきまちの駅「スマイル」がオープンしました。

この「いきいきまちの駅」は、内閣府・地方の元気再生事業の社会実験として実施します。日常的な健康チェックや各種健康相談、健康づくりの講座など、わかりやすく、そして楽しい健康プログラムを提供するほか、イベント・観光情報や、食・生涯学習情報、暮らしに役立つ耳寄り情報など、様々な情報を発信する「来て!見て!楽しい!!」新しい街の交流拠点です。

健康情報発信拠点
いきいきまちの駅「スマイル」
前橋市本町2-1-11 (前橋中心市街地・馬場川通り沿い)
TEL.027-289-4321 FAX.027-289-4322
営業時間/午前10時から午後7時まで
営業日/年中無休(年末年始を除く)
URL <http://www.maebashi-cci.or.jp/mcci/smile/>

フロア案内

- 1F 受付・血圧測定・体組成計・ストレスチェック機ほか各種パンフレットコーナー
- 2F 各種講座スペース 講座開催会場
- 3F 個別相談会場

「いきいきまちの駅」スマイル

実施：ウェルネスツーリズム推進協議会(お問い合わせ 前橋商工会議所 TEL.027-234-5111)

■上毛新聞折込チラシ裏面【平成22年2月27日(土)】

健康情報発信拠点 いきいきまちの駅



2010年3月 まちなかキャンパス案内

成人病(生活習慣病)のお話し⑧うつ病とその予防

～15:30

いつまでもいきいきと！老いときあう健康塾
輝く私に！「尿失禁予防と対処法」

いきいき健康音楽～歌って話して教えて！～

誕生学

サイエンスカフェ

不思議な炭：活性炭、その作りからエコな使い方まで

お母さんも安心・朗読基礎入門

FPによるすぐに役立つお得なお話+ちょこっと相談

情報発信拠点として、健康情報をはじめ、ウェルネスツーリズム情報やまちなかキャンパス、中心市街地のイベントなどさまざまな情報を皆様にお知らせします。



胃を知りたい～胃は悩んでいる～

折り紙で楽しもう

脳いきいきアート

参加者にもれなく中心商店街の加盟店で利用できる「Qのまちポイントカード」10ポイント進呈中！！(協力：新堀中心商店街(協))

毎日の健康チェックを行います！

○体重 ○体脂肪 ○内臓脂肪 ○血圧...etc.

※この「いきいきまちの駅」で、身体の状態を測定できます。

現在のご自身の体の状態を知ることから健康づくりをはじめましょう。

情報発信内容



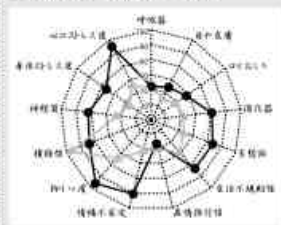
- HPによる「まちの駅」情報発信
- ウェルネスツーリズム情報
- 各病気等に関するパンフレット等
- 吾病院からの健康情報
- 吾大学・専門学校からの情報
- 観光情報
- 商店街情報 お店のお得情報・各種イベント
- 重粒子線がん治療関係

健康チェック票 THI

わずか10分ほどで
心と体を手軽にチェック！
あなたの健康管理をサポート！

無料

「THI(Total Health Index)」とは、質問紙に記入し、わずか10分ほどで多面的な健康管理が可能になるデータを作成するシステムです。生活習慣や心と体の両面に開いた質問紙に答えるだけで、メンタルヘルスと身体健康を一度に把握できます。結果は以下のようなリーダークラウドに、健康アドバイスを含めて各個人に送達されます。定期的にチェックすることで変化の比較ができ、健康管理がしやすいです。



「こんな講座が聞きたい」「こんな相談会があれば…」などの皆様からの要望をお伝えください！

地元商店街の声

馬場川通り親交会 会長
北原雄一郎 氏

昨年10月に「スマイル」がオープンして以来、新しい街の魅力として期待しています。一般の参加者はもちろん、地元商店街の方も定期的に利用しており、日頃の健康管理に役立てております。また、健康チェックをはじめ各講座の開催や情報発信拠点として色々な情報を発信し、ちょっと立ち寄る方も大変多く見受けられ、以前よりも人通りが増え地元としても大変喜んでおります。今後も地域一体となってこの取組を支援いたしますので、どうぞ皆様お気軽にご利用してください。

一般参加者の声

- ※ 毎日の健康チェックが気軽にできてとても便利！！
- ※ 体組成計の結果を親切に解説していただき分かりやすい
- ※ THIでこんな所までわかるんですね
- ※ 講座に参加して病気予防について理解できた
- ※ 街中のイベントがここに来ればわかる
- ※ ちょっとした休憩場所として…

このような声が
スマイルに届いています！

■新聞広告 上毛新聞 平成 22 年 1 月 5 日

健康増進施設 上毛
いきいきまちの駅 スマイル
「健康増進」の心と笑顔を繋ぐ



無料

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

2022年1月 健康増進施設「スマイル」案内

- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

■新聞広告 毎日新聞 平成 22 年 1 月 16 日

健康増進施設 上毛
いきいきまちの駅 スマイル
「健康増進」の心と笑顔を繋ぐ



無料

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

2022年1月 健康増進施設「スマイル」案内

- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階
- 〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

健康増進施設として、健康増進を促進、ウェルネス・リズムを創出、まちなかキャンパス、中心市街地のイベント等とさまざまな情報を発信に努めます。

健康増進施設「スマイル」案内

〒117-0051 東京都文京区千駄木1-1-1 上毛ビル1階

■ ホームページ開設 トップページ



■ ホームページ開設 いきいきまちの駅「スマイル」とは ページ

来て！見て！聞いて！楽しい町おこし活動が満載です
健康活動推進拠点

いきいきまちの駅 スマイル



いきいきまちの駅「スマイル」とは



いきいきまちの駅「スマイル」は、西宮市・阪西の元生活者である社会福祉士として平成25年1月1日試行で
開設する健康情報推進拠点です。

日常生活で健康や介護や各種健康相談、健康づくりの推進など、わかりやすく、そして楽しい健康プロ
グラムを提供するほか、イベント・健康情報や、食・生活学習情報、暮らしに役立つ暮らし情報など、種々
な情報を発信する「来て！見て！聞いて！楽しい」の活動拠点です。常時「スマイル」は一般来
訪から受け付けました。ご来訪の際は事前に予約を要しください。

定 時 日 年中無休（年末年始を除く）
営業時間 午前10時～午後7時

フロア紹介

1階
受付、来客室に関するパンフレット、お茶の相談からのご案内。
健康推進部員（責任者、保健師、栄養士、看護師）が活躍する。




2階
有償利用スペース、健康相談室（最大10名利用）
本館内には健康推進の他に健康や生活の場など多目的な場としてご利用いただけます。
ご来訪の際は事前にお断りください。




TOPICS

健康情報発信拠点 いきいきまちの駅 「スマイル」オープン!



オープニングで挨拶する曽我会頭



目印は白い壁です!!



前橋商業高校吹奏楽部の演奏

10月10日(土)、馬場川通りに健康情報発信拠点「いきいきまちの駅「スマイル」」がオープンしました。

当日は、前橋ちんどん倶楽部のお囃子が会場を盛り上げ、曽我会頭の挨拶の後、前橋商業高等学校の吹奏楽部によるミニコンサートが行われた。

この「まちの駅」は内閣府の「地方の元気再生事業」に応募し採択された事業で街に暮らす人、街を訪れた方たちが気軽に利用できるコミュニティーです。

【主な実施内容】

■情報発信

病院、大学、関係機関の協力により、健康に関する情報をはじめ、障害者支援、暮らしに役立つ耳より情報、商店街お得情報、市内観光情報、切らずにがんを治す「重粒子照射施設」情報など、様々なジャンルの講座や相談会を開催します。

■健康チェック

体重・体脂肪・内臓脂肪・血圧…etc. 群馬大学の協力により、健康機器を設置。身体の状態を測定できます。さらに専用のHPで測定結果を管理することも可能です。(11月には稼働予定)

■交流拠点

2階の会場は、講座会場の他に多目的会場としても利用できます(条件あり)。発表の場として、会合の場としてお気軽にご利用ください。

【問合せ先】

いきいきまちの駅「スマイル」
TEL. 027-289-4321
FAX. 027-289-4322



1階の風景

中心市街地の3階建ての空き店舗を利用し、1階は受付と血圧測定、体脂肪測定器、ストレスチェック機等を設置し、日頃の健康管理に役立ててください。2階は相談スペースと講座会場、3階は個別相談会場となっています。

年中無休で営業時間は10時～19時まで。基本利用料は無料となっています。

仕事帰りに、買い物ついでに、おひとりさまでもご家族、友人とでも利用できる、みんなの情報発信拠点です。

健康は予防から。気軽に訪れて、快適な毎日を手にいれましょう。



「いきいきまちの駅」開設

前橋の健康情報発信拠点

前橋市中心部の馬場川通りに今年10日、市民が気軽に利用できる健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」が開設された。



馬場川通りに面したビルに開設。中心商店街の活性化効果も期待される

前橋市健康福祉部は、今年度内閣府の「地方の元気再生事業」の採択を受け、今年3月までの期間限定だが、無料で健康診断や相談が受けられ、有益な情報も満載。午前10時から午後7時まで、無休で営業している。勤め帰りや休日には是非訪れてみてはどうだろうか。

健康測定が手軽に

所在地は馬場川に面した3階建てのビル（延べ床面積134平方メートル）。1階には受付と健康測定器具、情報コーナーを設け、体重や体脂肪、筋肉量、基礎代謝量などを測定できる体組成計、血圧計が置いてあり、定期的に実施することによって、



血圧計、体組成計でいつでも無料測定が可能



健康や生活に関する情報コーナーにはさまざまなパンフレットが

の募集。健康管理が可能。ストレスチェック機能なども設置する予定だ。

健康相談も

今後、群馬大学医学部附属病院など7病院の協力を得て、月1回のペースで健康相談を実施。併せて健康に関する相談も受け付ける。同大医学部保健学科による体力測定も計画している。

情報コーナーでは、ウェルネスツリー、リズム、地域医療や健康の情報、観光・商店街情報、安全・安心情報などさまざまなパンフレットを無料配布。市民生活に役立ててもらおう。

講座を開催

2階には15人収容可能な講座会場、相談スペース、3階には個別相談

談会場を整備した。生涯学習の場として、大学や企業、各種団体など幅広い分野の講師陣による市民講座「まちなかキャンパス」を開いていく。20日、21日には群馬大学生体調節研究所の協力を得て、クロージングや肥満の仕組みについて講座を開催した。

同会場では、「ここに来れば毎日さまざまな健康講座を受講でき、いろいろな相談に応じられる場所にしたい。商店街活性化にもつながってほしい」として、市民から活用したい。要請を募っている。問い合わせは同会場所 ☎027-234-1511 へ。

G. いきいきまちの駅「スマイル」を利用したツアー

前章で述べた通り、以下のツアーでは、いきいきまちの駅「スマイル」を利用したコース設計を行った。

- ・前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅
- ・健康医療都市まえばしの旅
- ・50代からの「暮らし」をつくる旅（中止）
- ・モニターツアー 湯の街伊香保 あなたも安心トレッキング
- ・ウェルネスツーリズム

3. アンケート結果

まちの駅の利用者からは次のような声が届いている。

体脂肪・筋肉量測定について

- ・これだけ細かいデータがもらえるのがうれしい
- ・こんなに簡単に測れるとは思わなかった
- ・自己管理に役立つので大変参考になる
- ・印刷したものをもらえるのがうれしい
- ・定期的に測りに来たい(データを連続して管理してもらえるとよりよい)

健康チェック(THI)について

- ・自分の心身の状態が数字としてわかるので客観的に見られてよい
- ・当たっているのが驚いた
- ・自分で反省材料としたい
- ・これだけの分析ができるとは思わなかった

全般

- ・このような拠点があるのはうれしい
- ・気軽に立ち寄れておしゃべりできるのがよい
- ・いろいろな資料がそろっているのがうれしい
(前橋テルサなどだともらいにくい気がするが、ここはじっくり見られてよい)
- ・もっと市民のみなさんに知ってほしい
- ・何をしているところが外からでももっとわかるようにした方がよい
- ・ここの前を通るが、何をするとところだろうとずっと思っていた
- ・測定など「無料」とあるのがかえって入りにくいと感じた
- ・市街地を高齢者向けのまちづくりにしてほしい
(若い人は車で郊外に行けるので)

利用者が最初に来た経緯

- ・散歩(自転車)中
- ・友人、知人に聞いた
- ・前を歩いて何だろう?と気になっていた
- ・新聞、チラシを見て

「スマイル」をコースに組み込んだツアーにおける「スマイル」の評価は以下の通りである。

前橋の観光と最先端医療・治療施設見学の旅

いきいきまちの駅で施設の主旨を理解していただいたうえで、健康チェックなどを体験してもらい、その後に行ったアンケートの結果である。重粒子線医学センターや臨江閣などの見学と比べて評価は低かった。「やや不満」や「不満」の回答も目についた。

いきいきまちの駅		
項目	人数	%
大変満足	0	0.0
満足	6	24.0
普通	11	44.0
やや不満	5	20.0
不満	3	12.0
NA	0	0.0
回答者数	25	100.0

健康医療都市まえばしの旅

街中に健康チェックができるシステムは素晴らしいとの声が多く、このアンケートでも「満足」という評価が多いが、とんとん広場や重粒子線医学研究センターなど「大変満足」の評価を多く受けたその他のツアー内容と比べて、相対的に評価は低くなっている。

いきいきまちの駅「スマイル」		
項目	人数	%
大変満足	3	10.3
満足	10	34.5
普通	5	17.2
やや不満	3	10.3
不満	2	6.9
NA	6	20.7
回答者数	29	100.0

モニターツアー 湯の街伊香保 あなたも安心トレッキング

記者や旅行関係者といったプロの目から見た評価ということで注目されたが、「大変満足」「満足」の回答はなし。「普通」と「やや不満」が2人ずつと、大変厳しい評価となっている。たった4人の意見といえども、この評価を真摯に受け止めて、今後の改善につなげていく必要があるだろう。

いきいきまちの駅「スマイル」		
項目	人数	%
大変満足	0	0.0
満足	0	0.0
普通	2	50.0
やや不満	2	50.0
不満	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	4	100.0

ウェルネスツーリズム

この結果も厳しいもので、「大変満足」「不満足」はなかった。

いきいきまちの駅		
項目	人数	%
大変満足	0	0.0
満足	0	0.0
普通	3	75.0
やや不満	1	25.0
不満	0	0.0
NA	0	0.0
回答者数	4	100.0

4. 取組の効果

以上のような健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」交流事業から得られた効果は、次のように整理できる。

(1) 健康づくりの重要性への気づき

来場者の多くに、健康づくりの重要性、自分の健康は自分で管理することの気付きが与えられた。「病院よりも気軽に寄れて、手軽に健康管理ができる」との意見も寄せられている。これによって、「健康づくり → 医療費の削減 → 病院へは気軽に行けない(フィットネスクラブはお金がかかる) → まちの駅」へといった流れができるのが望ましい。

(2) 馬場川通りの人通りの増加

前橋プラザ元気21や前橋テルサからの来場者が多く、それまで公民館やテルサの利用のみで帰ってしまわれたのが、まちの駅に寄るようになっている。これがさらに発展すれば、市街地の回遊性の創出につながる。

(3) 中心市街地活性化の新たな取組としての認知

中心市街地活性化に向けた新たな取組として理解され始めたことが、さまざまな効果を生み出し始めている。地元商店街の人々も自分達の事業と考え、「THI」については全てのお店に配布し、まずお店の方にまちの駅を知っていただき、さらに「THI」を顧客とのコミュニケーションツールの一つとしてその周知を図っていただいている。「健康医療都市まえばし」としての中心市街地のあり方を考えるきっかけにもなっている。

(4) 文化・芸術の拠点としての活用

2Fのスペースを発表の場として利用したいとの声が多く寄せられるようになった。まちの駅が一つの文化・芸術の拠点としても期待され始めている。

5. 取組の検証

(1) まちの駅の平均来場者数

まちの駅「スマイル」は平成 21 年 10 月 10 日(土)に開店した。開店日当日の土曜日には 200 人、翌日曜日には 300 人の来店があった。同施設は年末年始を除いて年中無休で平成 22 年 3 月末まで運営される予定である。

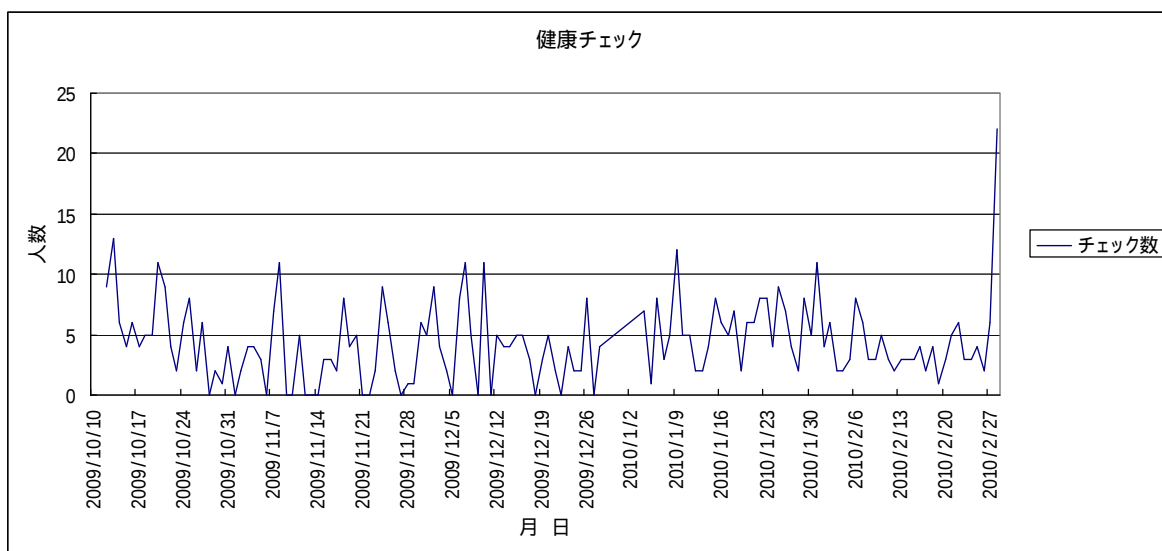
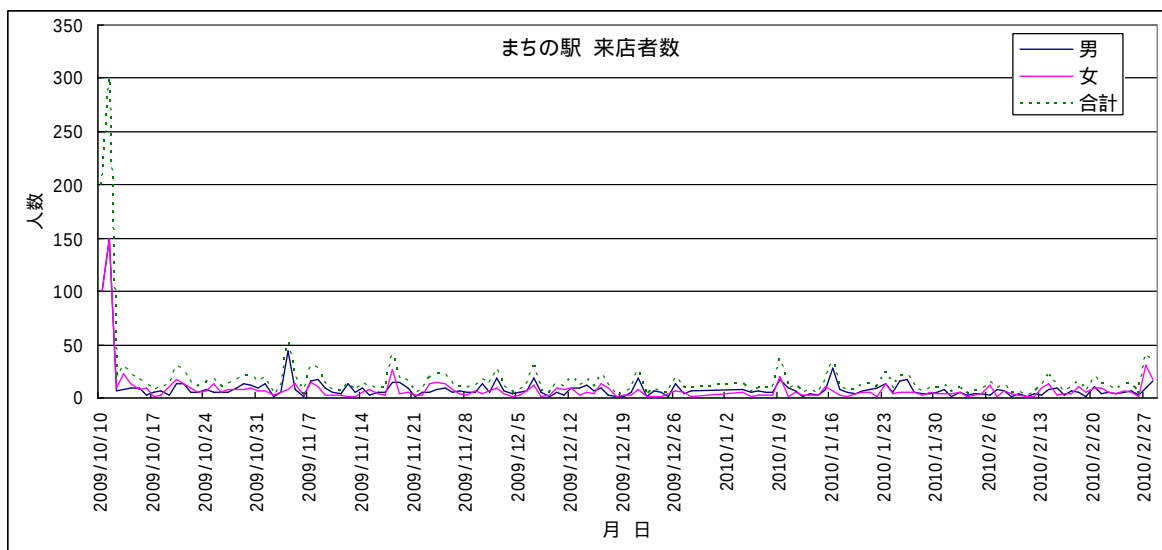
2 月末までの 1 日の平均来場者数は男性 9.3 人、女性 8.3 人、合計 17.2 人だった。また、健康チェックを受ける人は 1 日 4.4 人だった。なお、開店 2 日間の健康チェック者数は不明のため、考慮されていない。来場者の多かった開店 2 日間(土日)を除く平均来場者数は男性 7.6 人、女性 6.6 人、合計 13.8 人、健康チェック 4.4 人だった。

土日祝日(群馬県民の日を含む)の来場者数の平均は男性 13.2 人、女性 12.6 人、合計 25.7 人、健康チェック 4.9 人だった。開店 2 日間の土日を除くと男性 8.2 人、女性 7.6 人、合計 15.8 人、健康チェック 4.9 人だった。

平日の平均は男性 7.3 人、女性 6.1 人、合計 13.3 人、健康チェック 4.1 人だった。まちなかキャンパスなどイベントが開催された日の平均は男性 12.9 人、女性 9.9 人、合計 22.8 人、健康チェック 5.9 人だった。

(2) まちの駅の広告効果

これまでのまちの駅の来場者数の推移と、健康チェックを受けた人数の推移は、以下に示す通りである。

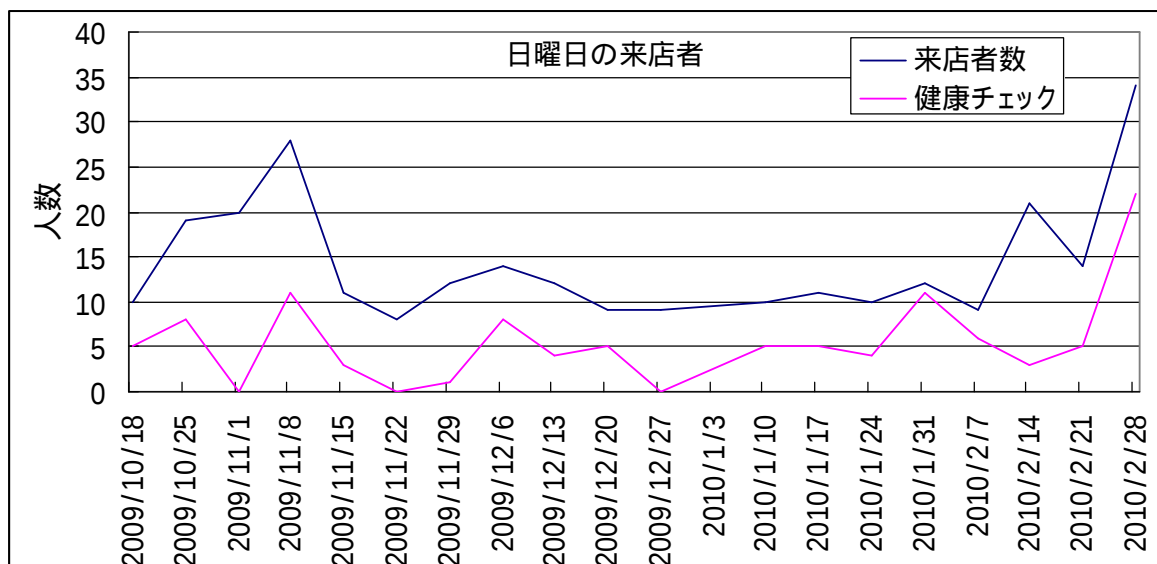
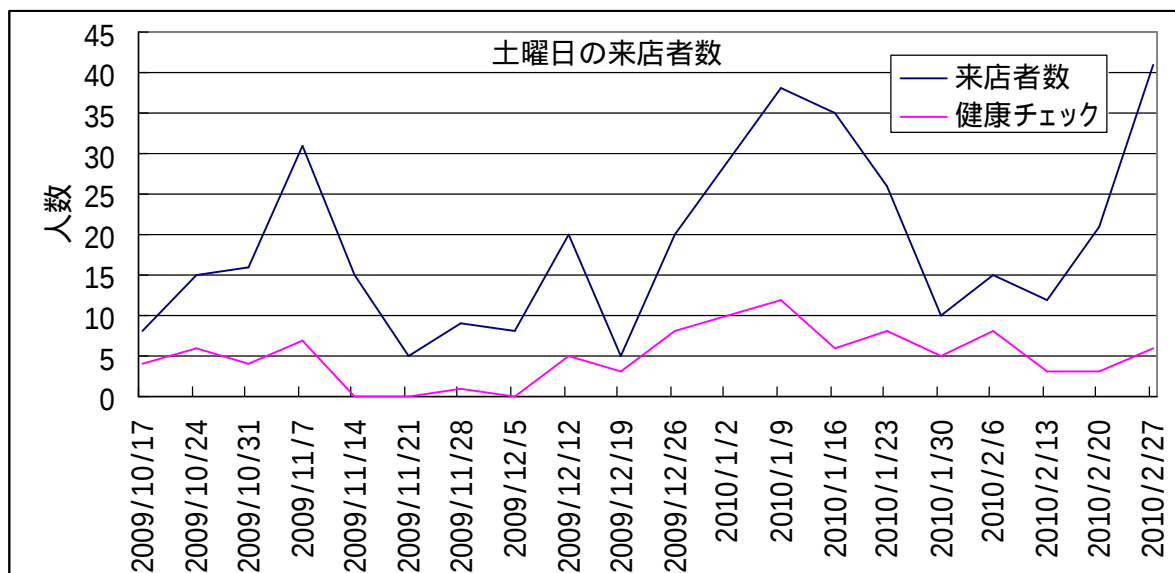


また、開店2日間の土日を除く来店者の推移は以下の通りである。

- 12月26日(土)に新聞に折り込みチラシ(1万世帯)を入れた当日の来場者は男性13人、女性7人、合計20人、健康チェック8人だった。これは前日金曜日の来場者数(男性2人、女性4人、合計6人、健康チェック2人)、ならびに、前週土曜日の来場者数(男性2人、女性3人、合計5人、健康チェック3人)を上回るものだった(12月26日の来場者数は開店2日間を除く土日祝日の平

均を上回った)。

- 2月27日(土)に新聞に折り込みチラシを入れた当日の来場者は男性10人、女性31人、合計41人、健康チェック6人だった。これは前日金曜日の来場者数(男性3人、女性1人、合計4人、健康チェック2人)、ならびに、前週土曜日の来場者数(男性11人、女性10人、合計21人、健康チェック3人)を上回るものだった。(2月27日の来場者数の合計は土日祝日の平均を上回った。)



- なお、折り込みチラシを入れた翌日日曜日の来場者数は 12 月 27 日(日)の場合、男性 4 人、女性 5 人、合計 9 人、健康チェック 0 であった。これは広告の当日の来場者数、ならびに、前週の日曜日の来場者数(男性 6 人、女性 3 人、合計 9 人、健康チェック 5 人)を下回るもの(来場者合計は同じだが健康チェック数が減少)だった(12 月 27 日の来場者数は土日祝日の総平均、ならびに、開店 2 日間を除く土日祝日の平均を下回った)。
- 2 月 28 日(日)の場合、男性は 16 人で前日の土曜日を上回ったが、女性は 18 人とどまり、合計では 34 人だったため前日の来場者数には及ばなかった。健康検査が実施されたため健康チェックは 22 人で前日を上回った。一方、28 日(日)の来場者数は、前週の日曜日の来場者数(男性 4 人、女性 10 人、合計 14 人、健康チェック 5 人)を上回った。(2 月 28 日の来場者数は土日祝日の総平均を上回った)。
- 1 月 5 日(火)には群馬県で 4 割を超えるシェアを持つ上毛新聞(31 万部発行)の紙面に広告を掲載した。来場者数は男性 5 人、女性 1 人、合計 6 人、健康チェック 1 人だった。これは前日の月曜日の来場者数(男性 8 人、女性 5 人、合計 13 人、健康チェック 7 人)を下回るものだったが、前々週の火曜日(前週は年末のため休業)の来場者数(男性 2 人、女性 1 人、合計 3 人、健康チェックなし)を上回った(1 月 5 日の来場者数は平日の平均を下回った)。
- なお、広告掲載から 1 週間(1 月 11 日まで)の平均来場者数は男性 8.3 人、女性 5.1 人、合計 13.4 人、健康チェック 5.6 人だった。これは、前々週の平均来場者数、男性 5.7 人、女性 3.1 人、合計 8.9 人、健康チェック 2.9 人を上回るものだった(広告掲載から 1 週間の平均は平日の平均を若干上回った)。
- 1 月 16 日(土)には県内 8 万部を発行する毎日新聞の紙面に広告を掲載した。来場者は、FP による相談会などがあり男性 28 人、女性 7 人、合計 35 人、健康チェック 6 人となった。これは前日の金曜日の来場者数(男性 8 人、女性 11 人、合計 19 人、健康チェック 6 人)を合計来場者数において上回った。しかし、初市が行われていた前週の土曜日の来場者数(男性 18 人、女性 20 人、合計 38 人、健康チェック 12 人)は下回った(1 月 16 日の来場者数は土日の平均を上回った)。

- 1月22日(金)には朝日ぐんまの紙面に記事が掲載された。来場者数は男性9人、女性2人、合計11人、健康チェック8人だった。これは、前日の木曜日の来場者数(男性8人、女性6人、合計14人、健康チェック6人)、ならびに、前週の金曜日の来場者数(男性8人、女性11人、合計19人、健康チェック8人)を下回るものだった(前週の金曜日には健康チェック相談会やウェルネスツアーのツアーが行われていたため来場者数が平均よりも多かった)。
- 新聞広告掲載後の1週間(1月28日まで)の平均は男性10.1人、女性5.6人、合計15.7人、健康チェック6.0人となり前週1週間(の平均(男性9.7人、女性5.6人、合計15.3人、健康チェック5.7人)を若干上回った(広告掲載から1週間の平均は平日の平均を上回った)。

これらのことをまとめると、広告効果に関しては以下のようなことが言えるだろう。

まず、新聞に折り込みチラシを入れた時の来場者数は増加しているが、翌日には広告当日よりも減少がみられた。折り込みチラシは即効性のある広告であるが、費用対効果をよく考える必要がある。

また、新聞紙面に広告を掲載した場合、当日の来場者数の増加効果は特にみとめられなかったが、広告掲載後1週間では、前週よりも増加が見られた。新聞紙面における広告は折り込みチラシに比べて即効性は弱い、認知を高めるためには有効である。

来場者数は、まちの駅の認知度や市民にとっての価値を量る1つの指標ではあるが、来場者の満足度やまちなかキャンパスの参加者数などと総合して考えなければならない。

6. 今後の課題

各取組の実施にあたっての反省点や取組の検証から導かれる今後の課題は、次の通りである。

PRが不十分で、市民に十分存在が周知されていない。旅行者を集めることより、まずは、市民が集まる空間を作るべきである。

商工会議所と前橋市の連携をもっと緊密なものとするべきである。まちの駅を市民に最も効果的にアピールできる手段の1つが前橋市の広報なので、これを有効に活用すべきである。

「健康情報発信拠点」のため、医学的相談をされるお客様が多く、スタッフでは対応しきれない部分もある(法的にも医療行為につながることは実施できない)。病院からも医師の派遣は厳しく、医師会との調整も難航している。

解決策として、「一日の相談内容をまとめる → 病院に送る → 病院内でそれぞれの先生から回答をいただく → まちの駅へ返信 → 後日利用者に回答」というような流れを作る方法がある。これだと足を運んで機会を増やすという効果も期待できる。

中心市街地の方の理解は得られたが、商店街との具体的な事業の実施まで至らなかった。今後は前橋中心商店街協同組合としてまちの駅をどのように位置づけていくのか、そして各個店との連携、まちの駅から商店街へ、商店街からまちの駅への人の流れなどを共に協力し構築していくことが必要である。

市民のニーズに応えるためには情報発信内容・開催講座の充実を図ることは必要であり、そのためには横の連携が必須であり、まだ希薄である。忙しいながらも何とか調整し、病院を巻き込むとともに、各大学や専門学校、あるいは市民団体の協力を仰ぎ事業推進していく必要がある。

第4章 健康マイスター育成事業

1. 取組の目的

ウェルネスツーリズム事業といきいきまちの駅事業の両取組みを推進する場合、重要となるのは、それらに関わる人材である。彼らは、地域に関する専門的な知識、質の良い“おもてなし”を提供できなければならない。そのためにも「健康医療都市構想」を理解し、指導的立場の人材を育てることが必要となることから、共通認識をもって事業推進するためのコアをマスターできるプログラムを作成する。また、事業を展開する中で、市民の健康に対する意識付けを行い、人々が生活する中で健康を享受できるシステムにより意識レベルのボトムアップを図る。

本年度実施した取組は、ナンバーバルツァー、ウォーキングツァー、重粒子線がん治療施設に関する人材育成で、具体的には以下の6回の研修会である。

- (A) ナンバーバルツァー人材育成研修会(第1回)
- (B) ナンバーバルツァー支援者研修会
- (C) ナンバーバルツァー人材育成研修会(第2回)
- (D) ウォーキングツァー人材育成研修会(第1回)
- (E) ウォーキングツァー人材育成研修会(第2回)
- (F) 重粒子線がん治療施設に関わる人材育成研修会

2. 取組の実施報告

A. ノンバーバルツアー人材育成研修会(第1回)



日 時:平成21年11月28日(土)

対象者:世界の名犬牧場 小暮支配人、柳瀬スタッフ

馬事公苑 青木理事長、大澤総務課長、靄林インストラクター

講 師:群馬大学教育学部 教授 松 田 直 氏

会 場:馬事公苑 2階 会議室

(1)研修会の目的

ノンバーバルツアーの受入施設に、障害を持つ子供に対する接し方や注意点について理解してもらうとともに、アニマルセラピーについての認識を深め、ノンバーバルツアーの流れや役割分担に関して入念な打ち合わせを行う。

(2)研修会の内容

世界の名犬牧場

世界の名犬牧場の施設内を確認し、当日の時間の過ごし方について調整をする。

特に犬の鳴き声は、音に敏感な子供に緊張をあたえるので、特設会場は犬がいる場所から離して設置する。また、ショップではショーケースに子犬が出されているので、施設に入場する前にしばらくの間そのショーケースを見学させ、犬に慣れさせてから入場することにした。また、犬との接し方については学生がまず見本を見せ、子供たちに理解をさせた上で接するようにすることにした。

馬事公苑

馬事公苑に移動し、研修会を開始する。

松田教授から、参加する子供の障害(知的障害・自閉症・注意欠陥多動性障害)の特徴についてビデオを見ながら説明していただき、その上で障害を持つ子供に対する接し方や注意点についてお話をいただいた。

- 障害者の行動特徴は幾つか挙げることができる。例えば初めのことは苦手で不安が強いので、手本を見せて結果が分からないと動かない。
- 初めて会う人の顔を見られないでいるが、気にはしているのでゆっくり時間をかけてわかりあうことが大切であるなど、健常者とは全く違うということを念頭に置いて対応していかないといけない。
- 関係の作り方についても、いきなり障害者に直接的に関わるのではなく、子供が職員を観察する時間を与えて、「この人は何をする人なのか」と関係性を理解させることが重要である。
- 注意する場合があっても、「これはだめ」「危ない」など否定的な言葉を使わずに褒めてあげることや、「AかBのどちらか」を選択するような聞き方をすると子供も理解できるので、言葉のかけ方に注意が必要である。

世界の名犬牧場と馬事公苑の両者から、同伴する学生から子供たちに伝えていただきたい注意事項として、 大声を出さない、 走り回らない、 むやみに近づかない、の3点が挙げられた。

- 特に、乗馬する場合は手綱を離したり、立ちあがってしまったりなど突発的なことが起こる可能性があり危険が伴うので、両脇にスタッフが控えてフォローできるようにするなどの対策が必要である。
- 乗馬は帽子とブーツの着用は必須要件なので、学生とうまく協力して着用させるようにすることなど細かい点まで情報交換して当日を迎えることで講義を終了した。

B. ノンバーバルツアー支援者研修会



日 時:平成21年12月25日(金) 支援者研修会

対象者:支援学生3名、商工会議所メンバー

講 師:上武大学看護学部看護学科 教授 一戸 真子氏

群馬大学教育学部 教授 松田 直氏

(1)研修会の目的

ノンバーバルツアーの支援学生に、ツアーを円滑に進めるために、障害を持つ子供やその家族に対して、どのようなもてなしをしたら良いのか、そのためにはいかなるスキルを習得したら良いのかを理解してもらう。

(2)研修会の内容

<弱者のための新しいプログラム作りが必要>

1. 来られる方・滞在者にとっての安心・安全なもの

- 施設のもてなし
- 援助する人
- お金の支援

2. 家族や集団旅行の受入れのために必要なもの

- 受入れスタッフのスキルアップ
- 支援する人、指導者へのアプローチ
- 援助する人の組織作り

C. ノンバーバルツアー人材育成研修会(第2回)



日 時:平成 22 年 2 月 25 日(木)午後 5 時

対象者:小暮支配人(世界の名犬牧場)、青木理事長(群馬県馬事公苑)、
根岸氏・長崎氏(群馬中央バス)、山口支配人(フラワーパーク)、

講 師:上武大学看護学部看護学科 教授 一戸 真子氏

群馬大学教育学部 教授 松田 直氏

商工会議所メンバー

(1)研修会の目的

本年度のノンバーバルツアーの総括を行うとともに、その反省や改善提案をベースに、次年度以降のさらなるレベルアップを図る。

(2)研修会の内容

1. ノンバーバルツアーの説明および健康医療都市構想について

- 定住人口、流動人口を増やし、前橋を活性化したい。
- 充実した医療施設を利用し、温泉、動物、自然等を取り入れ、あらゆる人々を快く受け入れられる健康をキーワードにしたツアーを事業化したい。
- その一環として障害者を対象にアニマルセラピーを取り入れたノンバーバルツアーを実施した。
- 事業化に向け、もてなす人と、体制作りをおこないたい。

2. 受け入れをしての感想

< 小暮支配人 >

- 子供たちに特に問題はなかった。
- 群大生の協力がありがたかった。

- 牧場側は2人の対応だったが、もっと人数を増やすべきだった。
- 従来から高齢者の団体等は受け入れているが、新たに今回のような層への受け入れ体制が見出せ、今後とも協力していきたい。

< 青木理事長 >

- 馬事公苑は老若男女の別なく、幅広く誰にでも楽しんでもらうための施設。
- 障害者には保護者がついていた方がよい。
- 群大生の協力は必要。
- 今回のような対応で良ければいつでも可能であるが、土・日は利用者が多いこともあり、できれば平日が良い。

< 根岸・長崎 >

- 従来から障害者の人達への対応はさせてもらっているが、健常者の場合と特に変わった対応をしている訳ではない。
- 今回はガイドをつけなかったが、移動の際に車内で「歌う」という行為が心のケアにつながると感じ、ガイドも添乗させていきたい。
- ドライバー、ガイドに障害者の人達への対応の勉強会、研修会も開きたい。
- 資金的なことになるが、リフト付きのバスも勘案したい。

< 山口支配人 >

- 障害者の団体は従来から受け入れている。
- 見ていて、土に触れるということは大事なことだと思う。
- 時に声を上げたりする子供もいるが、施設の環境上、一般客に対してそれほど気を使う必要はい。
- 職員に対し障害者の人達への対応方を判ってもらうためのマニュアルのようなものがあると嬉しい。

< 松田先生 >

- 今回のツアーは順調だった。
- 「泉の会」の子供達は学生によくなついているので、親の参加・不参加は特に支障にはならない。
- 動物のテーマは良かったが、もっとゆっくり、じっくり時間が取れば良かった。

< 一戸先生 >

- 普段から子供達に接し、彼らに対する知識と理解をもつ援助者の存在は重要。
- 安全と楽しさがウェルネスツーリズムでは大事だが、楽しさについてはそう難しく考えないで、気兼ねなく障害者に接していった方が良い。

3. ウェルネスツーリズムの重要性について……一戸先生

- 今後目指すべき経済社会には、本格的に健康を科学し、それと同時に新たな経済産業構造の構築が必要だが、それには健康産業だけでなく、全ての産業の転換が必要である。
- 日本は女性の平均寿命は世界一、男性もトップクラス。100 歳以上の方が 3 万人以上いるが、自殺者も 3 万人以上、心の問題、生活習慣病等も含め、単に長生きということだけでなく、どのように長生き(健康寿命)したかが大事。ウェルネスツーリズムは、健康寿命を保つため積極的に非日常的空間に出向いてもらい心の休養を取ってもらうことが重要な目的である。特に非日常的な体験は心身のリラックス効果が高いといわれている。
- また、我が国の病気死亡率の第一位である「がん」でいえば、末期患者の最大の希望は「旅行」であるとの調査結果が出ている。旅行は非日常的体験の代表的な行為であり、そのためウェルネスツーリズムが注目されるようになってきた。
- 前橋はやはり医療施設が充実しており、利用しない手はない。それには医療連携が必要であり、構築できれば「健康医療都市構想」も実現する。
- アニマルセラピーには、訪問型、飼育型、屋外活動型があるが、屋外活動型が最も非日常的であり効果も高いと思われる。
- 動物ばかりでなく、植物にも何らかのセラピー効果があると思われる。

4. 障害者(児)とその家族の理解について……松田先生

- ウェルネスツーリズムは、大きくいえば地球規模での環境の改善という問題も出て来るが、身近なところでいうと地域の環境を良くするということもある。
- 障害者手帳だけでは判らない個々のプロフィールの把握が大事。
- 現在では、障害者を施設に預ける云々より「地域でいろいろな人とどう共生していくか」が問題。
- 障害の有無にかかわらず「健康の保持・増進」は現代人に共通のテーマ。
その後、障害者のライフステージ、知的障害養護学校卒業後の生活に関するアンケートについて説明がなされ、障害者理解に至る意識の階梯について述べられた。

5. 最後に、今後に向けての意見交換を行った。

D. ウォーキングツアー人材育成研修会(第1回)

日 時:平成 22 年 3 月 4 日(木)午前 9 時

対象者:橋本氏、高橋氏、坂庭氏、植木氏、小林氏、外山氏

講 師:加藤 浩氏(日本ウォーキング協会公認専門指導員)

場 所:前橋商工会議所 3F バイオレット

ツアー現地

(1)研修会の目的

“健康づくりウォーキング 上毛電鉄沿線 前橋むかし物語ウォーク”を開催するにあたり、ウェルネスツーリズム事業の趣旨を理解してもらうとともに、ツアーに同行し指導にあたっていただく方々へ、健康づくりの定番となりつつあるウォーキングの正しい知識と健康づくりにより有効な歩法、参加者への対応を学んでいただき、コースの状況を把握してもらうことを目的とする。

(2)研修会の内容

1.ウェルネスツーリズム事業の説明及びウォーキングツアーの説明

2.初心者への対応法

- 正しい靴の選び方、はき方、正しい歩行姿勢、ウォーミングアップ・クールダウンの重要性、水分補給の必要性等

3.ツアー中の個々の参加者への対応法

- 参加者のフォローアップを行う際の対応(先頭・中段・最後尾に配置し、対応する)

4.ツアーコースの確認(現地)

- 坂道のポイント、危険ポイント、歩行距離等現地の確認

5.ツアー内での体調管理及び休息の取り方

- 休憩や水分補給の重要性や有効的な休憩の取り方

E. ウォーキングツアー人材育成研修会(第2回)



日 時:平成 22 年 3 月 11 日(木)午後 2 時

対象者:福田史郎、増野泉、中島広美、伊藤ミキ、金子茂美(上毛電気鉄道株)

講 師:斎藤智子氏(群馬県立心臓血管センターリハビリテーション科(健康運動指導士))

小野善平(群馬県立心臓血管センター 健康指導局長)

会 場:群馬県立心臓血管センター、リハビリパーク

(1) 研修会の目的

“健康づくりウォーキング 上毛電鉄沿線 前橋むかし物語ウォーク”を開催するにあたり、主催者である上毛電気鉄道株の社員にウェルネスツーリズム事業の趣旨を理解してもらうとともに、本ツアーの目的、ウォーキングの正しい知識、参加者への対応等を学んでもらうことを目的とする。

(2) 研修会の内容

1.ウェルネスツーリズム事業の説明及びウォーキングツアーの説明

2.「楽しくウォーキング」(講義)

- 参加者の健康状態や運動頻度などを聞き取る
- 歩くことの究極的な目的は「楽しさ」が備わり、健康づくりや病気予防等の「生活改善」にあること
- 歩き方の誤りや過度な負担がかかる歩き方は、身体に悪影響を及ぼす
- 運動の強さの算出方法
- ウォーキングを行う際のチェックポイント(バイタル○姿勢○運動変化○水分補給)
- 個人に合わせた負荷でのウォーキングでないと健康増進にはつながらない
- 参加者の年齢や運動頻度、バイタルチェックなどからレベル別コースの設定を検討する必要性

3.ウォーキングレクチャー(レッスン)

- ストレッチ、正しい姿勢、歩くフォーム、正しい筋肉の使い方○付け方等を学びながら施設及びリハビリパークでウォーキングのレッスンをする。

4.健康増進の進め方(講話)

- 適度な運動、バランスの取れた食事、生活習慣の見直し等

5.質疑応答(意見交換)

- 従来のウォーキングツアーでは出来なかったプログラムになる
- ただ歩くのではなく参加することで自然に有効な健康づくりが出来るツアーが可能となる。
- 季節ごとのウォーキングに関する注意事項等も今後指導していただきたい。

F. 重粒子線がん治療施設に関わる人材育成研修会



日 時:平成22年3月19日(金)

対象者:ウェルネスツーリズム関係事業者

講 師:武内 康弘氏

会 場:前橋商工会議所 2階 サクラ

参加者名簿(32名)

	企業名	代理出席者	役職	担当者
1	尾瀬紀行		常務	星野 裕子
2	小金澤農園下仁田ファーム			小金沢章文
3	群馬県央青果(株)	野菜ソムリエ	常務取締役	田村 善男
4	群馬女将の会	代理 渡 知多美	会長	塚越 裕子
5	関越中央病院	連携室	室長	渡辺 隆宏
6	旅邸 諧暢楼	代理 藤野	料理長	新井 茂
7	まちの駅伊香保渋川ネットワーク			新井 宣壽
8	日本健康運動指導士会群馬県支部	(群馬県心臓血管センター)	リハビリテーション課	高橋 信子
9	日本健康運動指導士会群馬県支部	(")	(")	鈴木 聡子

10	青木旅館	代理 青木留美	社長	青木 泰孝
11	バンガローヴィレッジ森の家			大熊 一彦
12	富士見温泉ふれあい館		支配人	山田 彰
13	群馬中央バス(株)			根岸 健次
14	群馬中央バス(株)			長崎 政雄
15	前橋観光ボランティア会			千木良 玄
16	世界の名犬牧場		支配人	小暮 栄一
17	群馬県馬事公苑		理事長	青木 孝
18	前橋市赤城少年自然の家			丸山 峰樹
19	ぐんまフラワーパーク		支配人	山口 修司
20	(株)エスアールディ ノ・メゾン広瀬川		管理人	町田 敏朗
21	上毛電気鉄道(株)		総務部長	福田 史朗
22	(有)群馬包装トーフ		社長	浅川 直也
23	麒麟ビール(株)群馬統括支社		課長代理	戸塚久仁子
24	JTB関東法人営業前橋支店	石崎 忠行	支店長	菊池 謙
25	前橋ホテル		チーフ	品田 高志
26	如心の里 ひびき野		女将	養田 博美
27	VANデザインセンター			山崎 勝之
28	初日		社長	鈴木 憲保
29	片品村観光協会			宮崎 晴郎
30	レーサムゴルフ & スパリゾート		支配人	佐藤 始
31	SUN おのがみ		副支配人	金子 国忠
32	(株)ジャスト	月刊ヴァン編集部		岩田 徳之

(1) 研修会の目的

本事業の趣旨を理解し、日本発の最新がん治療施設である群馬大学重粒子線がん治療施設のPR並びに重粒子線がん治療施設に関する知識を養う。また、前橋への来訪者や国内外の視察者への対応を円滑に推進するために各事業者間の連携や魅力付けへの展開を図る。

(2) 研修会の内容

1. 先進医療(重粒子線がん治療)の治療開始予定

- 2.先進医療における費用負担
- 3.重粒子がん治療の普及に向けての課題
- 4.国際大会(研修・学会等)の開催
- 5.今後の受け入れ体制について
- 6.住みやすい(安心・安全)な街づくり

(3)情報交換会の実施

ウェルネスツーリズム事業を通じて協力関係を築いた企業・関係機関・行政などに集まっていただき情報交換会を実施した。

地域には、埋もれた観光スポットや人材・企業などがたくさんあり、そうした素晴らしい素材の掘り起こし、個ではなかなか力を発揮できないものの、それらが結集し連携することによって大きな力を発揮する。

今後は、地域に密着した、地元ならではの観光スポット・食・宿・体験など参加者の要望をできる限り叶えるオプションを準備し、楽しんでもらえるようツアーの企画づくりを目指したいと考える。

そのためにも、地域で支えあうネットワークづくりを構築し、常に情報を取り合い新たな魅力ある健康をテーマにした観光事業やビジネスマッチングを展開し、事業化できる仕組みを構築したい。

そこで、今後も継続的にこうした取組に積極的に事業参画したい企業や施設担当者を集め、今までにないビジネス交流を実施し、新しい形の観光ツアーを模索するとともに、受け入れた体制の充実を図るための研修事業を積極的に実施したい。

3. 取組の効果と今後の課題

ナンバーバルツアーを実施するにあたっての施設の受入体制が整備されるとともに、支援者の受入スキルが大きく向上した。

トレッキングツアー・ウォーキングツアーを実施するにあたって、病院との連携で開催した研修会により、ツアーを遂行する際の留意点や受入体制についての不安が軽減されるとともに、運動的目線だけではなく、より効果の高い健康増進のためのツアーを実施することができるようになった。

ナンバーバルツアー・トレッキングツアー・ウォーキングツアーに関わるさまざまな主体の意見交換・情報交流が進展することにより、協議会側・会議所側が気づかなかった問題点や要改善点が発見され、プログラムの質的充実が図られた。

ツアーをきっかけに、様々な事業者や団体の方がともに研修することにより、多種多様な意見交換がなされ、新たな連携による受入体制の充実や新しい企画が持ち上がりつつある。

重粒子線がん治療施設を普及するための知識のほか、事業者にとっての受入体制を意識付けすることができたことから、新たな事業展開の可能性がでてきた。

効果に対して、課題として残ったのが、それぞれのツアー以外の分野の人材育成や受入体制の整備である。ウェルネスツアーやまちの駅に関する業務を繰り返し経験する学習効果によって、人材や組織の能力は確かに高まるが、これでは均質なサービスを提供することができず、属人的な要素・個別の事情によってサービスが変わってしまう。本プロジェクトに関わるあらゆる分野における人材育成は急務である。

こうした人材育成の事例を積み重ねることによって、「健康マイスター(健康づくりプランナー・健康運動指導士)」の育成プログラムが整備されるが、これも次年度以降の課題として残っている。

第5章 持続的な発展を目指して

1. 本格的な事業化にあたっての課題

「健康医療都市構想」を実現するために具体的事業のひとつとして「まちなかキャンパス＝いきいきまちの駅」「メディカルツーリズム＝ウェルネスツーリズム」を推進してきた。いずれも、キーとなるのは「人」であり「地域」である。健康医療都市を形成するには地域で支えるシステムが必要不可欠であり、このような事業を展開する中で様々な連携を作り出し、地域の課題を解決することが可能となれば市民がいきいきと暮らし「住んでいた」「住んでみたい」都市構造の創造になると思われる。

個々の取組の達成レベルをより向上させるための課題については、すでに前章までの該当部分において取り上げたが、ここではプロジェクト全体の本格的な事業化の進展を阻害すると思われる課題や問題点を抽出し、プロジェクトの持続的な発展を目指すにあたって、どのような方策が必要になるのかを考察しよう。

(1) プロジェクトの収益性・採算性

本格的な事業化にあたって最大のポイントとなるのが、個々の取組として、あるいはプロジェクト全体としての収益性・採算性が確保できるかどうかである。本年度までは委託費で賄っていた取組も、今後はすべてプロジェクトにおける何らかの収益によって賄われるような構造を作り上げなければプロジェクトを持続的に展開していくことは不可能となってしまう。どの部分を有料のサービスとし、いくらかの参加費や料金を徴収すれば良いのか、費用はどの程度として見積もるべきかなど、プロジェクトの収益構造、事業構造をどう構築するかの検討が必要となる。

(2) 取組の科学性・訴求性・波及効果

プロジェクトが収益性を確保するために何よりも重要になるのが、個々の取組が参加者や顧客にもたらす価値を最大限に高めることである。取組の品質向上と言い換えても良いかもしれない。ウェルネスツーリズム事業で企画・実施するツアーにせよ、いきいきまちの駅「スマイル」で提供する各種サービスにせよ、現時点においては必ずしも顧客のニーズを十分に掘り起こし、それをプロジェクトとして緻密に練り込んだものにはなっていない。「よくありがちなもの」「思いつきをやや発展させた程度のもの」「何となく身体に良さそうに思えるもの」といったレベルに留まっているものも多い。参加者の人数やアンケートにおける満足度、さらには各種評価を見てもこのままで人を集め続けることができるほど甘くないことは誰が見ても明らかである。

本年度までは、さまざまな取組をなるべく多く行ってみて、その反応や評価を探り、そこから次年度以降につながる課題やヒントを抽出するというスタンスで十分であった

が、今後本プロジェクトが“独り立ち”していくにあたっては、より高いレベルの品質が求められるのは言うまでもない。こうした地域再生プロジェクトは、とかく自己満足の世界観で終わってしまう事が多いが、顧客が前橋に目を向けてくれる必然性など何も無く、そうした状況においてこの地域を旅行先として、あるいは滞在先として選んでもらうためにも、他地域との競争、類似サービスとの競争に常にさらされている事を忘れてはならない。

そう考えた時本プロジェクトは、次のような観点からの品質向上を目指す必要がある。そうである。まずは「健康医療都市」を志向する以上は、プロジェクト全体としても、個々の取組においても、なるべく科学性を高める努力をするべきである。ありきたりの健康ビジネスと異なり科学的な裏付けにしっかりと支えられていることが、サービスの価値を高め地域全体の差別化に結び付くからである。

また、個々の取組の訴求効果（アピール度）をより高めていくことも必要となる。ウェルネスツーリズム事業に関しては、上記の科学性が付与されることにより訴求効果が高まることは予想されるが、何よりも早急に手をつけるべきは「いきいきまちの駅」やそこで提供されるサービスの認知度や魅力の向上策だろう。来場者が今のレベルに留まっているうちは、採算性を確保することはほとんど厳しいことから、一日も早く「いきいきまちの駅」が市民権を持ち前橋市民に愛される空間に生まれ変わることが必要である。

それぞれの取組の波及効果に関しても、もう少し戦略的にデザインする必要がある。そうだ。地域再生プロジェクトがコントロールできるのは、地域再生・地域発展のごく限られた部分のみである。その意味では影響力は限定的であるが、そのプロジェクトを起爆剤とした波及効果をうまくデザインすることができれば、プロジェクトの効果を何倍にも増幅させることが可能となる。そういった意味において、特に検討する必要があるのが、本プロジェクトとして重粒子線照射施設をどう位置付けどう活用するかだろう。本年度は見学対象施設の1つとして位置付けてきたが、実際の治療が本格的にスタートすると、これにはかなりの制約が生じてしまう。また、この施設を見学対象として位置付けるだけでは、その潜在的可能性を十分に生かしているとは言い難い。そこで何とか地域全体に大きな波及効果が生み出せるような仕掛け作りをすることが重粒子線照射施設の完成・稼働を契機とした本プロジェクトの使命とも考えられる。

(3) プロジェクトの運営組織と活動の一体性

今後の事業化に際してもう1つ重要になるのが、本プロジェクトの運営組織をどう構築するかという問題である。プロジェクト全体の相互関連性を考慮すれば、ウェルネスツーリズム事業と健康情報発信拠点「いきいきまちの駅」交流事業は、現在と同様、同じ運営組織によって統括されるのが望ましいだろう。これまでは地域の各主体を広く巻き込むための助走段階であったことから「ウェルネスツーリズム推進協議会」のようなゆるやかな地域連携組織での運営が最適であったが、これが“独り立ち”して収益性や採算性が重視される段階へと移行すると事情は一変する。環境変化の兆候を敏感にキャッチし、それに対応した意思決定を機敏に行うことで収益性を確保していくためには、次のような困難性が生じるからである。

第1には、ゆるやかな地域連携組織では、地域再生プレーヤー(地元企業やその経営者、地域住民、自治体、地域金融機関、地元大学といった地域再生に取り組もうとする主体)が高いモチベーションを保ちにくいことである。地域再生プレーヤーはそれぞれが地域再生とはまったく別の組織目的や行動目的を有した主体で、その目的の達成のために大部分のエネルギーや資源を費やさなければならないから、その目的以外に費やすことのできる時間や労力には、おのずと限界が出てきてしまう。また、地域再生プロジェクトを成功に導いたとしても地域再生プレーヤーに直接的なメリットが感じられないとどうしてもモチベーションは高まりにくいのである(地域再生が実現すれば、最終的にはそれぞれの主体にも何らかの波及効果がもたらされるはずであるが、それをプロジェクトの当初時点で強く認識するのはきわめて難しい)。

第2には、ゆるやかな地域連携組織は、1つの一体性・自律性を有した組織として機能せず、したがって有効な戦略を策定したりそれを実行に移したりすることがほとんど不可能となってしまうことである。地域連携組織がなぜ通常の組織と同じように機能しないかと言えば、それが通常の組織とは異なり、明確な権限関係や階層関係が存在しないという点によるところが大きい。通常の組織は、トップマネジメントを頂点とするピラミッドでイメージされうような組織内の権限と責任の体系を有しているのに対して、地域連携組織ではその関係が弱く、むしろ水平的な関係に近いものがある。こうした状況の中で、地域連携組織としての戦略的方向性を定め協働を促進することは、通常の組織の場合よりはるかに難しいことは想像に難くないだろう。

こうした困難性の背後には、さらに別な困難性も存在している。地域連携組織を構成するメンバーは、前述の通り、それぞれ自己の目的と利害を有した経済主体であるため、通常の組織には当然備わっているはずのメンバー間の共同体意識や情報共有が有効に機能しにくい。そのため、いくら経営システムやコミュニケーションの公式的体系を作っても、共同体意識と情報共有が乏しい組織では、協働はきわめて難しくなる

のである。

いきいきまちの駅ではこれまで健康チェックや健康講座、相談会などを実施してきたが、利用者の疑問や悩みに的確に応えられる専門家が常駐しているわけではなく、満足いく対応ができていないとは限らない。市民が安心して相談に来られる「心の拠り所」となるためにも医師会や病院などと連携しながら運営していく仕組みを構築することが必要である。

前橋市と前橋商工会議所の関係についても同様である。前述の「いきいきまちの駅」のPRを市の広報で行うべき点や、「前橋プラザ元気21」と「いきいきまちの駅」のコラボレーションによって街の回遊性を高めるべき点など、両者の協調体制をうまく構築していくべきである。これらもどのような運営組織を作るかにかかっていると言って良いだろう。

(4) 補助金への依存体質からの脱却

今は誰も想像していないものの他地域での前例から鑑みて、前橋が今後予想外に苦しむことになると考えられるのが「補助金依存体質からの脱却」になるかもしれない。2年間の「地方の元気再生事業」で大変恵まれた条件の下で地域再生の基礎を築くことができたことによって地域内に知らず知らずのうちに浸透しているのが、国・自治体等からの予算配分や補助金に過度の期待を寄せる考え方である。しかし、今後プロジェクトが本格的な事業化段階を迎えるにあたっては、早めに補助金依存体質から脱却しないとプロジェクトにとっては命取りになると言っても過言ではない。

自治体の予算や国からの補助金のみに依存するプロジェクトは、供給される資金量によってプロジェクトの質やパワーが左右されるから、戦略的視点からの意思決定が行いにくく「この予算の中でできることは何か」という発想に陥りやすい。これでは地域の将来を見据えた中長期的な戦略を取ることはほとんど不可能になってしまうだろう。そして何よりも大きな問題は、見返りを求められない官の予算や補助金に依存した瞬間に、成功のために何とかして工夫や努力を重ねようという意欲やエネルギーが大きく低下してしまうからだ。今後は、ある意味では厳しい財政状態の中で、もしくは見返りが求められる資金の調達によって収益性の向上を目指さなければならないのである。

その中、まちなかキャンパスでは平成21年度250コマ近くの講座を開催してきた。もちろん内容や会場など全ての講座が参加者のニーズに応えられているわけではないが、それでも年間120万円足らずの経費で事業を実施している。一般的な公開講座やセミナーでは、20回開催できるかどうかという金額である。ここに、さらに事業収入を計上し(歩合制かどうかは別)講師謝金等も支払うことができれば講師のモチベーション向上にもつながり、自立した運営ができるのではないだろうか。

(5) 実験的経営思考を可能にする仕組み

全国各地で行われているさまざまな地域再生プロジェクトでは、ほとんど例外なく緻密な分析や周到な計画策定によって最良の(できれば唯一絶対の)地域再生方法を実現しようとする思考に基づいて行われているが、こうした「理詰めの計画によって最善の道を追求する思考」こそが地域再生プロジェクトを成功させにくくする要因となる。なぜなら、「魅力ある地域を作り、多くの人々を地域内に呼び込む」というゴールを目指すためには「理詰めの計画」や「最善の道の追求」は最も望ましくない方法論と言えるからである。

地域の魅力というのは、「良い 悪い」「優れている 優れていない」という尺度で判断されるものではなく「好き 嫌い」「面白い 面白くない」という尺度で判断がなされる。このような世界においては、「AとBではAの方が良いのになぜBを選ぶのか？」などと問うことはまったく無意味である。まさにそれは人それぞれだからである。こうした世界は、サービスを提供する側からすると「何が当たるかまったく分からない」世界である。そしてさらに悪いことに、人々の好みや価値観は変化しやすく、今当たっているものが、あっという間に飽きられ、別な所に人々の興味が移っていくという、きわめて相手にしにくい世界なのである。

地域再生プロジェクトが、「好き 嫌い」「面白い 面白くない」という、主観的性格の強い尺度で評価を受ける世界において勝負するためには、実際にそういう世界で成功を収めている企業の経営手法や経営哲学を参考にするのが近道となる。この世界で昔から勝負してきたのが、人々の娯楽や余暇をビジネスの対象としてきたいわゆるエンタテインメント関連企業(映画、アニメ、演劇、音楽、お笑い、ゲーム等)である。エンタテインメント業界において成功している企業に共通する経営思想が、「実験的経営思考」である。何が当たるのかさっぱり見当がつかないのだから、あらかじめ徹底的に環境分析を行って、それに対処するための理詰めの計画を立てるのではなく、大まかなコンセプトを定めたらその大枠の中でのなるべく多くのものを消費者に問いかけてみる。そして、その中で消費者が飛びついてきたものに経営資源を集中投下していくのである。リスクを最小化する観点からも最初に個々の商品、サービス、アーティスト、作品等に掛ける金額・人員・エネルギー等は当然最小限にとどめておき、当たったものの以外からの逃げ足もできるだけ早める手段が講じられる。人々のニーズの移ろいやすさを考えれば、今当たっているものとはまったく異質なものと正反対のものも手掛けしておかなければならないが、「実験型経営思考」によって多様性を高めておけば、そうした条件にもかなうことになるのである。

エンタテインメントの世界の成功者に学ぶとすれば、地域再生プロジェクトは時として、旅行者のニーズをあらかじめ予測することやニーズ変化の兆候を早めにキャッチする

ことを放棄して、他地域の人々や企業に受けそうなサービスやイベント等の施策を矢継ぎ早に打ち出すことにより、地域を訪れたり地域に関心を持ったりする人々の側に自らが求めるものを選択させることが必要になるかもしれない。ニーズの予測可能性がきわめて低く、またそれが目まぐるしく変化する状況においては、無理に理詰めの施策を推し進めて狙いを外すよりも、網を広げておいてそれに掛かるのを待つ方が、結果的には人々のニーズに合致した戦略を実現しやすくなるのである。このように、地域再生プロジェクトが目指すべきは、従来型の「最善の道を追求するプロジェクト」ではなく、「実験的経営思考によるプロジェクト」であることが明らかとなるだろう。

こう考えると、「地方の元気再生事業」として本プロジェクトが推進されるにあたって享受してきたメリットの1つが、この「実験的経営思考」を実践できたことなのである。本プロジェクトでは、これまではさまざまな取組を実験的に試してみて、「どのようなツアーが旅行者に求められているのか」「いきいきまちの駅で期待されているサービスは何か」などを見極めることが可能であった。そして、今後は収益性や採算性が問題とされる以上、同様の継続的な実験・検証がより重要な意味を持ってくる。ところが、委託費がなくなり“独り立ち”しなければならない今後においては、こうした「実験的経営思考」を支える資金的余裕が消滅してしまう。本プロジェクトの持続的な発展を狙うのならば、このジレンマをどう解決するのがポイントとなるのである。

(6) 課題の総括

本プロジェクトが事業化を成功させ、持続的な発展を目指すためには、次年度以降、以上の(1)～(5)に挙げた課題の解決が求められる。その解決の方向性や手掛かりを追求したのが、この後に続く本章の2節～5節である。

「収益性・採算性の観点からプロジェクトの収益構造や事業構造を検討すべし」とする課題(1)に関しては、2節で検討する。そこでは、本プロジェクトを単純化した財務モデルを用いることによって、どのような収益構造・事業構造が望ましいのかの洞察を引き出そう。

「プロジェクトを科学性・訴求性・波及効果の観点からブラッシュアップすべし」との課題(2)に関しては、3節～5節において検討する。3節では、望ましい健康医療都市とヘルスツーリズムのあり方について、4節では、重粒子線照射施設を中核とした地域再生の波及効果を高めるための方策について、5節では、いきいきまちの駅の訴求性を高め、波及効果を最大化するためにはどのような方法がありうるのかについて論ずる。

課題(3)～(5)はいずれも、本プロジェクトが「地方の元気再生事業」から“独り立ち”した後の推進体制の問題に集約される課題であるが、これに関しては地域再生を

目的とした持株会社を設立するのが最良の道であることを、6節で論ずる。

2. プロジェクトの収益性と持続的経営の可能性

本プロジェクトが委託費なしに採算性を保つためには、どのような条件が満たされなければならないのかを分析してみよう。

(1) 財務シミュレーションシートの作成

まずは、本プロジェクトを単純化した財務シミュレーションシートを、以下の要領で作成する。

本プロジェクトが丸ごと会社組織によって運営されると仮定し、その会社は「ツアー」「公開講座」「健康管理」「販売」の4つの事業部門と「本社」の計5部門によって構成され则认为る。

ツアー部門の収益は、「ツアーの企画数×企画ごとの平均催行数×催行ごとの平均参加者数×平均単価」で算定されるものとする。一方の費用は、エージェントへの仲介手数料をツアー代金総額の10%とし、それ以外のコストは、ツアーの企画・実施に関わらず発生する「固定コスト」、企画数に比例してかかる「企画コスト」、催行数に比例してかかる「催行コスト」、参加者の頭数に比例してかかる「変動コスト」の3つの部分に分かれるものとする。

公開講座部門の収益は、「講座開講数×平均受講者数×受講料」によって算定されるものとする。費用は、講座開講数にかかわらず負担しなければならない「固定コスト」と、講座開講数に比例してかかる「講座コスト」（たとえば講師料）に分けられる。

健康管理部門の収益は、「健康診断受診者数（＝営業日数×1日の来場者数×来場者の中で健康診断を受ける人の率）×健康診断料金」で算定されるものとする。費用は、受診者数に関わりなくかかる「固定コスト」と受診者数に比例してかかる「変動コスト」に分けられる。

販売部門の収益は、「購買者数（＝営業日数×1日の来場者数×来場者の中で売店で買い物をする人の率）×平均客単価」で算定されるものとする。費用は、単位あたりの「原価」と「固定コスト」によって構成される。

本社部門は、収益を生まないため、費用のみの算定となるが、「人件費」「広告宣伝費」「水道光熱費」「賃借料」「その他経費」によって構成される。

これら5部門の収益、費用、利益を合体したものが、総合損益計算書である。

(2) シミュレーションの結果

(a) 本年度と同様の規模で実施したケース

このシートを用いて、まずは、本年度と同じようなペースでそれぞれの取組を行った場合の利益を弾き出してみよう。

ツアー部門では、年度当初からツアーの企画・実施をスタートさせたとして、年間12本(それぞれを1回ずつ催行)。参加者数は10名前後だが、本年度と同様、地域のさまざまな主体の支援により、コストは最低限に抑えられたとする。

公開講座も健康診断も料金は無料、販売部門は存在せず、本社経費も、各主体の協力により、「スマイル」の賃借料プラスアルファの水準で収まったとする。

こうした数字を入力した時の採算性を求めた結果が、次ページの ケース(a) である。営業赤字が720万円。

これを何らかの予算でカバーすれば、プロジェクトは継続可能ということになるが、これではただプロジェクトを続けたというだけの意味に留まってしまう。地域再生に対する影響力は0に等しいと言いきえよう。

(b) プロジェクトの収支均衡を目指したケース

次に、本格的な事業化の開始とともに、合理的なコストをかけ、受講料や診断料金を徴収することにより、プロジェクトの収支均衡を目指す場合のシミュレーションを行ってみよう。

ツアー部門では、企画の魅力度アップに努め、12本の企画をそれぞれ3回ずつ催行、平均参加者数は30名とする。

「いきいきまちの駅」では、公開講座、健康診断・健康相談、売店の魅力度をそれぞれ向上させることにより、相乗効果を狙う。公開講座で訪れた人が健康診断を受け、売店でグッズを購入するということに、それぞれの部門の集客力は他の部門の集客力を高めるのである。

ケース(a)

本年度と同様の規模で実施したケース

ツアー部門損益計算書		販売部門損益計算書	
営業収益	1,440,000	営業収益	0
企画数	12	購買率	0%
各企画の平均催行数	1	平均客単価	0
各催行の平均参加者数	10	営業費用	0
平均単価	12,000	単位あたり原価	0
営業費用	2,064,000	固定コスト	0
仲介手数料率	10%	営業利益	0
固定コスト(年)	0		
企画コスト(1企画あたり)	30,000	本社部門損益計算書	
催行コスト(1催行あたり)	70,000	営業費用	3,660,000
変動コスト(1人あたり)	6,000	常勤職員数	0
営業利益	-624,000	常勤職員年収	4,800,000
		人件費(年)	0
公開講座部門損益計算書		広告宣伝費(年)	300,000
営業収益	0	水道光熱費(月)	60,000
講座開講数	120	賃借料(月)	200,000
平均受講者数	15	その他経費(年)	240,000
受講料	0	営業利益	-3,660,000
営業費用	0		
固定コスト(年)	0	総合損益計算書	
講座コスト(1講座あたり)	0	営業収益	1,440,000
営業利益	0	ツアー	1,440,000
		公開講座	0
健康管理部門損益計算書		健康管理	0
営業収益	0	販売	0
営業日数	365	営業費用	8,644,000
平均来場者数(日)	14	ツアー	2,064,000
健康診断率	33%	公開講座	0
健康診断料金	0	健康管理	2,920,000
営業費用	2,920,000	販売	0
固定コスト(年)	2,920,000	本社	3,660,000
変動コスト(1人あたり)	0	営業利益	-7,204,000
営業利益	-2,920,000	法人税等(40%)	-2,881,600
		当期純利益	-4,322,400

まず、公開講座部門は、1 講座あたりの講師料を 5,000 円とすることにより、メニューの拡大と質的向上に努め、受講料を 500 円徴収する。市民が「面白い(役に立つ)話が 500 円(ワンコイン)で聞ける」というところに価値を見出してくれるかどうか勝負である。

健康管理部門では、医師会や地元の病院との緊密な協調関係を構築することにより(医師会や地元の病院がここでのサービスに価値を見出すことにより)、健康のワンストップサービスを実現すれば、来場者は大きく拡大することが予想される。こうした望ましい協調関係の中で、健康診断機器の充実が図られれば、診断料金 300 円を徴収することも十分可能となる。

販売部門では、地元の名産品やオリジナルグッズの販売を行う。飲食コーナーを設ける場合は、それもこの販売部門に含めて考える(たとえば本章の 5 節で提案される「昔の学校を基本コンセプトとしたまちの駅」では、懐かしい学校給食を振舞うコーナーが開設される)。

本社部門では、常勤職員を 1 名雇用することにより、経営の戦略性や計画性を高めるとともに、有効な PR 活動を実施する。

このような前提の下で算定されたのが ケース(b) である。計算上は収支トントン。このシートに入力した数値はいずれも実現不可能な数値ではないから、本プロジェクトはやり方によっては、事業化が十分可能と考えられるのである。

(c) 収益力の飛躍的向上を目指したケース

より高い収益性を目指すためには、少なくとも現在のスペースの拡大が必要になるだろう(5 節で提案されるプランは、現在の建物とは異なる場所での営業を前提としたものである)。そして、それぞれの部門においては応分のコストをかけて、差別化の強化が図られる。

重粒子照射施設への注目度を契機とした前橋周辺の温泉や観光地とタイアップしたウェルネスツアーに対する人気の高まり。これは平均単価のアップと催行本数の増大を可能とし、収益性を大きく改善することとなる。

公開講座のラインアップと魅力度のさらなる向上は、受講者数を増大させるとともに、市民の間に「学ぶことの喜び」や「学ぶ習慣」を植え付けることにつながり、それは結果的にはリピート率の向上としてプラスに作用するだろう。

より高度なレベルの健康診断機能の提供と人員の増強により、いきいきまちの駅を多くの市民が「健康と医療のワンストップサービス」として認識することになれば、利用者も飛躍的に拡大する。

全国向けのニュースやワイドショーで取り上げられるような前橋オリジナルの目玉

商品や人気ブランドの開発が進めば、この販売部門が前橋への直接的な集客効果を持つことになるのである。

本社経費も強化して、これらの実現を精力的に追求することを前提に作られたシートが シート(c) である。売上は1億 3,000 万円、営業利益は 1,000 万円というシミュレーション結果が得られる。

ケース(b)

プロジェクトの収支均衡を目指したケース

ツアー部門損益計算書		販売部門損益計算書	
営業収益	12,960,000	営業収益	10,800,000
企画数	12	購買率	30%
各企画の平均催行数	3	平均客単価	600
各催行の平均参加者数	30	営業費用	6,840,000
平均単価	12,000	単位あたり原価	360
営業費用	12,576,000	固定コスト	360,000
仲介手数料率	10%	営業利益	3,960,000
固定コスト(年)	240,000		
企画コスト(1企画あたり)	80,000	本社部門損益計算書	
催行コスト(1催行あたり)	100,000	営業費用	9,240,000
変動コスト(1人あたり)	6,000	常勤職員数	1
営業利益	384,000	常勤職員年収	4,800,000
		人件費(年)	4,800,000
公開講座部門損益計算書		広告宣伝費(年)	600,000
営業収益	1,875,000	水道光熱費(月)	100,000
講座開講数	150	賃借料(月)	200,000
平均受講者数	25	その他経費(年)	240,000
受講料	500	営業利益	-9,240,000
営業費用	870,000		
固定コスト(年)	120,000	総合損益計算書	
講座コスト(1講座あたり)	5,000	営業収益	31,935,000
営業利益	1,005,000	ツアー	12,960,000
		公開講座	1,875,000
健康管理部門損益計算書		健康管理	6,300,000
営業収益	6,300,000	販売	10,800,000
営業日数	300	営業費用	31,926,000
平均来場者数(日)	200	ツアー	12,576,000
健康診断率	35%	公開講座	870,000
健康診断料金	300	健康管理	2,400,000
営業費用	2,400,000	販売	6840000
固定コスト(年)	2,400,000	本社	9,240,000
変動コスト(1人あたり)	0	営業利益	9,000
営業利益	3,900,000	法人税等(40%)	3,600
		当期純利益	5,400

ケース(c)

収益力の飛躍的向上を目指したケース

ツアー部門損益計算書		販売部門損益計算書	
営業収益	81,000,000	営業収益	25,725,000
企画数	15	購買率	35%
各企画の平均催行数	12	平均客単価	700
各催行の平均参加者数	30	営業費用	15,180,000
平均単価	15,000	単位あたり原価	400
営業費用	68,040,000	固定コスト	480,000
仲介手数料率	10%	営業利益	10,545,000
固定コスト(年)	240,000		
企画コスト(1企画あたり)	80,000	本社部門損益計算書	
催行コスト(1催行あたり)	100,000	営業費用	19,280,000
変動コスト(1人あたり)	7,500	常勤職員数	2
営業利益	12,960,000	常勤職員年収	4,800,000
		人件費(年)	9,600,000
公開講座部門損益計算書		広告宣伝費(年)	2,000,000
営業収益	4,800,000	水道光熱費(月)	200,000
講座開講数	240	賃借料(月)	400,000
平均受講者数	40	その他経費(年)	480,000
受講料	500	営業利益	-19,280,000
営業費用	2,040,000		
固定コスト(年)	120,000	総合損益計算書	
講座コスト(1講座あたり)	8,000	営業収益	129,900,000
営業利益	2,760,000	ツアー	81,000,000
		公開講座	4,800,000
健康管理部門損益計算書		健康管理	18,375,000
営業収益	18,375,000	販売	25,725,000
営業日数	300	営業費用	119,840,000
平均来場者数(日)	350	ツアー	68,040,000
健康診断率	35%	公開講座	2,040,000
健康診断料金	500	健康管理	15,300,000
営業費用	15,300,000	販売	15,180,000
固定コスト(年)	4,800,000	本社	19,280,000
変動コスト(1人あたり)	100	営業利益	10,060,000
営業利益	3,075,000	法人税等(40%)	4,024,000
		当期純利益	6,036,000

(3) 持続的経営の可能性について

以上の分析で明らかな通り、本プロジェクトは、次年度以降“独り立ち”したとしても、持続的経営が十分に可能な潜在力を有している。ただ、今のままで収益力を向上させるための手立てをなんら取らなければ、大赤字となることもすでに示した通りである。

ここで用いた財務シミュレーションシートは、現実の経営を極端なまでに単純化したものだが、上記で行ったような全体的な損益をシミュレーションする以外に、個々の部門に関しても、どのような収益構造にするのが望ましいのかに関する綿密かつ実践的な分析を可能とするものである。たとえば、ツアー部門においては、「企画のバリエーションを拡大すべきなのか、それとも企画は少数に絞ってそれらを集中的に実施すべきなのか?」。販売部門においては、「販売単価を下げて販売数量アップを狙うべきなのか、それとも逆に販売数量が減少してでも販売単価のアップを図るべきなのか?」など、このシートを用いたシミュレーションによって、収益性を向上させるためのさまざまなアイデアが生み出せるはずである。

このプロジェクトが、「事業化できるかどうか?」「収益性があるかどうか?」を思案する局面はもう終わった。すでに局面は、「どのように事業化するか?」「いかにしたら収益性を高めることができるのか?」を工夫する段階へと移行したのである。

例えば、まちなかキャンパスでは将来的な目標は年間 500 コマの開催である。そのうちの現状の内容程度の 300 コマは市民サービスや入門編として捉え無料で実施する。趣味や手作り体験、遊びなどに関する講座はワンコイン程度で収支をあわせる。そして残りの 100 コマについては本格的な専門性のあるニーズに応えられるビジネススクール的な講座を開設し、数万円～10 万円程度の参加費を設定するなど、そのニーズや内容によって料金設定を変え、収入面の強化を図る手法も一つだと考える。

3. 健康医療都市とヘルスツーリズムのあり方

(1) 健康医療都市 (Wellness City) とは

健康について考える場合、まずヘルスプロモーション(Health Promotion)という考え方が重要となってくる。医療や保健に関する国際機関であるWHOはこれまで健康に関する様々な取組や情報発信を行ってきた。中でも 1986 年オタワ憲章はヘルスプロモーションに関する原点と言える。ヘルスプロモーションに関する最初の国際会議がオタワで開催され、そこでは 2000 年までにそして 2000 年以降も健康を達成するための実行可能な憲章を提示した。オタワ憲章では、ヘルスプロモーションは次のように定義されている。

「ヘルスプロモーションは、人々が自らの健康を改善したり、コントロールすることを可能にするプロセスである。」

またオタワ憲章では健康の前提条件として以下の 8 項目が必要であるとしている。

平和

非難する場所があること

教育

食物

収入

安定した生態系

持続可能な資源

社会正義と公正さ

健康都市(Healthy City)の定義についても、WHOがリーダーシップを発揮している。1997 年 7 月第 4 回インドネシアのジャカルタで行われたヘルスプロモーションに関する国際会議において、「21 世紀に向けた指導的健康増進の宣言(Jakarta Declaration on Leading Health Promotion into the 21st Century)」が採択された。この宣言に基づき、健康都市化のプログラムを進める都市や各国のコーディネータ、NGO、学術団体、学会などが参加して「健康都市連合(Healthy Cities)」が発足した。[健康都市連合憲章(Charter of the Alliance for Healthy Cities)]が掲げられており、そこでは、目的をヘルシーシティーアプローチ(Healthy Cities approach)を通して、個人やグループが自身の生活の質を向上できるようにすることであるとしており、さらに健康都市の定義を以下のようにしている。「健康都市(Healthy Cities)とは、継続して都市の物的・社会的環境の改善を行い、人々は互いに助け合い、生活のあらゆる局面で自身の最高の状態を達成するために、都市にある様々な資源を幅広く活用し、さらに発展させていく都市である。」またここで重要だとされているのは、ヘルシーセッ

ディング(Healthy Settings)であり、これは社会生活の中で人がまとまって活動する空間が総体として健康促進を支える物的・社会的環境を整えていることを指すこととしている。健康促進を支える諸環境が必要であるということになる。日本では千葉県市川市が認められており、近年「健康都市市川宣言」(2008 年 10 月 25 日)を出している。

通常は、この健康都市を示す指標は、都市に住む住民の健康指標(健康寿命、死亡率、罹患率など)によって示されることが多いが、本プロジェクトが目指す「健康医療都市」は、都市に住む住民のみではなく、広く健康環境(Healthy Settings)を整えることにより、ツーリズムを通して広くは世界中の人々の健康促進への働きかけが可能となる壮大なプロジェクトである。また、単に健康都市ではなく、「健康医療都市」としたのは、脳科学や分子生物学、免疫学などの目覚ましい研究成果が続々と実社会へ還元されつつあり、今後健康と医療とがより接近することにより健康な状態と病気の状態が分断されるのではなく、連続性のあるものとして捉えることがより重要となってくる。最新の診断学や検査方法、治療法に基づく高度な医療と、毎日の健康保持増進のための諸環境は人間の幸福にとって両輪となっていく。このことを視野に入れて本プロジェクトは、健康のための諸環境の整備と医療の整備との双方を兼ね備えた都市を目指すための取り組みであると言える。つまり一つの目的は「人々がウェルネスツーリズムを積極的に活用することによって、あらゆるステージの人々の QOL (Quality of Life)が高まる。」ということである。

さらに、平成 21 年 1 月に閣議決定された経済財政の中長期方針と 10 年展望には、今後目指すべき経済社会の「シナリオ」には、「健康長寿」をめざす広義のイノベーションが必要であるとされている。本格的に健康を科学し、それに伴う経済産業構造の構築が急務である。

また、平成 20 年度の科学技術研究の推進として、健康寿命を伸ばす科学技術の振興が重要であるとしており、具体的には「健康安心の推進」が重要であり、以下の 6 点が重点的に求められるとしている。

生活習慣病に関する研究

こころの健康の推進に関する研究

がん予防・診断・治療法の開発

介護予防の推進に関する研究

免疫・アレルギー疾患の克服に向けた研究

障害・難病などの生活の質(QOL)向上のための研究

本プロジェクトのウェルネスツーリズムの推進はこの分野のどれにも可能性のある分野である。そこで本年度はいくつかのウェルネスツアーについて実際にプログラムを企

画・立案実施し、結果については検証を行うことにより、今後の本格的事業の展開につなげていく示唆を得ることとした。

また、ツーリズムについても検討しておく必要がある。日本観光協会の定義によると、「ヘルスツーリズム」は、「自己の自由裁量時間の中で、日常生活圏を離れて、主として特定地域に滞在し、医科学的な根拠に基づく健康回復・維持・増進につながり、かつ、楽しみの要素がある非日常的な体験を行い、必ず居住地に帰ってくる活動である」とある。果たしてどのような環境が整っていれば、ヘルスツーリズムが提供可能な健康な街(Healthy City)と言えるのだろうか。またどのような要素が含まれていれば効果が見られるのであろうか。毎日の生活の場を離れてリフレッシュすることによる「積極的な休養」の効果は一般的に高いといわれているが、どのようなプログラムがもっとも効果的といえるかについては今後の検討課題である。

(2) 健康医療都市の構成要素

健康医療都市の要件を満たすにはいったいどのような要素が整っていなければならないか。健康医療都市には、急性期から慢性期の医療まで、予防から終末期まで、施設サービスおよび在宅サービスなどが整備され、また乳幼児の医療から高齢者の医療まで、最先端医療から障害者自立支援まで、保健、医療、福祉の連携に基づく各種サービスがまずは充実していることが重要である。さらにそれぞれのサービスの質の高さが求められる。その上で健康増進を含む QOL 向上のための様々な取組やサービス、診療報酬上評価されていないものも含め、病院サービス以外に提供される民間療法や代替療法を含む各サービスや施設設備が整うことが医療都市に健康をプラスするということになる。

健康を保持・増進することは大変重要であるが、一生において全く医療サービスの必要がないとは確約できず、また障害や寝たきりにならないとも言えない。万が一の場合、ニーズが生じた時に適時に最適なサービスを受けることができることが健康医療都市に必要な要素と言える。前橋市は、重粒子がん治療施設をはじめとした最先端医療が整っており、適応症例の場合には、ベスト・プラクティスを享受できる。また、市内には前橋赤十字病院や群馬大学医学部附属病院など大規模急性期病院が充実しており、タイムリーにサービスを受けることができる。このように前橋市の医療環境は充実しており、健康医療都市の要件は満たしていることになる。さらに今後は以下の各種サービスの質が高いか、病病連携、病診連携、かかりつけ医、かかりつけ薬局などの充実によるベスト・プラクティスとなっているかについての検証が必要になる。がん患者の場合、難病患者の場合、認知症患者の場合、交通事故被害者の場合、身体障害者の場合、ひきこもりの場合、などなどあらゆる発達段階およびあらゆる病態に

において医療サービスの質が高か、知的障害者にとってサービスが充実しているか、精神障害者にとって安心できる都市か、寝たきりになっても同様に安心できるか、高齢で 1 人暮らしを余儀なくされても楽しんで生きていけるかなどについても今後は検証していく必要がありエビデンスの構築が必要である。

(3) ウェルネスツーリズムプログラムのバリエーション

次にウェルネスツーリズムが成立するためにはどのようなプログラムが可能であろうか。またどのようなプログラムがより健康増進効果の高いものとなるのであろうか。本年度にはいくつかのプログラムを開発し、試行を行った。しかしながらウェルネスツーリズムのプログラムにはさまざまな切り口があり、今後はそれぞれを組み合わせる実施することによって、それぞれのプログラムがどのような対象にとって効果があるかについて検証していくことが求められている。

まず対象者での分類であるが、さまざまな切り口がある。年齢別(乳幼児・小児、成人、壮年期、高齢者など)、性別(男性、女性)、職業の有無および種類(学生、主婦、パート、営業などの業種、デスクワークか、夜勤の有無などの就業形態など)、

家族構成および居住形態(兄弟の有無、一人暮らしか、両親と同居かなど)、障害の有無(身体、精神、知的他)、各種疾患の有無と程度、社会保障上の分類(生活保護か、年金受給者かなど)など様々である。どのようなウェルネスプログラムがどのような対象者に効果が見られるか今後は検討する必要がある。

ウェルネスツーリズムの根幹をなす考え方としては、様々な働きかけによる「こころ」の快・不快の程度が重要になるということである。その根拠としては、ここ 30 年の生命科学の進歩は目覚しく、物理学、生物学、医学の各分野においても日進月歩であり、とりわけ分子生物学や免疫学、脳科学の分野の研究には目覚しいものがあり、基礎研究の成果が次第に社会に還元されつつある。17 世紀のフランスの哲学者で数学者であるルネ・デカルトが心身二元論(実体二元論)を唱えてから、「こころ」と「からだ」を分離する考え方が主流となり科学が進歩してきたわけであるが、残念ながら近年の研究によりこの肉体や物質といった物理学的実体と、魂や自我、意識といった心的実体を分離する考え方ではうまく説明のつかないようなことが多くなってきており、「こころ」と「からだ」の一体化と関係づけて考えざるを得なくなっている。最近の研究においては脳と免疫系と内分泌系において大量の情報を交換しており、この3つの系(システム)は、実はコミュニケーションを密にとることでヒトの生命を支えていることが証明されてきた。また脳がすべての系(システム)に複合的につながっていることから、「こころ」と「からだ」は別のものではないことが明らかとなってきた。つまりデカルト的考え方ではなく「こころ」と「からだ」とが互いに強い関係性を持っているということになる。

このことより例えば、神経系と免疫系が対話しており互いに影響を及ぼし合っていることから、人生で出くわすストレス因子は自律神経系に影響し、免疫系にも影響を及ぼす、免疫系が弱まれば、人体の防衛力が弱まり、病気にかかりやすくなるし、逆に免疫系が強まれば人体の防衛力が増し、病気から回復し健康を維持できることになる。免疫系の強さは私たちの「こころ」の持ち方や緊張の程度に大きく左右されていることから、心身ともに健康な状態で生活することはとても重要であることになる。

今後は「こころ」の科学研究が一層進むことが予測されているが、改めて確認すると、「こころ」の動きは基本的には脳活動に由来していることは生理学的に見ても妥当であり、脳は全身からのあらゆる入力が必要としおり、その意味では脳の活動は全身活動の反映であること、「こころ」が重要であるということは感情も中心的な役割を果たしていくことになること、また感情の抑制は病気の誘因にもなっていくことなどなど様々な事柄を整理しなおして教育が実践されなければならない。免疫反応を弱める一つの要因は、その人は状況をコントロールしているかどうかにある、また別の要因としてはその人が孤独を感じているかにも影響していることなどを考えると、個々人の様々な背景要因を十分に汲み取って健康増進にあたらなければならないことは自明である。

次に科学技術・学術審議会は、平成 19 年 10 月 18 日に、文部科学大臣から「長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進方策について」諮問を受け、そこから報告書が出されている。報告書によると、『脳は、人間が人間らしく生きるための根幹をなす「心」の基盤であり、その研究は、人文・社会科学と融合した新しい人間の科学を創出し、これまでの科学の枠組みを変える可能性を秘めている科学的意義が高い取組である。また、現在の脳科学研究は、脳の発達障害・老化の制御や、精神・神経疾患の病因解明及び予防・治療法の開発を可能にするとともに、失われた身体機能の回復・補完を可能とする技術開発等をもたらすことから、医療・福祉の向上に最も貢献できる研究分野の一つであるとともに、記憶・学習のメカニズムや脳の感受性期（臨界期）の解明等により、将来的には教育等における活用も期待されるなど、社会的意義も大変高い取組である。』とされており、教育への活用への示唆がなされている。さらに、現代社会における脳科学研究の意義と重要性については、今後脳科学研究が目指すべき方向性として、脳の活動は、哲学、宗教、教育、政治、経済、芸術等、人間の精神活動の所産である様々な文化の生物学的基盤となっていることが広く認識されてきた、脳を理解することは、生命科学的知見に立脚しながら、心を備えた社会的存在として人間を総合的に理解することである、日本人は古来、自然の本質を理解し、自然と人間との調和を重視する行動様式を大切にしてきた。こうした自然と調和して共生する人間観に基づいた文化的伝統を備えつつ、その中に近現代科学技術を巧みに導入するといった我が国の強みを活かし、科学技術と人間

との新しい関わりを形作る先導的な学問として、我が国発のオリジナルな脳科学を展開し、世界をリードする国際連携の枠組みの構築を目指すことが必要である、としている。脳の理解が大きく社会を変え、日本人としての文化も視野に入れ新しい脳科学の構築が必要であるとしている。まさにまもなく大きなパラダイムが起きるといっても過言ではないと思われる。

また、これからは異分野融合による新しい学問領域の創出が必要であるとしており、以下のような方向性が示されている。

これまでの脳科学の学際的・融合的な特徴を踏まえ、心理学、認知科学、行動学による成果を受けて課題を設定し、破壊行動実験、細胞活動記録、イメージングを行うこと等を通して、強化学習や行動制御などの分野では大きな進展が得られつつある。

とりわけ脳科学は、従来、自然科学の対立概念として捉えられることの多かった人文・社会科学とを架橋する役割を果たすことが期待される。

これまで人文・社会科学が研究対象としてきた人格の同一性と自己意識、自由意志と人間存在、道徳判断と感情制御、芸術経験と創造性、文化と社会の多様性など、人間のさまざまな精神活動の基盤を、脳科学の知見を活用することにより、これまでとは異なる観点から人間の理解に資することが期待される。

脳科学の大きな目標のひとつは「人間存在の理解」にあり、その範囲は物質機械としての人間の生物学的メカニズムの解明に留まらず、脳神経系の諸要素にわたる統合作用によって創出される個人としての精神活動や、それら複数の脳の相互作用の所産としての社会現象にまで及ぶ。

哲学、心理学、教育学、社会学、倫理学、法学、経済学、政治学、美学、宗教学などの人文・社会科学と脳科学との異分野連携が進められていくことが期待される。

今後次第に解明されていく脳科学の研究成果と本ウェルネスツーリズムとは非常に関連性が高く今後注目されていくことになると思われる。「こころ」を揺り動かされることにより、さまざまな能力が発揮されていく無限の可能性を秘めている。今後はその部分への科学的検証が必要となることが予測されており、ウェルネスツーリズムもその一役を担うことは間違いないと思われる。

(4) 組み込むことが可能なサービスの切り口

具体的にプログラムに組み込むことが可能なサービスの切り口としては以下のようなものがある。

動物介在による効果

花のもつ効果

自然のもつ効果(山、空気、樹木他)

温泉利用による効果

食事の工夫による効果

運動による効果

ボランティアや信頼できる人の存在の有無による効果

快適な安眠の場の確保による効果

音楽の効果

笑いの効果

絵画などの効果

ここで確認していただきたいのは、 の人の存在を除くと、必ずしも言語(言葉)ではないアプローチが多いということになる。現代の生活においては、残念ながら学校や職場における「いじめ」の多くは言葉の暴力が最近では散見される。耳から言葉の情報が脳に送られ、その言葉を解釈することにより、ストレスを感じたり、疲れたり、やる気がなくなったり、その結果、過労自殺や引きこもりなどの結果を招いているケースがある。また一つ一つではなく、様々な組み合わせにより、「こころ」によりプラスの情報が全身から脳に送られ、効果が高まることが期待される。ここに「ツーリズム」の強さがあり、必要性を見出すことができるのである。

今年度はいくつかについては検討を始めたが、引き続きそれぞれの効果を検証すべく、さまざまな組み合わせを工夫しながらプログラムを開発し、検証を続ける必要がある。さらに、将来的には現代医学ではこれまで得意としなかった各分野への働きかけや挑戦を行うことも可能となろう。

4. 重粒子線照射施設を中核とした地域再生

(1) 地域再生への視点

本節の目的は、集客の落ち込みによる業績悪化の中で、魅力向上のための追加投資が遅れ、値下げ競争に巻き込まれるという悪循環に陥ってしまった前橋周辺地域の観光セクターとそれらを支援する産業界・自治体・大学に対し、群馬大学重粒子照射施設を中核とした地域再生プランを提案することにある。ただここで提案するのは、単に観光セクターのみを立ち直らせるためのプランではない。長期化した不況や東アジアとの熾烈なコスト競争で衰退傾向の著しい群馬経済全体が、かつての繁栄を取り戻すための大掛かりなシナリオである。これだけの疲弊を極めている観光セクターは、地域経済全体の、すなわち非観光セクターの発展という後ろ盾なしに復活を果たすことはほとんど不可能な状況である。一方において、産業集積の推進にせよ中心商店街の活性化にせよ、非観光セクターの飛躍的発展には観光セクターの活力は欠かせない条件となる。この観光セクターと非観光セクターとの間に生ずるスパイラル効果(波及効果)の有効性をどのように高めるかが、本節で最も重視される視点である。また、こうした大きな流れの中で、本プロジェクトが実は最も重要な第1ステージの施策として位置付けられることも明らかにする。

(2) 前橋周辺地域の観光セクターの現状と問題点

国内の観光市場は、限定されたパイを各地域が奪い合う熾烈なゼロサムゲームの様相を呈している。パイの大きさから考えて、国内市場を主要ターゲットとする限りは、今後どんな効果的な観光振興策、地域活性化策を打ち出したとしても、観光セクターが群馬経済をリードしていくような状況になりえないことは明らかなだ。一方において、海外市場をターゲットとすれば、対象となるパイは少なくとも十数倍に膨らむことになる。前橋周辺地域のように、変化に富んだ自然環境、豊富な温泉、さまざまな歴史・文化・産業遺産等に加え、東京から100～150km圏という圧倒的な地理的優位性を保持している地域が、海外市場からの旅行者の獲得に力を入れないことは、「宝の持ち腐れ」に等しい。

とは言うものの、潜在的な市場規模が大きいということと、この地域がその恩恵に預かれるということとはまったく別の問題だ。魅力的な市場であればあるほど、国内外のさまざまな地域も同じようにその獲得に乗り出すため、競争はかえって激化する。

そこでまずは、前橋周辺地域あるいは前橋周辺地域の観光セクターを取り巻く環境や観光戦略を客観的に整理することによって、この地域がライバル地域との競争の中で、海外からの観光客誘致を大規模に進めることができるか否かについて分析してみ

よう。

(a) 団体集客モデルの終焉

かつて前橋周辺地域の観光セクターの収益の柱となっていた従業員慰安旅行や、企業による宴会旅行等の団体を集客するスタイルは終焉を迎え、温泉旅館を中心とした観光業界は新たな収益の柱を求める時代になっている。多くの旅館は個人客を中心とした集客構造への転換を目指しているが、今までと同じサービスやハードでは個人客のニーズを満たすことができず、新たな収益モデルへの移行に苦しんでいる。

(b) レジャー型滞在パターンの多様化

大都市近郊の温泉でのんびりくつろぐというのは、これまで日本人の代表的な休日の過ごし方の1つであったが、最近は都心の高級ホテルでの贅沢を求めた滞在や、ディズニーリゾートで遊ぶことを前提とした浦安のオフィシャルホテルでの滞在など、週末のレジャー型滞在の嗜好も多様化してきている。

(c) 首都圏から 100-150km 圏での温泉間の競争

首都圏の温泉地で最もブランド価値が高いのは箱根である。東京からのアクセスの良さ、箱根周辺に点在する見所、富士山との距離がシナジー効果を発揮し、箱根が首都圏を代表する温泉地となっている。箱根には大衆的な旅館から、1泊5万円もするような高級旅館までバラエティーに富む宿泊施設を抱えており、多様かつ膨大な顧客集客能力を兼ね備えている。箱根以外にも首都圏近郊には、特に神奈川西部・伊豆方面を中心に強力な温泉地が乱立しており、それらの間で熾烈な顧客獲得競争が展開されている。

(d) 韓国・香港等の近くなったアジアの国々との競争

以前は、「安・近・単」として近郊の温泉で安上がりに過ごす人々も多かったが、HIS等格安旅行業者の出現によって、週末の韓国旅行が3万円を切るようなパッケージが用意されるなど、近さと安さを求めた旅行の競争相手として海外旅行も加わってきている。

上記の(a)～(d)のような市場環境、競争環境により、前橋周辺地域の観光セクターは、否が応にも海外にマーケットを求めざるをえない状況に追い込まれている。ところが、そこには次のような問題が横たわっている。

(e) 差別化思考の欠如

外国人観光客にとっては、他の地域と同じことをしているだけでは、わざわざ前橋周辺地域に来る動機は生まれない。前橋でしか体験できない何かがあるからこそ、外国人観光客は前橋を訪問したいと思うのである。日本を訪れる外国人は、何の働き掛けもしない限りは、成田空港から東京に向かい首都東京や首都近郊のテーマパークであるディズニーランドを楽しみ、温泉を楽しむため箱根を訪れ、日本を代表する景色である富士山を見て、古都京都で日本の文化を楽しむという典型的なパターンを選択してしまう。この典型的パターンに変化を与えるためにどのような魅力や仕掛けを用意するのが、いま前橋に問われていると言うべきだろう。

(f) ブランド戦略の不在

企業を中心とした団体旅行減少の穴埋めとして、中国等の外国からの単価の安いツアー客で稼働率を上げようという試みがしばしば行われている。「背に腹はかえられない」というのが正直なところであろうが、客単価が下がり雰囲気が一変することは、これまで作り上げてきたブランドイメージを破壊することを意味する。問題は、「前橋」や「群馬」を今後どのようなブランドに育てていくかの戦略を地域全体として明確に定めることだろう。

(g) 不明瞭なターゲティング戦略

企業がある新製品を市場に投入する際は、どのセグメントを対象にどのようなアプローチをとるのかに関する入念な下準備を行う。観光客全体を均一のものとして捉えていたのでは、魅力的な戦略は構築できない。多額の費用をかけての観光客招致策の失敗事例で最も多いのが、このパターンである。すべての人々からも好まれる八方美人的な観光地を作ろうとしたために、誰にとってもアピール度の薄い中途半端な魅力しか持たなくなってしまうのである。重要なのは、ターゲットとなるセグメントを定めて、その人々が求めているものは何なのかを分析し、それをもとにマーケティング戦略をデザインしていくことである。

(h) 海外来訪者向けインフラの未整備

たとえ海外からの観光客が前橋周辺地域に集まったとしても、外国人を受入可能な一定以上の質を有した宿泊施設が少ないのも、この地域の悩みである。さらに、欧米の人々のニーズに合ったレストラン、展示場、劇場、美術館や、その他エンタテインメント施設も十分に揃っているとは言い難い状況である。また、通訳やガイドをはじめとした外国人と地元の人々とのコミュニケーションや連携活動を促進させるよ

うな人材や機能も未整備である。

以上のように、前橋周辺地域の観光セクターの最大の問題点は、それが目指す方向性、すなわち辿り着くべきゴールが見えていないということである。ゴールが見えないからこそ迷走するのであって、辿り着くべきゴールがはっきりしさえすれば、あとは地域内の各主体が持つ叡智を集め、そのゴールに辿り着くための最良の戦略をデザインすることが可能となる。そうした戦略的思考がまったく欠如している現状においては、前橋が国内外のライバル地域との競争に勝つのはきわめて難しいと言うべきだろう。

(3) 観光セクターと非観光セクターの相互作用

(ア) 海外都市の事例

前橋周辺地域が目指すべき方向性について探るために、外国人観光客が多く集まる海外の都市がどのような特徴を有しているのかを見てみよう。

世界最大の展示場を持つドイツのハノーバーは、「ハノーバーメッセ」に出展する企業や、そのメッセ見学に訪れる企業関係者が落とす外貨収益によって潤っている。また、世界最大のカジノ街である米国のラスベガスは、カジノ以外にもショービジネスの中心地として、そして国際展示会を頻繁に開催することで、全米のみならず海外からビジネスマン・外国人観光客を集めている。そして、アジアの金融の中心である香港・シンガポールも、その金融機能売りにより多くの外国人ビジネスマンが訪れている。さらに、フランスのカンヌは、人口がたった7万人の小さな街であるが、毎年250万人が訪れ、そのうち40万人がビジネス関係者である。カンヌ国際映画祭が有名であるが、それ以外にも国際的な見本市が開催されている。

これらの都市の共通点は、外国からの一般観光客に対する絶大な集客力を有する以外に、多くの外国人ビジネスマンや経営トップの心を惹き付けているところにある。これらの都市で実際に多くの収益をもたらすのはビジネス関係者であり、彼らをターゲットとすることで街の整備が進み、ビジネスマンをもてなす方法として、観光産業やエンタテインメント産業等の観光セクターが発達して、さらにビジネス関係者や一般観光客も集まってくるというメカニズムが生み出されている。また、海外からのビジネスマンや経営トップを主たるターゲットとしてこうしたメカニズムが動いているため、都市のブランド価値も高水準に維持されやすい。もちろんその過程においては、カンヌが擁するアルプスと地中海のパノラマに代表されるように、その地域が元来有している観光資源も、海外からの来訪者たちを魅了させる重要な武器として機能していることは言うまでもない。このように非観光セクターの発展が観光セクターの成長を生み出し、それがさらなる非観光セクターの発展に寄与するという理想

的なスパイラル効果が作用することで、海外からの来訪者の継続的な獲得に成功しているのが、これらの都市の共通の特徴と考えられる。

(イ) 国際的な磁場を生み出す

前橋周辺地域の観光セクターが本格的な復活と成長を目指すのならば、上記のような非観光セクターとの間に有効な相互作用が生み出されるようなメカニズムをデザインする道を選択すべきだろう。圧倒的な競争力を持った観光資源を抱えているのならば、観光セクターだけの成長を目指すことも可能であろうが、前述の(a)～(d)の通り、前橋周辺地域の場合は必ずしもそうした恵まれた状況にあるとは言えず、かつ観光セクターが疲弊して自力で変革を試みるだけのエネルギーを失っていることから、非観光セクター、すなわち他の産業分野の支援なしに復活を遂げることはきわめて難しい。特に、(h)のように海外からの来訪者向けの各インフラを今後整備しなければならないというこの地域の事情を考えれば、どうしても非観光セクターにおけるブレイクスルーを起点としたスパイラルの起動が求められるのである。また、海外のビジネスマンや経営トップへのターゲティングは、比較的その嗜好やニーズを捉えやすく、かつ現在危惧されている東アジアの団体観光客誘致による地域のブランド低下をも回避できることから、前橋にとっては最も望ましい方法であると言える。

非観光セクターを起点として、ひとたびビジネス関係者や観光客が前橋周辺地域を訪れ始めると、それがスパイラルへと転ずる可能性は十分に存在している。何らかの目的で前橋周辺地域に訪れた人々に、恵まれた自然環境や住み心地の良さを認知させ、それを将来の居住や企業立地につなげるという副次的効果が期待できるからである。前橋周辺地域は、東京という世界有数の人材供給基地、製品マーケットを近隣に有しており、さらに自然環境や住み心地の点でも優れているとなれば、進出場所を探索する企業にとってはきわめて魅力的な地域として位置づけられるはずである。しかし、いくら進出企業にとって魅力的な条件が整っていようと、まずはそうした事実が海外の企業や人々に認知されないことには、まったく効力を発揮しない。したがって、前橋周辺地域は非観光セクターを起点とした来訪者の増大策により、観光セクターを活性化させるとともに、さらにそれをきっかけとして外国企業が外国のビジネス関係者の誘致を図っていくというのが、望ましいシナリオとなるのである。

産業集積は一定規模を超えると、磁場の作用(求心力)が急速に強まってくる。優良企業や優秀な人材が集中することにより、事業展開上の優位性が他地域に比べて向上するだけでなく、税収増による行政サービスの質的向上や社会インフラ

の整備、さらには集積した企業や人々のニーズに誘発された観光セクターの各種施設や文化・教育施設等の充実が進展することを通じて、企業や人材のさらなる集積を促すこととなるからである。

特に国際的レベルでの集積の場合には、企業間の情報的相互作用の密度やビジネス環境や生活環境の充実度がよりいっそう重視されることから、企業や人材はごく限られた地域のみにも極端な集中傾向を示すこととなり、その地域には巨大な磁場が生み出されることとなる。一旦形成された磁場の持続性はきわめて高くなるが、逆に一度近隣に磁場ができてしまうと、そこへの吸引力に抗し、自らの地域にその力を上回る磁場を作り上げるのはきわめて難しい。したがって、前橋はすでに磁場が形成されつつある東アジア各都市の動向を意識しつつ、前橋周辺地域ならではの独自性を有した新しい国際的磁場を一気に作り上げなければならないのである。

(4) 持続的な競争優位の源泉

() 競争優位を実現するための最低条件

海外から企業や企業関係者を呼び込む上で、まず何よりも最初に手をつけなければならないのが、ビジネス・インフラの整備である。ビジネス・インフラの整備が直接競争優位に結びつくことはほとんどありえないが、他地域との国際競争のスタートラインに付くための最低条件と言うべき存在である。

前橋が競争優位を築くためにも、上記のような進出場所の安価な提供や基本インフラの整備のほか、全ホテル・旅館のブロードバンド化の義務づけや外国人を意識した街づくり(たとえば英語表記の徹底)を行うことは、是非とも必要とされる。

また、海外企業が前橋周辺地域への進出を検討する際、最も重視されることの1つが、前橋が家族と一緒に快適に住める街かどうかである。基本的に単身赴任を嫌う欧米の人々にとっては、居住、教育、医療、福祉、レジャー等の面での環境整備は、立地や赴任を決める際の必要最低限の条件と言っても良い。重要なのは、日本人にとってはそれが整備されていたとしても、言語や文化を異にする外国の人々にとっては、まったく状況は異なってくるということである。さらに、多国籍の人々が共存するとなれば、人々間のコミュニケーションや相互理解を円滑に図っていくための仕組みや工夫が大切となるのである。

具体的には、教育面ではインターナショナル・スクールや日本語教育センターの創設は、何よりも先に取り組まなければならない課題となってくるだろう。また、外国人相互間、ならびに外国人と地元の人々とのコミュニケーションや連携活動を促進させるような「多文化共生マネジャー」的人材の養成も急務となる。医療サービスにおいても、言語や文化の障壁を取り払う工夫が要求される。また、欧米のライフスタ

イルに合わせたレジャー・スポーツ施設や社交の場の提供も考慮されなければならない⁵⁾。むろん、こうした生活環境面のインフラ整備は、計画当初からすべてを整備するのは難しく、外国企業や外国人の集積の進展とともにそれがビジネスチャンスとして認識され、民間企業の手によって整備が進むという側面も持ち合わせている。

こうした前橋への来訪者に対するインフラ整備と同時に、前橋にやってくる外国企業や外国人に関する情報の収集ルートを整備する必要がある。現時点においては、外国からの観光客誘致を叫びながら、外国人に関するデータがまったく集まっていない。これでは効果的な国際観光戦略を構築することはほとんど不可能とすべきである。前橋周辺地域においては、各ホテル・旅館のネットワーク化と情報のデータベース化を徹底することにより、前橋周辺地域に訪れる観光客に関する正確なデータ分析ができる仕組みを構築し、勘や経験のみでなく、事実に基づいた客観的な分析によって戦略策定が可能な仕組み(インフラ)を構築すべきである。

()前橋の持つ競争優位

最も重要なテーマが、前橋が持続的な競争優位を確立するためには、どのような差別化要素を前面に掲げていけば良いかであるが、まずはこれまでも前橋周辺地域の競争優位と言われてきた要素を列挙してみよう。

大自然に囲まれた温泉

これだけ近くにさまざまなタイプの温泉が集まっている場所は少なく、温泉間の有機的なネットワークによって、群馬全体の価値向上が可能になる。

首都圏からのアクセス

高速道路、新幹線と首都圏からのアクセスは確保されている。そのアクセスの良さは人と惹き付ける重要な要素である。

基礎収益力を持つ産業の存在

観光産業以外にも、独自の技術を持つ企業が多く存在し、特に自動車部品産業の集積地となっている。

地元と密着した大学(研究機関)の存在

群馬大学、前橋工科大学、県立県民健康科学大学などが、地元と密着した研究活動を行っており、地元企業との共同研究・受託研究等を積極的に推進している。

世界的レベルの高度先端医療

群馬大学医学部の高度先端医療技術には世界的に通用するものが多く、特にがんを切らずに治療することが可能になる「小型重粒子線照射施設」が日

本で初めて導入された。

以上のような競争優位をもたらす要素の中で、他地域との圧倒的な差別化が可能で、かつそれがある程度の長期にわたって持続する可能性がある要素としては、日本では初めて、世界では 2 機目の導入となった の小型重粒子線照射施設が最も有力だろう。

世界的にみて、医療を核とした地域づくり(メディカル・コリドー化)はスタートアップの段階では、資金面・技術面等のさまざまな困難性が伴うものの、そこをクリアすると、飛躍的な地域経済の成長が実現されるケースが多い。軌道に乗せるのはきわめて難しいが、いったん軌道に乗りさえすれば成功確率が高い方法とも言える。一般的な地域づくりは、どこでもできるが、成功した事例が皆無に近いのとは好対照である。

ここで提案する「メディカル・コリドー」は、重粒子線照射施設を中核として形成される街に、国内外からの医療関連施設を集めるために、規制を緩和し、税率を下げる等の優遇税制を打ち出すことで、より多くの医療関係施設の集積を実現するものである。その集積が進めば、先端医療を求める人が集まり、人が集まれば雇用が生まれ、消費も生まれ、そして研究機関も集まってくるであろう。これがまさにスパイラル戦略である。

(5) 重粒子線照射施設を中心としたメディカル・コリドー

() 期待される経済効果

重粒子線照射施設が地域にもたらす経済効果は、他の医療施設と同様、次の3種類の効果によって構成される。

本体経済効果

施設の建設に伴う工事代金、医師・医学物理士・放射線技師・看護師等の医療スタッフへの人件費、加速器オペレータ・工作技術者・施設管理員等の技術・事務スタッフへの人件費、治療器具の製作・加工費、施設の維持管理費(建物・装置の保守・整備、植木の手入れ、施設の清掃等)、水道光熱費などによってもたらされる経済効果である。

間接経済効果

患者ならびに患者の家族の消費支出、見舞い客の消費支出、医療・自治体関係訪問者の消費支出、国際学会ならびに全国規模のコンベンションの開催費用などによってもたらされる経済効果である。

地域創造経済効果

施設が中核となった地域づくりによって、新たに創業あるいは集積した企業・施

設等の建設・運営に伴う投資や需要によってもたらされる経済効果である。

本体経済効果と間接経済効果は、当施設を開設すればほぼ確実に得られる経済効果であるのに対し、地域創造経済効果は、今後産業界、自治体、大学が地域づくりにどう取り組むかに大きく依存してくる経済効果である。重粒子線施設がいくら内外の注目度が高い施設だとしても、本体経済効果と間接経済効果だけを享受するのみでは、前橋周辺地域の産業構造や経済構造を革新的に変化させることは不可能である。現時点のままだと、この状況に陥る危険性も多分に有している。群馬の産官学は、重粒子線照射施設に単なる治療施設としての効用だけを期待するのではなく、この施設を地域づくりの中核として有効に活用しなければならないのである。

()単なる医療施設から地域づくりの起爆剤へ

重粒子線照射施設を最大限活用するためには、次のような3つのステージを段階的に追求していくことが望ましいだろう。

第1ステージは、永らく人類の悲願であった「がん克服を実現した地」という、非常にシンボリックなイメージを社会に浸透させることにより、「医療都市」「高度医療地域」としての前橋の強力なブランド価値を作り上げる段階である。当施設の完成当初は、現在がまさにそうであるように、多くのマスコミから注目されることになるが、それと同じくらい社会的な影響力が大きいと思われるのが、実際に治療に訪れる患者や家族、さらには視察や会議で頻繁に訪れる医療関係者等を介したコミュニケーション効果(PＲ効果)である。彼らが前橋で感じ取った高度医療地域を志向した熱意やメッセージは、瞬く間に日本中・世界中に伝播するだろう。前橋周辺地域は当施設の建設と並行して、以下のような「医療を中心軸とした地域づくり」に向けた施策を実行に移す必要があると思われる。本プロジェクトが、まさにこのステージをクリアする重要な役割を担っていることが明らかとなるだろう。

地元医師会との連携による総合的医療サービス体制の構築

がん患者を含む長期療養者および家族への宿泊施設もしくは短期賃貸住宅の紹介サービス、滞在費ならびに生活費の優遇措置

温泉地・観光地、スポーツ・健康関連施設等と連携した長期療養サービス、週末リラクゼーションプログラム

医療・研究機関、商業地(繁華街)、宿泊施設、温泉地、駅等を自由に行き来できる医療バスの開設

長期療養者の集積を前提とした各種(特にがん関連の)医療機関・研究機関・医療関連企業の誘致(特に外国企業)、そのための優遇税制・金融支援

すべての小中学校における「医療地域貢献プログラム」の導入
地域内の医療関連企業や医療・研究機関を投資対象とした医療ファンドの設
立
医療都市化をより効果的に推進するための「特区」設立、医療都市宣言

第2のステージは、集積した医療関係者や外国人の生活ニーズを満たすために誘発されて観光施設、エンタテインメント施設、文化施設、その他各種社会インフラの充実が図られる段階である。人々は経済的な効用をある程度満たすことができると、次に文化的な効用を充足することを望む。特に医療関係者(医師・研究者等)や外国企業の社員は、ハイグレードな生活環境や文化環境を志向するニーズが強いことから、美術館、博物館、コンサートホール、劇場、ビジネス図書館、高機能マンション、教育施設(受験校、インターナショナル・スクール、保育施設等)、ホテル、会議場、レストラン、ファッション・デザイン関連ビジネス等のハード・ソフト両面の充実が、地域の発展のために必要不可欠なものとなるだろう。これらの大部分は、ある程度の集積が実現されれば、自然とそのビジネスチャンスが認知されて、民間企業の手によって整備が進むものであるが、一部に関しては、自治体や大学の政策的意図に基づくサポートが必要となるものも存在する。

いずれにせよ、過去に飛躍的な発展を経験した都市の歴史を見れば、経済はそれ自身の維持拡大のために観光・エンタテインメント・文化等を必要とし、それらも経済に貢献することによって資金や人材の基盤が広がることは明らかである。前橋が、単なる医療関連集積地からより魅力ある国際都市へと脱皮するためには、観光セクターと非観光セクターとのスパイラル効果の実現を目指すこの第2ステージをうまくクリアできるかどうかにかかっている。

そのような努力の帰結として到達できるのが第3ステージである。医療関連分野の企業や人材の集積、そして整備された文化施設や社会インフラが強烈な吸引力を発揮して、必ずしも医療とは関わりのない企業や人々を地域内に呼び込む段階である。一定規模以上に優良企業や高所得者が集積し、かつ教育レベルや文化レベルの高い地域が出来上がると、そうした評判からさらに企業や人材の流入(日本、海外にかかわらず)が加速するが、一方において地方税収入の増加による自治体財政基盤の強化によって行政サービスの質的向上がもたらされることから、それが再び優良企業や有能な人材の集積につながるというように、プラス方向のスパイラル効果が創出される。こうして、ヒト、モノ、カネ、情報が集中する強力な磁場が群馬の地に形成されるのである。このステージになると、地域は自律的に動いていくこととなるが、あとは高度な集積が発生させる弊害を取り除き、地域の意欲や秩

序がうまく保たれるような仕組みの調整を図っていくのが、自治体や大学の役目となるだろう。

()地域創造経済効果の概要

前節で掲げた施策が順調に進むことを前提とした場合、次のような地域創造経済効果が期待できる。

第1ステージにおいて期待されるのは、長期療養者の医療費ならびに生活費、旅館・ホテル・スポーツ施設・健康関連施設等と連携した長期療養サービスや週末リラクゼーションプログラムへの支出額、誘致された医療機関・研究機関・医療関連企業による需要額、転居してきた世帯による消費支出額などによってもたらされる経済効果である。

第2ステージにおいて期待されるのは、文化施設ならびに教育施設の建設費、高機能マンションの建設費・販売関連費用、新たに建設・創業・事業拡大が行われた文化・教育関連施設・企業等による需要などによってもたらされる経済効果である。

第3ステージにおいて期待されるのは、新たに県内に移転してきた企業の需要額、新たに県内に転居してきた世帯による消費支出額、前橋のブランド価値向上に伴う土地評価額の上昇額などによってもたらされる経済効果である。

もちろん、以上のような大きなシナリオを実現させるのは、5～10年程度のタイムスパンを必要とするのは言うまでもない。ただ、そういったシナリオの下に一步を踏み出すのと、とりあえず一步踏み出してみるのとでは、地域再生プレーヤーのモチベーションの大きさも、障害に突き当たった際の対応も、環境変化を鋭敏に捉える感覚も、他地域の人々が前橋を見る目も、まったく異なったものとなる。前橋はついに地域の力を結集しながら独力で、第1ステージのクリアに向けて動き始めたのである。

5. いきいきまちの駅を「市民の学校」に

本年度のプロジェクトの検証において、最も期待外れだったのが、いきいきまちの駅「スマイル」の認知度や利用率の低さや、満足度が必ずしも高くなかったことである。「スマイル」は、病院や医療機関との連携を深め、市民が健康をいつでも享受できるよう、健康増進や疾病治療の情報発信、さらにはメンタルヘルスケアや育児・介護の相談、年金や老後の生活の相談といった生活に密着した相談窓口とすることで、中心市街地を「心の拠り所」とするためのシンボリックな存在であるから、現時点の評価はともこのまま放置できるものではない。プロモーションが行き届かなかったこともあるが、来場者のアンケート結果を見ると、原因はそれだけではないことは明らかである。

本節では、この「いきいきまちの駅」をどのようにバージョンアップすれば、人々への訴求効果を高め、市民の心の拠り所となれるのかを検討する。

(1) 昔の学校を基本コンセプトとしたまちの駅

まず、「いきいきまちの駅」が果たすべき機能に関して整理すると次のようになる。

各種講座や健康チェックを通じての健康プログラムの提供

ウェルネスツーリズムや重粒子のPR

まちなかキャンパスの教室

さまざまな情報発信や情報交流による市街地の回遊性の創出

別な角度から捉えれば、「いきいきまちの駅」は、

() 「健康増進」の場として

() 「教育・文化」の場として

() 「コミュニケーション」の場として

期待されていることになる。

こうした点以外に、「いきいきまちの駅」は、地域内の人々も、地域外の人々も、そして老若男女、「誰もが思わず立ち寄りたくなる」場所であり、「しばらく行かないと我慢できなくなる」場所でなければならない。

以上のような「いきいきまちの駅」が果たすべき条件の下に、群馬大学社会情報学部の9名が1ヶ月にわたってヒアリング調査やグループインタビューを行い、最終結論として行き着いたのが、「いきいきまちの駅を昔の学校を基本コンセプトとした空間にすべし」とする提案である。

このまちの駅では、建物、内装、設備、雰囲気、食事、土産物、イベントなど、あらゆる

るものを「昔の学校」をイメージさせるものにこだわってデザインする。建物は当然、小規模ながらも学校の校舎をかたどった木造の建物である（中心市街地のいずれかの建物のリニューアルあるいは新築を前提としている）。入口には学校の正門があり、玄関もまさに学校の雰囲気が満ち溢れている。壁には校訓や校長先生の写真が掲げられており、懐かしい下駄箱もみられる。教室の引き戸には学級札が掲げられ、音楽室にはオルガンがあり、理科室には骸骨の模型が……。健康チェックや健康相談が行われるのは保健室で、教室ではかつての懐かしい給食を賞味することができる。玄関脇にある購買部が土産物等を扱う売店となっている。このように「すべてが昔の学校そのもの」を追求することによって、来場者を異次元空間に引き込み、それぞれの年代ごとに別な訴求効果を醸し出すことを狙うのである。

（２）なぜ「昔の学校」なのか？

学生たちが「昔の学校」という基本コンセプトを生み出したのは、以下の５つの理由からである。

まずは、そのインパクトの大きさからである。さまざまな選択肢の中から、市民に対しても旅行者に対しても、最もインパクトが大きいのは「昔の学校の校舎」であるとの結論に到達したようである。

インパクトだけでなく、昔の学校には誰もが親しみを覚えるからというのが、第２の理由である。中高年層だけでなく、若年層にとっても、「学校」というのは、もしくは「学校に通っていた時代」というのは、何となく戻りたくなる空間のようである。また、「昔の学校はこんな感じだったんだ」という話から、世代間のコミュニケーションも生まれやすいコンセプトだという。

上記に掲げた「健康増進」の場、「教育・文化」の場、「コミュニケーション」の場という３つの条件をすべて満たすのが学校であるというのが、第３の理由である。確かに学校というのは、昔からこの３つの条件をピッタリ合致した場であったと思われる。

昔の学校は、前橋の中心市街地のイメージとも整合性を有するというのが、第４の理由である。歴史・文化に満ち溢れた前橋の中心市街地に最も似つかわしい建物、まちづくりを象徴する建物としても最も相応しいのが学校だということである。最後の理由が、「昔の学校」という基本コンセプトを定めることによって、アイデアや連想がさまざまな方向に次々と拡大しやすくなり、市民も旅行者も楽しみながらまちづくりに参画できる点である。確かに、これによって、目玉商品や注目料理も開発しやすくなる。学校に付き物なのは給食。揚げパンやソフト麺が代表的メニューであるが、懐かしい給食メニューというところから思い出が膨らむはずである。

売店で扱う商品も、昔流行ったそれぞれの年代ごとの懐かしい玩具、このまちの駅独自のオリジナル文房具、駄菓子、昔懐かしい飲み物と、学校からの連想はさまざまな方向へと拡大しやすいのである。

(3) マーケティング戦略

「昔の学校を基本コンセプトとしたまちの駅」は、全国的にも類似の施設が比較的に少ないため、当初は注目されやすく、地元の人々にとっても、旅行者にとっても、「誰もが思わず立ち寄りたくなる」場所にはなりやすい。問題は、一度立ち寄ってくれた人々を、いかにリピーターとして囲い込むことができるか、すなわち「しばらく行かないと我慢できなくなる」場所となれるかどうかである。これに関しては、次のような学校にちなんださまざまなプロモーション手法が提案されている。

子供たちが絵を描くスペースを設け、その作品を壁に貼ることにより、愛着を持ってもらう(また行ってみようという気になりやすい)。

絵、工作、習字、作文等に関するコンクールを定期的を開催する。

出席簿や皆勤賞等活用したリピーター獲得策を考える。

広い世代が楽しめるイベントとしては、節分、ひな祭り、端午の節句、七夕、お月見等の、季節の風物詩にちなんだイベントを開催する。

など、学校というコンセプトを掲げることにより、必ずしも斬新なイベントではなく、懐かしさを醸し出すようなイベントの方が有効に機能しそうである。

ここでの提案は、あくまでも1つの例であるという捉え方も可能である。重要なのは、訴求性の高いコンセプトで「いきいきまちの駅」をバージョンアップさせることにより、「プロジェクトの中枢基地」「市民の心の拠り所」としての機能を持たせようということである。

6. プロジェクトの推進体制

(1) 課題を解決する仕組み

この章の1節で挙げた本プロジェクトの課題のうち、本節で検討すべきは、
地域再生プレーヤーにプロジェクトの成功に向けた高いモチベーションを持たせ、
彼らによって結成される組織に一体性を有した活動を展開できるようにすること
補助金に依存せずに地域再生が行える仕組みを作ること
実験的経営思考に基づいた取組ができる仕組みを作ること
の3つの課題である。

まず、の地域再生プレーヤーにプロジェクトの成功に向けた高いモチベーションを持たせ、彼らによって結成される組織に一体性を有した活動を展開できるようにするためには、プレーヤー相互が地域再生プロジェクトに関するリスクとリターンを共有できるような仕組みを構築することが不可欠となるだろう。

前述の通り、地域再生プレーヤーのモチベーションが高まりにくいのは、個々のプレーヤーが、本来の組織目的や行動目的の追求のために地域再生にあまり力を入れる余裕がなく、かつそこからのメリットも強く感じられにくいからであった。また、地域ネットワークの運営が一体性や組織性を持ちにくいのは、明確な権限・責任体系、共同体意識、情報共有という、通常の組織には備わっている条件が存在しないことが原因と考えられた。

こうした状況を回避するためには、地域再生に関わるすべてのプレーヤーにインセンティブを提供するとともに、彼らの利害を一致させることにより運命共同体を構築するのが有効な手段となりうる。すなわち、プロジェクトがうまく成功すれば、そこから得られるリターンは自分たちのものになるのに対し、うまく運ばなかった場合のリスクもすべてのメンバーが負担せざるを得ない仕組みの構築である。こうすることによって、事業運営の成果をより高めようとするモチベーションが確保されるとともに、メンバー間の信頼関係も保持されるのである。

また、成功へのインセンティブが、合理的な意思決定を目指す志向を強化することによって、情報共有や明確な権限・責任体系の必要性の認識も高まり、それらは自然と整備されていくことになるだろう。こうして、モチベーションの欠如や活動の一体性・組織性の欠如をもたらしていた要因をすべてクリアすることが可能となるのである。

また、の国・自治体等からの予算配分や補助金に依存しなければならない状況から脱却するためには、地域再生に関する事業リスクを負担可能で、今後事業規模が大きくなった際の資金需要にも応えられる財務基盤や信用力を有する仕組みが必要となる。これまで下降線を辿ってきた地域経済のトレンドを上向きに反発させようと

するならば、それなりの大掛かりな取り組みが必要となることは明らかで、そのためにはしっかりした財務基盤やリスク負担能力が求められるのは当然と言える。

地域再生と言えば、従来は官の守備範囲であったことから、この分野に民間のリスク資本を取り込むのは必ずしも容易ではないが、とはいえ財政再建が急務の自治体に必要資金をすべて負担させるのが不可能に近いことも想像に難くない。深刻な自治体の財政危機に直面している地方に今求められているのは、税のみに頼らない地域再生をいかにして実現するかなのである。

税のみに頼らない資金調達とは、これまでの自治体頼み、補助金頼みの資金調達から、広い意味での資本市場(マーケット)からの資金調達に軸足を移していくということの意味する。幾多の例が示す通り、マーケットは、確かに冷酷きわまりない存在だ。しかし一方において、マーケットは、その論理に従うものに対しては、この上なく寛容かつ協力的である。その時点で分配できる富を持たなくとも、将来獲得されるであろう富を頼りに、資金を供給してくれる。それがその組織が持ち合わせている資産額の数千倍、数万倍に相当する金額だったとしてもである。マーケットを味方につけた地域再生こそ、地方が繁栄を築くために、わずかに残された道の一つとして位置づけられるだろう。

むろん、自治体からの支援や国からの補助金を完全に拒む必要はない。それに依存するばかりに、収益性向上への意欲や努力を失いさえしなければ、それらも有効に活用するのが最良の方法である。イニシャルコストや助走段階のコストは公的な資金に依存しつつ、その後押しを受けて独り立ちを実現するのが最も望ましいシナリオと言えるかも知れない。このように民間の資本も公的な資金も、時と場合に応じて柔軟に使い分けることができる仕組みが求められるのである。

の「実験的経営思考」によるプロジェクト遂行を可能にするためには、それを実現できるだけの資金規模と、結果的にうまくいかなかった取組を切り捨てられる仕組みを用意しなければならない。

これらの条件を満たす仕組みとして必要不可欠なのが、以下の地域再生持株会社方式である。

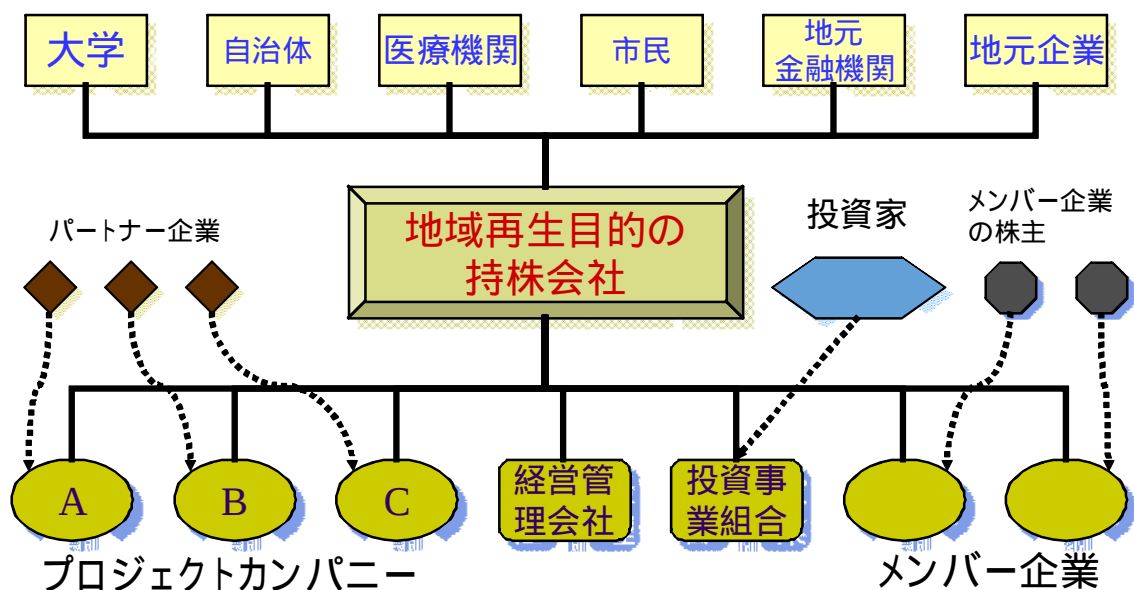
(2) 地域再生持株会社方式の概要と必要性

ここでの地域再生持株会社とは、地域再生プロジェクトを運営する組織を、地元企業、地域住民、自治体、医療機関、経済団体、地域金融機関、地元大学等のあらゆる地域再生プレーヤーの出資によって設立される地域再生を目的とした持株会社である。この持株会社は、次のような業務を遂行することになる。

a. 収益性と公共性のバランスを重視しながら、地域再生に関する総合的な戦略を

策定するとともに、地域再生プロジェクト全体を統括する。

- b. これまでは自治体や商工会議所が手掛けてきた(それぞれの予算で賄ってきた)地域再生事業の一部もしくは大部分を、傘下のプロジェクトカンパニーとして運営する。プロジェクトカンパニーは、100%子会社として、あるいは各事業に要求される専門性を有したパートナー企業との共同出資によって設立する。
- c. 地域再生に関連する既存の中小企業を株式交換によって傘下に編入し、プロジェクトカンパニーと同様、総合的な地域再生戦略に沿っての運営を図る。また、傘下のグループ企業間のコーポレート・アライアンスを積極的に推進する。
- d. グループ全体の価値創造に努めるとともに、条件や環境が整えば株式公開を目指すことになる。



こうした地域再生持株会社方式を用いることが、上記の課題の克服につながるのかどうかをチェックしてみよう。

第1に、地域再生プロジェクトの運営組織が、権利・義務関係が不明確で脱退も容易な委員会や協議会といった共同体組織ではなく、また利益分配を前提とせずリスク負担という概念も存在しにくいNPOでなく、利益の分配方法や意思決定手続きが明確に規定される株式会社として設立されることで、リスクとリターンの共有が実現することは明らかである。これにより、地域再生プレーヤーにプロジェクトの成功に向けた高いモチベーションが生まれ、一体性と組織性を有した活動が行えるようになる。また、出資を通じて、なるべく広い範囲の地元企業や地域住民を地域再生プロジェクトに心理的にコミットさせることによって、地域全体が一丸となった地域再生を推進すること

が可能となる(地域再生は通常は、「一部の物好きな人々による活動」という冷めた見方がされやすい)。

第2に、持株会社の傘下にプロジェクトカンパニーをぶら下げるという形態を取ることによって、「成功しそうな施策はとりあえず実行に移してみよう」という「実験的経営思考」を適用しやすくなる。各施策を個別のプロジェクトカンパニーによって実行することにより、施策ごとのパフォーマンスの明確化や透明性が図れるとともに、最終的にうまくいかなかった施策からの撤退も容易になるからである。

第3に、この方式によれば、地域内からの出資と内部留保だけでなく、状況によっては外部の投資家(マーケット)からの資金調達も可能となり、地域再生に関する事業リスクの負担能力を高め、今後事業規模が大きくなった際の資金需要にも応えられる財務基盤の強化を行いやすくなる。自治体も株主に加わるため(必須条件ではないが)、それをバックにした信用力や公共性も1つの強みとして活用しうるほか、イニシャルコストや助走段階のコストに関しては公的な資金に依存するなど、それぞれの状況に最も適した資金調達方法を柔軟に駆使することが可能となる。

以上のように、地域再生持株会社方式の導入によって、本プロジェクトの持続的な発展の障害となりそうな諸課題をかなりの程度排除することが可能となるのである。

(3) 各地域再生プレーヤーにとってのメリット

地域再生持株会社方式の導入は、本プロジェクトが本格的な事業化を目指すにあたっての課題の克服につながるという意味での有効性以外に、地域や各地域再生プレーヤーにさまざまなメリットをもたらす存在である。

まず、出資というリスク負担が伴う地域再生持株会社方式は、以前から地域再生に中心的に取り組んできたメンバーを、本当に真剣に取り組む気があるメンバーと、単なる地域的なお付き合いとして考えているメンバーを識別する「踏み絵」の機能を有している。地域再生プロジェクトの遂行にあたって最も迷惑な存在は、口だけで調子の良いことを仄めかしながらも実際にはそれにまったく関与する気のないリスクを負うつもりのない者である。彼らが事業に関わっているうちは、その無責任な発言に事業の方向性は攪乱され望ましい成果が得られない。「本当に地域再生に参画するつもりのある人々や組織」を抽出することは、何よりも重要なプロセスなのである。

これまで地域再生に主役として関わってきた自治体にとってのメリットは何よりも、税、地方債という従来からの歳入によらずして、正確にはそれらへの依存が軽減された形での地域再生が可能となるという点である。危機的な財政状況に陥っている多くの自治体にとって、地域再生のための新たな資本調達ルートが創設されることは、自治体の財政の健全性を高めるだけでなく、地域間競争の視点でも強力な競争優位性を確

保したことを意味するのである。ましてや、確率はかなり低くなるのもの、幸いにも株式公開によって自治体の地域再生持株会社に対する株主持分が創業者利得を生み出すとなれば、さらに自治体財政への寄与は大きくなると言える。

市民にとっての最大のメリットは、持株会社への出資が株式公開による創業者利得の獲得につながる可能性であることは言うまでもない。さらに、持株会社の株主になることによって、これまでの地域との関わり方とは別の関わり方が生み出されることも確かである。税負担の場合は、負担の大小にかかわらず、享受できる便益（公的サービス）は原則的に等しく分配されるが、出資の場合は、出資した者のみがその投資額に応じて、配当やキャピタルゲインを獲得する可能性を有するという、新たな費用便益構造が生まれる。これによって、従来は自治体手がけるプロジェクトの妥当性や経済性に無頓着であった市民にも、コスト意識やリスク負担意識が強化されることになる。特に、地域再生施策ごとにプロジェクトカンパニーが設立されれば、必然的に事業ごとの情報開示が進み、これまでは総体の中に埋もれて明らかにならなかった個々の事業の成果やリスクが明確化するから、市民によるチェック機能の充実につながるはずである。市民は選挙という方法で地方自治に関与するのみでなく、地域再生に関しては、コーポレートガバナンスの仕組み（株主総会での意見表明や株式市場での投資行動）を通じた意思表示のチャンネルを得ることになるのである。

地元企業にとってのメリットも、市民と同様、持株会社への出資がキャピタルゲイン可能性を有することであるが、そうした出資を通じて、これまでは本腰を入れるのが難しかった地域再生プロジェクトに、深く関与していくことが可能になることがもう1つのメリットと言える。地域経済の再生は、企業の業績を大きく左右する重要な要因であるものの、これまでは地元企業にとってそれに積極的に取り組もうというインセンティブが得られにくかった。地域再生持株会社への出資によって、そこからの利益配当という短期的なメリットや、株式公開という中長期的な期待が加わることで、地域再生に賭ける中小企業経営者のモチベーションは一気に高まることが予想されるのである。

（４）地域再生持株会社方式導入のプロセス

地域再生持株会社の導入を円滑に進めるためには、最初から広範囲の地域再生プレーヤーの出資を仰ぐのではなく、まずは設立準備会社を創設するところからスタートして、段階的に株主の範囲を拡大させていく必要がある。地域再生プロジェクトの業績が順調に推移した場合には、ベンチャー企業同様、早めに株式を購入した方が発行価格が安いことになるが、地域内の地域再生プロジェクトに対するマインドを持ち上げていくペースと新株発行のタイミングを巧みに調和させていく資本政策がポイントとなる。現在ある地域で進められている地域再生持株会社方式の導入プロセスを例示

すると、以下ようになる。

コアメンバーによる事業計画骨子の策定

キーとなる企業・金融機関、証券会社、有力企業、土地所有者、大学、商店、自治体、監査法人、弁護士等への説明・協力要請

設立準備会社の設立と事業計画策定

個別施策のスタート(プロジェクトカンパニーの先行設立)

地域再生関連の土地、建物、株式(持株会社傘下に編入される企業)等の買付予約

経営チームの選定・依頼

地元市民、企業への第1次株式発行準備

株式発行価格の決定

設立準備会社による第1次株式発行

株主総会開催(定款制定、設立準備会社から正式社名への変更、経営チームの発足)

金融機関からの借入、社債発行

土地、建物、株式等の買付予約履行

プロジェクトカンパニーならびに地域再生関連企業の株式交換

地域再生事業の本格的スタート

地元市民・企業への第2次株式発行準備

(…………… 株式公開)

(5) 地域再生持株会社方式導入にあたっての障害とその解決方法

以上のような地域再生持株会社の導入に際して例外なく生ずるのが、さまざまな拒否反応や地域内でのコンフリクトである。ドラスティックな変革を行おうとする場合、これらの問題の発生を完全に封じることが不可能であるから、むしろそれぞれの問題に粘り強く対応していくことが求められる。

(a) 株式に対する拒否反応

株式絡みのスキームを導入しようとする場合、必ず起こってくるのが、「株式はリスクが高いからダメ」という強烈な拒否反応である。大都市圏から離れれば離れるほど、この傾向は強くなる。

「株式＝リスク＝悪」という直感的な拒否反応に対しては、地域再生を推進する組織に他の組織形態を取った場合と比較しながら、株式会社制度を採用することにどのようなメリットがあるのかの説明を丹念に行うしかない。株式会社制度は、同じ志を持った人々が自分の自由な意思でカネを出し株式を買って利潤追求を行う

ことを可能にした制度で、市民、企業、自治体、大学等が力を結集して地域の再生を目指すという目的には最適のシステムであるが、これを地域再生プレーヤーの共通認識とするまでには相当骨の折れる努力が必要となる。

もう1つは、株式会社制度を活用した地域再生プロジェクトを実行する場合のリスクの存在を認めた上で、それを「やる場合のリスク」と「やらない場合のリスク」を比較させるという方法がある。何らかのプロジェクトの採否決定に直面した時に考えるべきは、リスクがあるかないかではなく、それを採用した場合のリスクとこのままの状態が継続する場合のリスクを比較することである。そしてさらに、リスクに見合うリターンが獲得できるかどうかである。このような考え方の必要性がしっかり認識されれば、いくら株式会社制度にリスクがあっても、「現在のまま何もやらずに手をこまねていることのリスク」や、「新たな財源を確保せずに今後も官の施策に依存し続けるリスク」の方がはるかに大きいことが、多くの人々に理解されるはずである。さらに、そのリスクとの対比で考えれば、プロジェクトから期待されるリターンもある程度魅力的であるとの判断がなされるかも知れない。

(b) 前例がないことに対する拒否反応

株式に対する拒否反応と同様に、前例がないことに対する拒否反応も強い障害となりうる。近年、「街づくり会社」のように、自治体と商工業者の出資によって設立される会社は徐々に増えてきてはいるものの、持株会社形態を取って、個々の施策は傘下のプロジェクトカンパニーとして運営すること、一般企業や一般市民までも含めた広い範囲の地域再生プレーヤーを株主として巻き込んだ会社であること、地域再生に関連する地元企業を株式交換で傘下に編入すること、最終的には株式公開を志向していること、などの面は前例がないため、拒否反応が起こるのはある程度頷ける。

こうした拒否反応に対しては、この地域再生持株会社は固定的な形態ではなく、「持株会社に対する各主体の出資比率」や「プロジェクトカンパニーとして持株会社が手掛ける施策の種類や規模」を変化させることにより、どこにでもある街づくり会社にきわめて近い形から、自治体や商工会議所がこれまで手掛けてきたような地域再生関連の大部分の事業を持株会社の傘下に編入するような形まで、企業構造を自由にデザインすることが可能となることをアピールすべきである。その導入にあたって、自治体や市民が急激な変化を望まなければ、段階的に規模拡大や事業範囲の拡大を図ることも可能だし、自治体や商工会議所が行ってきた事業をPFⅠ等の手法を用いて一気に受託してしまうことも可能なのである。

(c) 出資比率の決定に関するコンフリクト

持株会社の出資比率をどうするかという点において、関係者間のコンフリクトが生ずることも多い。地域再生プロジェクトが「案外うまくいくかもしれない」という楽観的な見通しが持たれ始めると、なるべく出資比率を高めたいとの欲求が生まれるからである。

持株会社の出資比率に関しては、自治体の持株比率をどれくらいにするのか、どれくらいの割合を一般市民の持分にするのかなど、政策的観点で決定すべき性格を有した事項もあるが、それ以外の部分は、「地域再生プロジェクト推進へのこれまでの貢献度」や「将来的な期待貢献度」をある程度反映させるのが、最も不満が出にくく、かつモチベーションの高いプレーヤーの意欲を削がない方法である。したがって、意欲ある主体には個別施策の実行のためプロジェクトカンパニーをなるべく早めに先行設立してもらい、その後の持株会社との株式交換比率を有利にする努力（すなわち企業価値を高める努力）を促すのが望ましい。

(d) 経営陣の決定に関するコンフリクト

持株会社の経営陣の決定も、関係者間にコンフリクトを引き起こす要因である。出資比率同様、プロジェクトに有望度が認知され始めると、経営者への就任を望む人間が登場してくるからである。

ここで提案する地域再生持株会社方式によるプロジェクトが成功するか否かの最大の課題は、地域再生持株会社の経営陣やスタッフをいかにして確保するかにある。システム自体がいかに洗練されたものであっても、それを運営していく頭脳や能力なくしては、システムは有効に機能しないからである。したがって、従来からの地域内の力学で経営陣やそのスタッフを決めるようなことは避けなければならない。その点において、この方式の有する強みの一つは、エクイティ型のインセンティブシステムが容易にデザイン可能なことだろう。たとえば、ストックオプション等を活用して人材を広く公募するなどの、思い切った人材獲得策は必要不可欠である。

おわりに

ベンチャーの世界では、「有望な技術シーズや事業アイデアがありながら、それが成功する事業には結びつかない」という、技術とマーケットとの間に存在する深刻なギャップのことを“The Valley of Death”と呼ぶ。地域再生(地域振興、観光振興、まちづくり等)の世界においても、これと類似した「魅力的かつ有望な構想やプランが出来上がっているにもかかわらず、それが有効な地域再生には結びつかない」というきわめて悩ましい現象が全国至る所で発生している。地域再生プロジェクトは、検討・計画段階においてはきわめて威勢良く進むものの、ひとたび計画・検討段階が終わると、急にマインドが冷え込み、実施段階にまで到達しないか、実行段階に移行しても、本格的な実行段階に入る前の助走期間のうちにプロジェクトが自然消滅してしまうことがほとんどだからである。

地域再生プロジェクトに関しては、以前から「百戦百敗の世界」という皮肉が込められた言われ方がなされてきた。ベンチャーに関しては、「千(に)三つの世界」という言葉が流通してきたが、これと比べると、「地域再生の方がベンチャーよりもさらに成功確率が低い」という悲観的なイメージが世間に行き渡っていることになる。確かに全国を見渡しても、地域再生プロジェクトが成功を収めたというケースはきわめて稀である(何をもって成功と判断するかにもよるが)。成功事例として持て囃されるのは、神戸や金沢など、ほとんどがもともと何もしなくても人が集まってくる場所(そう言われたら、地域再生に携わってきた方々は心外だろうが)であるとも言える。

地域再生プロジェクトが成功しない原因は、次の5つのレベルに分類することができる。

地域の人々が地域再生の必要性を感じていない。

地域再生の必要性は感じているものの、地域再生に関するプラン作りを行っていない。

地域再生プランは策定したものの、実行段階に移行していない。

実行段階には移行したものの、本格的な実行段階に入る前の助走期間のうちにプロジェクトがフェードアウトしてしまった。

本格的な実行段階に移行したものの失敗してしまった。

これらのうち、 のレベルに留まっている地域は、わが国にはわずかしが存在しない。相対的にみれば豊かな地域でさえも、バブルの絶頂期と比べればかなりの経済的な落ち込みが観察されることから、程度の差こそあれ地域再生の必要性に関する認識は地域の人々に共有されている。そして、地域再生の必要性が認識されれば、自治体、経済団体、市民団体等の主導により、地域再生プランの策定を目的とした委員会や協議会が立ち上げられ、そこで何らかのプランや報告書が作られる。このようにして、 のレベルはほとんどの地域がクリアすることになるのである。

問題はその先である。検討・計画段階から実行段階への移行のハードルはきわめて高いと言える。せっかく作られたプランや報告書は、立派な冊子にまとめられ、場合によっては報告会などのお披露目のセレモニーが開催されるものの、計画を立てることが最終目的であったかのようにそのまま葬り去られてしまうことが非常に多いのだ。プランの策定から速やかに実行段階に移行しない限りは、そのプランに再び脚光が当たる可能性はさらに低くなる。時間が経過してしまえば、地域を取り巻く環境は変化し、再度プラン作りが必要となるからである。こうして多くの地域再生プロジェクトは、Ⅰのレベルでストップすることとなるのである。

幸いプロジェクトが実行段階に移行したとしても、ほとんどの場合は、自治体の予算や地域再生目的の補助金で必要経費が賄われる間だけは何とかプロジェクトは進行するものの、資金的な裏付けが無くなった段階で活動が縮小あるいは自然消滅することになる。資金の問題ではなく、一向に効果が見えない中で気迷い気分が起こり、活動がフェードアウトしていくというのもよく見られるケースである。こうしたプロジェクトの助走段階でドロップアウトしては、成功まで漕ぎ着けられるわけがない。これが成功に至らないⅡレベルの原因である。

地域再生プロジェクトは、上記のⅠとⅡをクリアしてはじめて、プロジェクトの成否を決する真剣勝負のスタートラインに立つことになるが、この段階に到達するプロジェクトは驚くほど少ないものである。地域再生プロジェクトは、このスタートラインに立つことができたとしても、まだまだ険しい成功までの道のりが待っている。地域再生の成功確率はきわめて低く、Ⅲのように失敗に終わることはいくらでも考えられる。ただ、全国各地の地域再生プロジェクトが成功できないのは、この成功確率の低さが第1の原因ではないのだ。そもそも成否を決するスタートラインに並ぶ前にゲームから脱落してしまうからなのである。スタートラインに並ばない以上、「百戦百敗」に近い状態になるのは当然とも言える。

こうした現象こそが、地域再生版の“The Valley of Death”であるが、前橋が今きわめて重要な局面に差し掛かっていることは言うまでもない。他の地域を参考にすれば、かなりの確率で、前橋はここでドロップアウトするはずだからである。

本報告書は、単に本年度の成果報告書にとどまらない。後半部はまさに、前橋がこの地域再生版“The Valley of Death”に陥らないための方策が綴られている。その中でも特に重要なのが、最終節の「推進体制」だ。全国各地で展開されてきたさまざまな地域再生プロジェクトの経緯や末路を分析すると、この推進体制をどう作るかで、プロジェクトの行く末も決まってしまうと言っても過言ではないからである。

前橋の地域再生に関わるすべての者が、スタートラインに並ぶ決意を固めよう。前橋が「百戦百敗」の世界で勝利をおさめるために……。

～ 活力あるまち前橋の創造 ～

「100年に一度」の不況が直撃し時代は大きな転換期を迎えている。金融、環境・エネルギー、さらには資本主義の枠組みさえもが問い直される中、持続可能な地域の発展のためには明確な将来ビジョンを打ち出し活力ある街づくりを創造していく必要がある。

ウェルネスツーリズム推進協議会では、暮らしと街づくりがしっかりと連携することにより新たな産業を興すことが可能であると考えている。そのために人口減少・高齢化・財政逼迫・環境などの問題に対応し市民が安心・安全・快適に暮らせる魅力ある街づくりを目指して「健康医療都市構想」の一つである今回のプロジェクトを実施した。

この事業を展開する中で、様々な方々との出会いを通して多くのことを学ぶとともに課題や問題点も見えてきたことから、それらを整理することによりその実現の可能性があることを確信した。

また、心の豊かさを求める時代だからこそ健常者だけではなく障害者や高齢者などにも対応した受け入れ体制の整備と、それを支えるための人材教育を実施することにより地域一体となっておもてなしを行う都市こそが真の健康医療都市だと考える。

そのためにも、地域でともに支えあうネットワークづくりの構築が必要であろう。個々の力をお互いに知り、理解しあい、連携することにより、新たな魅力ある活性化事業を展開し、前橋モデルとして成り立つ仕組みを構築したい。そこで、こうした取組に積極的に参画したい企業や施設担当者を集め、今までにないビジネス交流会を実施し、新しい形の観光ツアーやビジネスマッチングを模索するとともに、受け入れ体制の充実を図るための研修事業を定期的の実施したいと考える。

今後は、行政・教育機関・市民団体・産業界など産学官民が連携して生活者の視点に立ちながら、あらゆる角度から事業化の検討を行い、活力ある前橋を創造したいと考える。

参考文献

Ottawa Charter for Health Promotion Ottawa, 21 November 1986 WHO

Jakarta Declaration on Leading Health Promotion into the 21st Century 1997
WHO

科学技術・学術審議会「長期的展望に立つ脳科学研究の基本的構想及び推進方
策について～総合的人間科学の構築と社会への貢献を目指して～

(第1次答申案(中間取りまとめ))」2009年6月

Delta Society, AnimalAssisted Therapy 1996

平成 21 年度地方元気再生推進調査
「高度医療拠点を契機にした健康ツアー
(ウェルネスツーリズム)整備事業化プロジェクト」
報 告 書

平成 22 年 3 月

発 行 : 経済産業省 関東経済産業局

〒330-9715 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地1

調査委託先 : ウェルネスツーリズム推進協議会

